

庶務・末寺財産保護及例施行手續 寺院境内等書入質ニ關スル件

(全員連署ノ事)

何々組長 何 誰印

執行御中

(第六號書式)二通ヲ要ス

具申書

一、當(別院寺等)勘定員(若クハ檀家總代)何誰ハ別紙末寺財産保護條例第何條ノ申請書(若クハ届書)ニ何々ノ理由ヲ以テ連署ヲ拒ムニ付他ノ干與者ノ連署ヲ以テ申請(若クハ届出)致置候條相當ノ御指揮相成度候也

年月日

住所何別院(若クハ何寺)輪番(若クハ住職或ハ聖事) 何 誰印

同寺勘定員(或ハ檀家總代) 何 誰印

(承諾者ノミ連署ノ事) 何々組長 何 誰印

與書

執行御中

○寺院境内等書入質ニ關スル件

(明治二十三年十月乙達第六號)

別紙ノ通内務省社寺局長ヨリ通牒相成候此旨爲心得各寺へ通達スヘシ

(別紙)

局第二號 寺院境内及ヒ庫裡書入質ノ儀ニ付京都府何ニ對シ境内地及ヒ本堂庫裡ノ儀ハ法用ニ必要ナル箇處ニ付抵當不相成旨本月三日付ヲ以テ指令相成候條爲心得此段申進候也

明治二十三年八月十五日

社寺局長 國重正文 眞宗本願寺派管長大谷光尊殿

○内務省達寺院財産規定ニ關スル件

(明治十五年四月甲達番外)

昨十四年内務省第三十三號達即寺院檀家總代選定並收入財産區分豫約之儀追々各府縣ニ於テ實施可相成處一般末寺中從前之慣行一準ナラサルニ付往々其措置ニ困却致居候向モ有之趣萬一ニモ朝旨ヲ誤解シ豫約其宜ヲ得サルトキハ却テ後來不測之弊害ヲ醸成センモ難計ニ付別紙豫約之概略及告示候尤其詳細ニ至テハ實際各地方寺院ノ情態ニヨリ斟酌之上不都合無之様豫約致可此段諭達候事

豫約概略

- 第一條 境内外及持添田畑山林等都テ寺號受之地所ハ共有物トシ住職及總代人ニ於テ保存シ萬一書入賣却ニ際シテハ住職及總代人協議之上官廳之許可ヲ得テ履行スルモノトス
- 第二條 前條共有地之所得亦共有ニ屬シ住職及總代人ニ於テ保存シ其支出ニ在テハ住職及總代人協議之上取計フモノトス
- 第三條 賽物ハ佛祖之供養費ニ充テ葬儀誦經等ノ施物ハ住職ニ屬スル者トス

庶務・内務省達寺院財産規定ニ關スル件 末寺寺院地所建物保存規約

○末寺寺院地所建物保存規約

(明治十一年十一月乙第八十九號)

今般末寺地所建物保存規約別紙之通取定候條此段相達

末寺僧侶中

庶務・末寺院地所建物保存規約

候事 (別紙)

末寺院地所建物保存規約

本宗ノ寺院ハ從前世襲ノ風習ナルヲ以テ所有ノ地所建物等モ普通一般ノ寺院ニ同シカラサル者アリ假令ハ某有ノ開基某ナル者私有ノ居宅ヲ以テ寺院ニ引直シ或ハ幾世前ノ住職私金ヲ以テ地所ヲ購求シテ某寺ヲ移シ爾來某子孫連綿相續住持シテ租稅ヲ納メ民費ヲ辨シ其建物モ本堂ハ共有ニ屬スト雖モ庫裡ハ固ヨリ住職或ハ祖先ノ私金ヲ以テ其居住ノ爲ニ建設スル者ニシテ其寺ニ寄附セシ確證ナク且ツ修繕モ全ク住職一己ノ資力ニ成リ嘗テ門徒ノ扶助ヲ請ハサルヲ以テ門徒モ亦其住職ノ所有タルヲ確證シ已ニ其地券モ住職某ノ名受テ以テシ純然タル私有ノ體裁ヲ爲ス者ノ如キ或ハ之ヲ入質賣却スルモ其所有者ノ自由ニ任セサルヲ得ス果シテ然ラハ其土地ヲ典シ其建物ヲ賣リ遂ニ一寺ノ廢亡ヲ招致スル者ナキヲ保シ難シ或ハ又私有地ニ共有ノ建物アリ共有地ニ私有ノ建物アリテ其分界判然セサル類ノ如キ者亦少シトセス故ニ今派内限リ寺院地所建物保存申合規約ヲ設ケ後來紛爭廢亡ノ患ナカラシメントス即其條件左ノ如シ

- 第一條 官有地ノ建物ハ都テ共有タルヘシ
- 第二條 共有地ノ建物ハ亦其共有タル勿論ト雖隱居所茶室書齋物置等法要必需ノ都合ニアラスシテ全ク住職又ハ其祖先ノ私金ヲ以テ建設セシ向ハ借地ノ振合ニ準シ住職ト門徒トノ間ニ於テ約定書ヲ交換スヘシ
- 第三條 共有地ヲ他ノ人民ヘ貸與スルトキハ其期限及借地料ヲ詳記シタル約定書ヲ交換シ共有地全部ノ畫圖ヲ製シ貸與ノ分ハ朱引ニテ區劃シ一覽ニ便ナラシムヘシ但シ本條ノ約定書ニハ住職並ニ門徒總代二名以上連署シ借主ニ於テ確手タル保證人ヲ立テ連署セシメ都テ市町村長ノ奥印ヲ請フヘシ
- 第四條 境内全分又ハ幾分他ノ借地ニ屬スル分ハ該借地證書ヘ住職檀家連署組長ノ奥印ヲ請置ヘシ但シ境内共有地貸地ノ分界ハ前條ノ如ク畫圖ヲ製シ置クヘシ
- 第五條 私有地ノ建物ハ其建物ハ其建築修繕ノ次第ヲ追テ共有特有ノ分界ヲ判スヘシ
- 第六條 私有地ニ設置スル共有ノ建物ハ住職ヨリハ其數地ヲ擅ニ典賣セサルヘク門徒ヨリハ其修理ヲ負擔スヘキ旨ヲ明記シタル約定書ヲ交換スヘシ

庶務・末寺院地所建物保存規約

第七條 地所並ニ建物ノ内庫裡共スヘテ住職ノ私有ナル者ハ其住職ヨリ法類並ニ門徒ニ對シ擅ニ之ヲ典賣セス若シ止ムヲ得サル事故アリテ質入書入或ハ賣却セント欲スルトキハ必ス協議可致又若シ他姓ノ者其寺ノ後住職ナルトキハ其身或ハ相續人ヨリ相當ノ代價ヲ以テ讓リ渡スヘキ旨ヲ明記シ法類門徒ヨリ必ス讓リ受ヘキ旨ヲ記シタル約定書ヲ交換スヘシ但シ本條ノ約定ナラス者ハ庫裡或ハ書院玄關等法要ノ需用ニ係ル建物ニ限ル儀ニ付其他私有ノ建物所謂隱居所茶室等ノ如キハ無論所有者ノ自由ニ任スヘシ

第八條 私有地ニ於テ住職或ハ其祖先一己ノ資力ヲ以テ建築シタル確證アリト雖モ左ニ掲載スル分ハ其建築シタル住職ヨリ該寺ヘ寄附ノ姿ヲナセシ者ナレハ舊教部省五年十一月第二十九號達書ニ準シ之ヲ共有物ト確定スヘシ

- 一、本堂
- 一、經藏
- 一、鐘樓
- 一、太鼓樓
- 一、表門

- 一、茶室
  - 一、鹽湫所
- 但シ本堂庫裡ヲ一棟内ニ合併シタル向モ本條ニ準スヘク建添ノ分ハ第五條ニ據ルヘシ
- 第九條 第二條第六條第七條ノ約定書ニハ必ス組長ノ奥印ヲ受クヘシ
- 第十條 前條各種ノ約定書ヲ交換セシトキハ其雙方約定書ノ寫ニ組長ノ奥書ヲ乞ヒ届出ハ本山執行所ニ限ルヘシ
- 第十一條 前條各種ノ約定書面ニハ雙方共ニ棟數建坪ヲ詳記シ自後協議ノ上建添或ハ取毀ヲタルトキハ其事由ヲ裏書シ第九條ノ手續ヲ以テ其都度執行所或ハ其教區教務所ヘ届出ヘシ
- 第十二條 民有ノ境内地ニ第七條ニ掲タル所ノ建物ヲ質入又ハ賣渡等致度節ハ住職檀家協議連署ヲ以テ本山ノ認可ヲ經地方廳ヘ申立ヘシ

庶務・末寺本堂等濫ニ貸與スヘカラサル件 末寺本堂使用ニ關スル件

○末寺本堂等濫リニ貸與ス可カラサル件

(明治二十三年六月 訓告第五號)

各寺本堂ハ宗教宣布ノ道場ニシテ之ニ附屬スル書院ト雖モ布教用ニ供スル場所ナレハ政談若クハ政黨ニ關スル會合ハ勿論其他宗教ニ關セサル會合ニ貸與相成ラス此段訓告ス

○重懲戒處分免除者身分復舊取扱手續

(大正十年九月 甲達第二十四號)

今般重懲戒處分免除者身分復舊取扱手續別記ノ通り改定ス

但シ赦免特免ニ係ルモノハ其都度發布ノ令ニ依ル

(別記)

罷教士處分ヲ免除セラレタル者ハ同時ニ左ノ資格ニ復スルモノトス

但シ從來受ケタル賞典恩典名譽ノ表彰ハ復舊セス

一、檢定又ハ認定ヲ要セスシテ教士ニ補セラルヘキ資格

右教士出願ノ場合ハ改メテ成規ノ薦舉狀ニ教會金ヲ添ヘ提出ノ事

免任職處分ヲ免除セラレタル者ハ同時ニ左ノ資格ニ復スルモノトス

但シ從來受ケタル賞典恩典名譽ノ表彰ハ復舊セス

一、前住職ノ資格

右住職出願ノ場合ハ成規ノ願書ニ繼席冥加ヲ添ヘ提出ノ事、堂班衣體冥加ハ免除ス

二、學階ヲ有セシ者ハ其學階ニ復ス

○末寺本堂使用ニ關スル件

(明治四十三年十月 訓告第五號)

本堂並ニ附屬建造物ハ宗教宣布ノ機關タルヲ勿論ニシテ寺院ノ體面ヲ汚損スルカ如キハ堅ク之ヲ禁スル處ナリト雖モ俗諦ノ教旨ヲ發揮スヘキ風教ノ開發產業ノ獎勵等有益ナル講演ノ爲ニハ之ヲ使用シ益々社會ニ貢獻センコトヲ期スヘシ特ニ訓告ス

罷教士處分ヲ免除セラレタル者ハ同時ニ左ノ資格ニ復スルモノトス

但シ從來受ケタル賞典恩典名譽ノ表彰並ニ學階ハ復舊セス

一、檢定又ハ認定ヲ要セスシテ教師又ハ教師試補ニ補セラルヘキ資格

右教師又ハ教師試補出願ノ場合ハ成規ノ薦舉狀ニ教會金ヲ添ヘ提出ノ事

二、住職タリシ者ハ前住職ノ資格

右住職出願ノ場合ハ免任職處分免除者同様手續ノ事

三、學階ヲ有セシ者ハ豫試本試験等ヲ要セスシテ從來ノ學階ヲ授與セラルヘキ資格

右學階出願ノ場合ハ成規ノ願書ニ學籍料ヲ添ヘ提出ノ事

奪度牒處分ヲ免除セラレタル者ハ改メテ得度式ヲ受ケタル後左ノ資格ニ復スルモノトス

但シ從來受ケタル賞典恩典名譽ノ表彰並ニ學階及法滿ハ復舊セス

一、試験ヲ要セスシテ得度式ヲ受クヘキ資格

右得度出願ノ場合ハ成規ノ願書ニ冥加ヲ添ヘ提出

庶務・重懲戒處分免除者身分復舊取扱手續

新寺建立並ニ寺跡移轉規程

○新寺建立並ニ寺跡移轉規程

(明治四十二年五月 甲教示第十四號)

第一條 新寺ヲ建立シ又ハ寺跡ヲ移轉セント欲スル時ハ新建又ハ移轉豫定地ノ組内法類二名ノ連署ヲ要ス

第二條 左記ノ場合ニハ前條ノ例ニ依ラス本山ハ其新建若クハ移轉ヲ許可ス

一、新建若クハ移轉スヘキ寺院豫定地ノ周圍一里平方以内ニ人口二千ニ付既設寺院一ヶ寺未滿ノ時但シ人口ハ最近ノ人口統計ニ依ル

庶務・新寺建立並ニ寺跡移轉規程 新寺ハ平僧地タルヘキ件 說教所設置及管理規程

二、山間原野島嶼等交通隔絶セル所  
三、新移民地

第三條 新建又ハ移轉ニ關シテハ動産不動産等ヨリ生  
スル資金其寺院ノ經濟ヲ支持スルニ足ルヘキ方法ノ  
確立ヲ要ス

第四條 寺院ノ敷地及建物ハ必ス寺有トスヘシ

第五條 移轉ニ付テハ從來ノ敷地建物及寺有財産ヲ減  
縮スルヲ許サス

第六條 本件ニ關スル願記ハ組長(第二條ノ場合ヲ除  
ク)管事ヲ經由シ兩組又ハ兩敷區ニ互ル時ハ關係組  
長及管事ノ與印ヲ要ス

第七條 第一條又ハ第六條ノ調印ヲ相當ノ理由ナクシ  
テ拒ム時ハ事務爭議審査員會ニ訴願スルコトヲ得

此教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

附則

○新寺ハ平僧地タルヘキ件(明治十五年八月  
甲達第二十九號)

新寺建立及說教所等一寺ニ引直シ相成候向ハ都テ平僧  
地ニ取扱候條此旨相達候事

(附記 新寺住職等衣體ノ件衣體部ニアリ)

○說教所設置及管理規程

(明治四十一年八月) 明治四十六年  
甲達第二十八號 同 一三六八

第一章 設置

第一條 說教所ハ宗教宣布ノ道場ナレハ其體面ヲ汚ス  
カ如キ事ニ使用スヘカラス

第二條 說教所ハ寺院僅少又ハ遠隔ノ地方ニシテ聞法  
不便ノ場所ニ限リ設立スルモノナレハ本派寺院多キ  
地方ニ於テハ設立スヘカラス

庶務・說教所設置及管理規程

但シ人家稠密ノ都市若クハ新開地ニシテ設置ノ必  
要ヲ認ムルトキハ本條ノ限リニアラス

第三條 說教所ニハ五十戸以上ノ所屬信徒ヲ要ス故ニ  
信徒名簿ヲ製シ各自記名調印ノ上設置出願書ニ添ヘ  
テ本山ニ差出スヘシ

第四條 說教所ニハ金五百圓以上ノ維持金ヲ備ヘ置ク  
ヘシ

第五條 但シ不動産公債證書又ハ株券ヲ以テスルモ妨ナシ  
說教所設置願主並ニ擔任教師ハ一寺住職又ハ  
教師ニ限ル

第六條 一町村甲乙二ヶ寺以上ノ檀徒共同シ說教所ヲ  
設立セントスル場合ニ於テハ甲乙兩寺ノ住職連署シ  
テ出願スヘシ

第七條 他人ノ所有地及ヒ建物ヲ買受又ハ借受說教所  
ヲ設置セントスル者ハ買受ノ場合ハ讓受登記済ノ騰  
本若クハ讓受契約書借受ノ場合ハ借受登記済ノ騰本  
若クハ借受契約書ヲ設置願書ニ添ヘテ差出スヘシ

第八條 說教所ノ敷地總坪敷地價建築物設計圖案等詳  
細ニ相認メ願書ニ添テ差出スヘシ

第九條 說教所ノ設置ヲ出願セントスル者ハ政府ノ規  
程ニ基キ左ノ甲乙號書式ニ準シ當該組長管事ヲ經由

ノ本山ニ差出スヘシ  
但シ本山指定ノ場合ハ法類總代ノ連署ヲ要セス  
甲號書式  
說教所設置御添書願

(壹通)(美濃罫紙ノコト)

今般開法上ノ便宜ニ依リ別紙之通說教所設置ノ儀出願  
致度候ニ付御審查ノ上御差支無之候ハ、御添書御下附  
被成下度附近寺院分布圖相添ヘ此段奉願候也

年月日

府 縣 郡 村 番地

何組何寺住職(又ハ教師)

設置願主 姓 名

府 縣 郡 村 番地 信徒總代 姓 名

府 縣 郡 村 番地 信徒總代 姓 名

府 縣 郡 村 番地 信徒總代 姓 名

府 縣 郡 村 番地 信徒總代 姓 名

府 縣 郡 村 番地 何組何寺住職

法類總代 姓 名

庶者・説教所設置及管理規程

府 縣 郡 村 番地

法類總代 姓

名

- 一、右法類總代ハ法類參與規程第五條第六條ニ準シ其手續ヲ經タル後ヲ連署スヘシ
- 二、設立地ニシテ他組寺院ニ關係ヲ有スル場合ハ前項ノ外寺院住職ノ承諾書ヲ添付スヘシ

組長管事與書ノコト

本山 執行 御中

乙號書式

(各地方廳ノ規則モアリ一定シ難キモ大體ハ本書式ニ依ルヘシ)

眞宗本願寺派説教所設置願

(正副二通)(美濃野紙ノコト)

今般開法ノ便宜ヲ以テ左記事項ニ據リ説教所設置致度候ニ付御許可被成下度關係書類並ニ管長添書相添ヘ此段奉願候也

- 一、設立ヲ要スル理由
- 交通不便等ノ理由詳細ニ記入スヘシ
- 二、所在地
- 何縣何郡何村何番地何某所有地
- 必ス土地臺帳謄本ヲ添ヘ他人ノ所有地ナル時ハ登

記借受契約書ヲ添付スヘシ

三、説教所名稱

眞宗本願寺派何々説教所

四、安置佛ノ稱號

本尊阿彌陀佛

五、設立ヲ終ルヘキ期限

別紙設計書ノ通り御許可ノ日ヨリ何月何日限リ既

設ノ分ハ其旨ヲ記シ他人ノ所有建物ナル時ハ登記

済借受契約書添付スヘシ

六、布教方法

毎月何日ヨリ何日迄擔任教師出張布教及時々知名

ノ師ヲ聘シ布教ヲナス等

七、管理及維持方法

維持金何々圓(五百圓以上ノ預金、公債貸付證書

寫等添付)ノ果實其他ノ收入ヲ以テ別紙豫算書(收

支共明記ノ事)ニ基キ維持シ管理者(又ハ信徒總

代)ニ於テ其事務ヲ取扱フ

八、管理者並ニ擔任教師 氏名

府縣郡村何寺住職(又ハ教師)何某

履歷書戶籍謄本及身元證明書添付

租シ管理者ノ擔任教師ト別人ナル時ハ各別ニ記

スヘシ

九、信徒總代

信徒中ヨリ選舉セル信徒總代ハ二名以上ヲ設ケ管理ノ指揮ニ從ヘ説教所ノ維持ニ盡力シ諸願記等ニ連署スルモノトス(信徒總代ニ於テ會計事務ヲ取扱フモノハ其旨併記スヘシ)

十、境内見取圖並建物圖面

別紙ノ通り但シ建物ハ其間取り間數等記入セル平面圖境内見取圖ハ建物ノ位置及坪數方角四隣狀況ヲ記セル圖面

十一、信徒名簿

別冊之通

十二、設立費及其支辨方法

別紙ノ通り

新築スルモノハ其經費雜費ヲ又借受スルモノハ該

家屋ノ貸借契約書並ニ雜費ヲ何レモ其出途ヲモ詳

記シ寄付ニ係ルモノハ其旨明記スヘシ

府 縣 郡 村 番地

眞宗本願寺派何寺住職(又ハ教師)

設置願主 姓

名

府 縣 郡 村 番地

庶務・説教所設置及管理規程

信徒總代 姓 名

府 縣 郡 村 番地

信徒總代 姓 名

府 縣 郡 村 番地

何組何寺住職 名

府 縣 郡 村 番地

法類總代 姓 名

府 縣 郡 村 番地

何組何寺住職 名

府 縣 郡 村 番地

法類總代 姓 名

府 縣 郡 村 番地

何府縣知事 何 某殿

府 縣 郡 村 番地

但シ本山指定ノ場合ハ法類總代ノ連署ヲ要セス

第十條 前條官廳ノ許可アリタルトキハ三十日以内ニ

左ノ書式ニ依リ當該組長管事ヲ經由ノ上出願スヘシ

(書式)(用紙美濃野紙)

説教所記録御記入願(貳通)

何年何月何日ヲ以テ出願致候説教所設立願ノ件別紙之

通御許可相成候ニ付御記録へ御記入被成下度指令本紙

並ニ寫相添ヘ此段奉願候也

府 縣 郡 村 番地

何組何寺住職

庶務・説教所設置及管理規程

設置願主	姓	名
府 縣 郡 村 番地		
信徒總代	姓	名
府 縣 郡 村 番地		
信徒總代	姓	名
年 月 日		

本山執行御中

第十一條 本山ヨリ實際開法ノ不便ヲ認メ直接設立スルモノハ別ニ法ヲ定ム

第二章 管 理

第十二條 説教所ニハ左ノ帳簿ヲ備ヘ置キ各事項ヲ詳記シ管理者並ニ信徒總代捺印スヘシ

一 説教所臺帳 設立手續沿革管理者擔任教師並信徒總代任免及寶物財産等

一 布教日誌開座年月日教師姓名參詣數其他特ニ記入スヘキ件

一 金錢支拂帳 維持資金並ニ毎月收支一金錢支拂帳 支出ニ付詳細記入スヘシ

第十三條 説教所ハ毎月必ス五日間以上ノ常例布教ノ開座ヲ要ス

第十四條 説教所ニハ管理者並ニ擔任教師ヲ置ク

但シ相互兼任スルモ妨ナシ

第十五條 管理者ハ設立當時ノ願主ヲ以テ之ニ充テ説教所ノ維持發展ヲ計ルヲ以テ任務トス

但シ設立許可後別人ヲ選定スルモ妨ナシ

第十六條 擔任教師ハ所屬信徒ノ教導ヲ專務トシ管理者ヲ兼スル場合ハ傍ラ前條ノ事務ヲ處理ス

第十七條 管理者並ニ擔任教師ハ本立説教所ニ在リテハ本山之ヲ任命シ私立説教所ニ在リテハ設立者並ニ信徒總代ノ推薦ニ依リ本山之ヲ認可ス

但シ地方長官ハ届出ノ手續ヲスヘシ

第十八條 信徒總代ハ信徒中ヨリ二名以上ヲ選舉シ地方廳及本山ニ届出ツヘシ

但シ本山ハ届出ツルモノニハ市町村長ノ證明書ヲ添付スヘシ

第十九條 説教所管理者擔任教師及信徒總代ニ於テ死亡又ハ異動ヲ生シタル時ハ後任者ニ付直ニ左之通手續ヲナスヘシ

一 管理者ハ擔任教師並ニ信徒總代ヨリ認可願ヲ差出スヘシ

一 擔任教師ハ管理者並ニ信徒總代ヨリ認可願ヲ差出スヘシ

本規程發布ト共ニ明治三十年甲寅第三十二號説教所設置手續ハ消滅ニ屬ス

○説教所ニ於ケル御影之件

(明治十四年十二月 達第三十號)

各府縣下

末寺僧侶中

今般内務省ヨリ別紙之通戊第三號ヲ以御達有之候ニ付今後説教所ヨリ諸御影安置出願候トモ御下附不相成候尙從前御下附相成居候向モ説教之節ヲ除ノ外平素衆庶ニ不令參拜様注意致シ都テ内務省御達之旨ニ概觸不致様可相心得此段相達候事

(別紙) 戊第三號

神道總裁

庶務・説教所設置及管理規程 説教所ニ於ケル御影之件

一 信徒總代ハ管理者並ニ信徒總代ヨリ届出ヘシ

但シ管理者擔任教師同一人ノ場合ハ單ニ信徒總代ヨリ右ノ手續ヲ行フ

一 信徒總代異動ノ場合ハ第十八條ノ手續ヲナスヘシ

第二十條 擔任教師ハ毎年半期毎ニ信徒ノ増減及布教報告ヲ差第スヘシ

但シ本山立ノモノハ所屬管掌私立ノモノハ組長管掌ヲ經由スヘシ

第二十一條 會計擔任者ハ毎月ノ收支決算表ヲ製シ管理者及信徒總代連署ノ上前條但書ノ手續ニ依リ本山ヘ差出スヘシ

第二十二條 説教所維持資金ハ一ケ年ニ一度本山ノ検査ヲ乞フヘシ本山ヨリ臨時ニ出張シテ檢閱スルコトアルヘシ

第二十三條 説教所ニシテ他人ノ所有地ヲ買受又ハ借受ケントスル場合及説教所ノ所有地ヲ他人ニ貸與又ハ賣却セントスル場合ハ必ス本山ニ伺出テ認可ヲ受クルヲ要ス右認可ヲ得タル上ハ賃借受授ノ登記濟磨本又ハ契約證本紙相添ヘ速ニ本山ニ届出ヘシ

第二十四條 説教所移轉廢合修繕等ノ場合ニハ必ス本山及地方廳ニ其手續スヘシ

庶務・説教所ニ於ケル御影之件 説教所ニ於テ葬儀執行之件

神佛各管長

敎院敎會所説教所等ニ於テ葬祭ヲ執行シ或ハ衆庶ニ  
參拜セシムル等神社寺院ノ所爲ニ倣フモノ有之候テ  
ハ不都合ニ候條心得違無之様可致此旨相違候事

明治十四年十月三日

内務卿松方正義代理

内務大輔 土方 久元

説教所ニ於テ葬儀執行ノ儀ハ明治十四年内務省達  
第三號ヲ以テ禁セラレタリシモ同十八年社寺局通牒  
第百二號ヲ以テ左記ノ通り通知アリシヲ以テ葬儀ヲ  
執行スルモ差支ナシ

府 縣

昨十七年太政官第二十五號ヲ以テ墓地及ヒ埋葬取締  
規則布達相成候處神佛敎院敎會所説教所等ハ規則第  
六條家屋構内ニ含蓄シタル儀ト御心得可有之此段申  
進候也

(參照)

墓地及埋葬取締規則抄

(明治十七年十月四日)  
太政官布達第廿五號

第六務 葬儀ハ寺堂若クハ家屋構内又ハ墓地若クハ  
火葬場ニ於テ行フヘシ

○説教所ニ於テ葬儀執行之件

(明治十五年六月)  
指 令

説教所ニ於テ葬儀執行ニ關スル何書ニ對シ指令左ノ如  
シ

御 伺

説教所ニ於テ葬儀ヲ執行スルモ差支無キヤノ件

右ニ對スル指令

○説教所並敎師私宅ト寺院ト區別之件

(明治二十八年四月)  
甲 達 第九 號

今般社甲第六號ヲ以テ敎陣敎院所又ハ説教所ニ於テ其  
祭神若クハ安置佛ノ爲メニスル場合ノ外ハ祭典法要ヲ  
執行スルコトヲ得ス且其祭典法要ノ時タルト平時タル  
トヲ問ハス社寺及祠宇ニ類似スル裝飾ヲ爲シ衆庶ヲ參  
拜セシムル等ハ不相成儀ニ有之又敎師ハ敎院敎會所又  
ハ説教所ニ居住スルモノ、外ハ自宅ニ多衆ヲ集メ説教  
ヲ爲スヲ得サル旨社寺局長ヨリ通牒有之候ニ付寺院ト  
説教所ト敎師ノ自宅トノ區別ヲ堅ク相辨ヘ必ス之ヲ混  
同ノ所爲有之間敷尤モ信徒ノ招聘ニ依リ人民ノ家屋等  
ニ於テ一時説教修行致シ候儀ハ明治二十四年内務省訓  
第八九四號之通ニ候條此旨相心得ヘシ

○堂宇改築ニ付心得之件 (明治四十二年八月)

訓 告 第十 號

最近交通機關ノ發達ニ隨ヒ各地方ノ盛衰變遷ハ從來寺  
院分布ノ形勢ト自ラ其狀態ヲ異ニスルニ至レリ依テ各  
末寺ニ於テハ今後堂宇ノ改築ヲ爲サントスル際徒ニ舊  
慣ニ泥マス偏重ヲ避ケ特ニ地ノ利ヲ選ビ以テ將來ノ教  
勢發展ト經營維持トノ便宜ヲ謀リ一層布教機關ノ功用  
ヲ増大セシムヘキ様注意致スヘシ

右特ニ訓告ス

○寺院合併ニ付心得之件 (明治四十年二月)

訓 告 第一 號

昨年勅令第二百二十號發布ニ付微力少禮ノ寺院ハ往々  
之ヲ以テ口實トシ或ハ強迫或ハ阿諛種々ノ術策ヲ弄シ

庶務・説教所並敎師私宅ト寺院ト區別之件

堂宇改築ニ付心得之件 寺院合併ニ付心得之件

庶務・寺院合併ニ付心得之件 勅令社寺合併ニ關スル訓告之件

自家へ轉禮ヲ勸誘致者有之哉ニ相聞へ候處右ハ派内ノ和合ヲ破リ閑齋ノ端ヲ啓ク儀ニ有之候條萬一斯ノ如キ行爲有之候時ハ屹度處分ニ及フヘク此段訓告ス

(參照)

勅令第二百二十號(明治三十九年八月九日發布)

神社寺院佛堂ノ合併ニ因リ不用ニ歸シタル境内官有地ハ官有財産管理上必要ノモノヲ除クノ外内務大臣ニ於テ之ヲ合併シタル神社寺院佛堂ニ讓與スルコトヲ得

○勅令社寺合併ニ關スル訓告之件

(明治四十年三月 訓告第二號)

過般勅令第二百二十號ヲ以テ社寺合併跡地讓與ノ件發

布相成候ニ付テハ派内寺院ニアリテモ往々旨趣ヲ誤解シ種々疑懼ヲ抱キ候向モ有之哉ニ相聞へ候處右ハ寺院中境内荒廢シ堂宇頽破シ勤行法要等行ハレスシテ僅ニ其名ヲ存スルニ過キス畢竟少禮微力ニシテ維持ニ困難ナ極ムルカ如キハ適宜寺院ヲ合併シ以テ資力ヲ鞏固ニシ永ク其ノ基礎ヲ確實ナラシメントノ主意ニ外ナラス固ヨリ信教自由ノ今日恣ニ宗教ノ迫害ヲ企テ其勢力ヲ殺滅セントセラル、カ如キ所以ニ非サルハ當時宗教局長カ各地方長官及各宗派管長へ與へラレタル傳達ニヨリテ明カナリ、然レハ各地方廳ニ於テモ勅令ノ旨趣ヲ體シ周密ノ注意ニヨリテ夫々整理ノ方法ヲ獎勵シ壓制ケ間數干涉ニ出テラレサルヘク候條各寺院ニ於テモ宜シク勅令ノ旨趣ニ遵ヒ或ハ堂宇頽破シ容易ニ復舊ノ見込ナキモノ或ハ住職若クハ兼務住職ヲ得サル無住寺院ニシテ法務ヲ執行ヒ能ハサルモノ或ハ少禮若クハ無實力ノ爲メ維持困難ニシテ寺院ノ尊嚴ヲ保チ難ク却テ信徒ノ敬仰ヲ薄フスルモノ、如キハ此際一時ノ感情ニ制セラル、コトナク夫々最寄寺院相互熟議ノ上合併ノ方法ヲ講シ禮信徒ノ數ヲ合シ資力ヲ確實ニシ以テ教義宣布確實ヲ舉クヘシ抑モ寺院ハ多ク累世ノ歴史ヲ有シ地方信徒祖承ノ靈場ナリ依リテ以テ門徒求道ノ標的ト

保存管理ノ途ヲ立テシムル様殿重御取締可相成依命 此段申進候也

明治三十九年八月十一日

宗教局長 斯波 淳六 郎 眞宗本願寺派管長 伯耆大谷 光瑞 殿

○特別保護建造物及國寶監守ノ件

(明治三十五年四月 甲達第二號)

今般内務省宗教局長ヨリ別紙ノ通明治三十年法律第四十九號古社寺保存法ニ依ル特別保護建造物及國寶ニ指定セル物件ノ監守方ニ關シ通牒相成候處右監守ノ任務ヲ有スル各寺住職ニ於テハ決シテ粗略ノ儀無之答ニ候ヘ共萬一不都合有之候テハ各寺ノ不幸ハ勿論國家ニ對

シ地方傳道ノ根據タルヘキモノナレハ苟クモ維持ノ方法ニシテ講究シ得ラル、限リハ一個ノ寺院モ之ヲ廢スルコトヲ好マズ住職及檀徒タル者宜シク存置ニ力ヲ盡スヘキハ勿論ナリ然レトモ卑劣ノ術數ヲ弄シ一時ヲ糊塗シテ永ク弊害ヲ貽スカ如キコトアラハ是實ニ宗門ノ罪人ナリ門末宜シク此意ヲ體シ措置ニ誤ナキコトヲ期スヘシ

右訓告ス

(參照)

内務省宗甲第二二號

今般勅令第二百二十號ヲ以テ社寺合併跡地讓與ノ件發布相成候處右ハ寺院中境内荒廢シ堂宇頽破シ勤行法要亦行ハレスシテ僅ニ其名ヲ存スルニ過キサルモノ洵ニ少シトナサス如此ハ畢竟少禮微力ニシテ維持困難ナ極ムルノ致ス所ト被認候就テハ此等寺院ハ可成合併セシメ寺院ノ資力ヲ鞏固ナラシムルト共ニ其實ヲ舉ケシムルノ趣旨ヲ以テ右勅令發布相成タル儀ニ候條此趣旨ヲ體シ貴宗派内各寺院中簡擇淘汰スヘキモノ有之ニ於テハ夫々整理ノ途ヲ講シ關係者ヲシテ合併ノ儀出願セシムル様御處理相成ヘク殊ニ讓與ヲ受ケタル跡地ニ付テハ右下付ノ趣旨ニ戻ラトル様

庶務・勅令社寺合併ニ關スル訓告之件 特別保護建造物及國寶監守ノ件



庶務・特別保護建造物及國寶監守ノ件 火災防備ニ關シ内務省通牒之件

シテ相濟マサル次第第二有之候條一層注意ヲ加ヘ候様致スヘシ

(別紙)

宗甲第四號ノ内明治三十年法律第四十九號古社寺保存法ニ依リ神職存法ニ依リ特別保護建造物及國寶ニ指定セル物件ノ監守方ニ關シ別紙ノ通地方長官ヘ通牒相成候ニ付其宗派ニ於テ該物件ヲ有スル寺院ニ對シ相當注意相成度命ニ依リ此段申進候也

明治三十五年三月十四日

内務省宗敎局長 斯波淳六郎

眞宗本願寺派管長伯爵大谷光尊殿

宗甲第四號

明治三十年法律第四十九號古社寺保存法ニ依リ神職若クハ住職ニ於テ之ヲ監守スヘキモノナリ而シテ監守者ノ怠慢ニ由リ該物件ヲ亡失毀損セシメタルトキハ神職住職ハ其神社寺院ノ管理者トシテ其實ヲ免カレサルハ勿論同法ニ依リテ處罰セラルヘキ力故ニ監守者ハ平素之ヲ監守スルニ就キ相當注意ヲ怠ラサルハシト雖モ該法發布以來漸ク年ヲ重ヌルニ從ヒ自然監守ヲ疎略ニスルモノナキヲ保シ難シ如此ニシテ若

シ該物件ヲ失亡毀損スルカ如キコトアリテハ監守者ノ責任如何ニ關セス其神社寺院ニ在テハ傳來ノ由緒面目ヲ失フノミナラス皇國ノ歴史美術ノ資料ヲ滅損スルニ至リ不都合ノ儀ニ候務豫テ特別保護建造物及國寶ヲ有スル神社寺院ニ訓示シ監守上遺憾ナキ様特ニ注意警戒セシメラレ度命ニ依リ此段申進候也

明治三十五年三月十四日

内務省宗敎局長 斯波淳六郎

内務省神社局長 櫻 共 勉

眞宗本願寺派管長大谷光尊殿

○火災防備ニ關シ内務省通牒之件

(明治四十二年五月 訓告第九號)

今般宗敎局長ヨリ別記ノ通り通牒相成候處豫テ各末寺

ニ於テハ嚴重ノ防備可有之候ヘトモ近時名藍巨剎ノ火災ニ罹ルモノ不少就テハ大ニ警戒ヲ加フヘキ儀ニ候條災害豫防ノ取締方一層行届候様致スヘシ 右特ニ訓告ス

(別記)

内務省宗甲第七號

近時名藍巨剎ノ火災ニ罹ルモノ往々有之管ニ殿堂ノ莊嚴ヲ害フノミナラス所藏ノ寶物什器等ヲモ毀損滅失シ爲ニ信仰ノ的標及ヒ史徴ノ資料美術ノ型範ヲ失ヒ誠ニ遺憾ノ至ニ存候寺院ノ災害豫防方ニ付テハ從來其監督手續等ヲ定メ夫々訓達相成居候事ト被存候モ此際尙ホ左記事項ヲ參酌シ貴宗派内一般寺院ニ對シ災害豫防ノ取締方一層行届候様御戒諭相成度依命此段申進候也

明治四十二年五月十九日

内務省宗敎局長 斯波淳六郎

眞宗本願寺派管長伯爵大谷光尊殿

- 一、内外ノ巡警ヲ怠ラサル事
- 一、建物内及ヒ之ニ接近シタル場所ニ於テ漫ニ喫煙、焚火等爲サ、ルハ勿論燈明等ハ出來得ル丈危険防止ニ注意スル事

庶務・火災防備ニ關シ内務省通牒之件

一、床下椽下ヲ清掃ニシニ漫出入シ得サル等適當ノ設備ヲ爲ス事

一、藁、古木等燃質物ハ適當ノ設備アル場所ニ藏シテ決シテ床下椽下等ニ藏置セサル事

一、什寶物ハ可成不燃質物ヲ以テ構造セル容器又ハ建物ニ藏置スル事

一、消火栓、消火器、唧筒ヲ備フル等適當ノ設備ヲ爲ス事

一、再建、増築、修繕ノ場合ニ於テハ其設計ハ可成火災豫防ノ點ニ注意シ平素火ヲ要スル場所ハ特ニ嚴重ナル設備ヲ爲シ又ハ建物ノ周圍ニ適當ノ空地ヲ存スル等注意スヘキ事

一、豫メ防火ノ爲メ樹木植栽シ若クハ牆壁ヲ設クル事

一、驅付人夫ヲ設ケ置ク事

一、火災保險ニ加入シ置ク等豫メ救済ノ方法ヲ講スル事

庶務・所有山林處分ニ關シ管長ノ添書ヲ張スル件 寄附金募集ニ付内務省ヨリ通牒之件

○所有山林處分ニ關シ管長ノ添書ヲ要スル件 (明治三十六年九月) (甲達第三十八號)

末寺所有ノ動不動産買賣ニ就テハ管長ノ添書ヲ請受ケ地方廳ノ認可ヲ經ヘキ義ニシテ國有土地森林原野下戻法ニ依リ其下戻ヲ受ケタル山林ト雖モ同様前記手續ヲ以テ其筋ノ許可ヲ經ヘキ義ハ豫テ領承ノ事ニ可有之候得共別紙宗教局長ノ通牒モ有之心得違無之様十分注意致スヘシ

(別紙)

宗甲第二三號

寺ニ於テ其所有山林ヲ處分スル場合ハ其土地タルト又ハ立木ノミナルトチ間ハス共ニ明治六年太政官布告第二百四十九號同九年教部省第三號達及同十二年七月本省乙達第三十九號但書等ニ依リ豫メ地方廳ノ認可ヲ受クヘキハ勿論ノ義ニ有之候然ルニ明治三十二年法律第九十九號國有土地森林原野下戻法ニヨリ山林ノ下戻ヲ受ケタル寺ニシテ右地方廳認可ノ手續ヲ經ス擅ニ處分スルモノ有之哉ニ聞ヘ候如此ハ獨リ該下戻法制定ノ精神ニ戻リ寺永遠ノ利益ヲ損スルノ

虞アルノミナラス法規ノ規定ニ違反スルモノニシテ住職ノ職責上不問ニ付シ難キ筋ニ有之候條其宗派内寺院住職ニ對シ心得違無之様嚴重注意ヲ加ヘ且ツ如上ノ行爲アルモノニ對シテハ相當處分可相成命ニ依リ此段申進候也

明治三十六年八月二十日

内務省宗教局長 斯波淳六 耶耶

眞宗本願寺派管長伯爵大谷光瑞殿

○寄附金募集ニ付内務省ヨリ通牒之件

(明治三十三年九月) (甲達第二十二號)

別記之通内務省宗教警保兩局長ヨリ通牒有之候條爲心得相違ス

○無住寺院整理ニ關スル件

其一 (大正二年八月) (訓告第六號)

去ル明治四十三年訓告第三號ヲ以テ派内寺院ニシテ專

庶務・無住寺院整理ニ關スル件(其一) (其二)

明治三十三年九月十二日  
内務省宗教局長 斯波淳六 耶耶  
内務省警保局長 安樂兼 道團  
眞宗本願寺派管長伯爵大谷光瑞殿

(別記)

管甲第四五號

本年八月内務省令第三十八號發布相成候處寺院ノ檀信徒教會信徒等ニモ任意申合セ寄附ヲ爲シ其間勸募ト認ムヘキ行爲ナキモノハ該省令ニ關係無之筋ニ候處往々疑義有之哉ニモ相聞エ候ニ付爲御心得此段及通牒候也

務住職ヲ有セサル向ニ對シ適當ノ住職候補者ヲ定メ以テ地方門信徒教導ノ實ヲ完カラシムヘリ懇諭スル處アリシモ爾來尙ホ其運ヒニ至ラス或ハ名義ノミノ兼務ヲ置キ甚シキハ前住死亡後成規ノ時日ヲ經過シ未タ後任ノ選定ヲナサハルカ如キモノ有之整理ノ實績甚々完全ナルヲ得ス若シ夫レ此ノ如クニシテ在再年月ヲ送ラハ終ニ大法ノ陵夷ヲ見ルノ外ナカルヘシ當該寺院門信徒ハ勿論地方在職ノ者並ニ法類寺院ハ之ニ協力シテ速ニ專務住職ヲ選定シ一寺院ノ實質ヲ具備セシメ以テ法運ノ發展ニ貢獻スヘシ

其二 (大正二年八月) (所令第二十四號)

各探訪使探訪副使  
各正副組長

派内寺院ニシテ專務ノ住職ヲ有セサル者有之該寺門徒

庶務・住職死亡及退職ノ節六十日以内ニ後任者出願之件 死亡又ハ失踪等届出之件

ノ教導全カラス寺院ノ維持マタ安固ナラサルノミナラ  
ス爲メニ宗派ノ實力ヲ減殺スルモノ少カラス宗運ノ擴  
張ニ全力ヲ盡サ、ルヘカラル今日却テ此缺陷ヲ所在  
各地ニ見ルハ眞ニ遺憾ノ至リナリ探訪使並ニ組長ハ當  
該寺院ヲシテ法門護持ノ赤誠ヨリ速ニ相當住職ヲ選定  
セシムヘシ若シ當該寺院ニシテ其ノ運ヒチ爲ス能ハサ  
ルモノアラハ組内法類ヲシテ力ヲ協ハセ以テ一日モ早  
ク此缺陷ヲ補フヘシ本山モ亦進ンテ之カ補填ヲ計リ施  
設ヲ講スヘシ夫レ少禮無祿ニシテ堂宇ノ再建若クハ將  
來ノ維持上到底其ノ方法ヲ講シ得サルモノ、如キハ寧  
ロ移轉廢合ノ手續ヲ用キテ寺院分布ノ宜キヲ得セシム  
ルヲ可トス此ノ如クニシテ派内ニ專務住職ヲ有セサル  
寺院全ク其ノ跡ヲ絶ツニ至ラハ宗門ノ實力是レヨリ初  
メテ充填ヲ圖ルヲ得ヘキナリ各職類ヲク此意ヲ體シテ  
寺院整理ノ實績ヲ舉ケラルヘシ

○住職死亡及退職ノ節六十日以内ニ後任者出願之件 (明治二十四年八月) (乙達第六號)

各府縣正副組長

一、寺住職退職又ハ死亡候節ハ直ニ後任職選舉可致之處  
往々等閑ニ致置候向モ有之不都合不勤候條現今無住ノ  
向ハ勿論今後住職退職又ハ死亡候節ハ六十日以内ニ必ス  
後任職又ハ兼務人ヲ選定シ成規ノ通出願候條度可取  
計若シ期限内ニ選舉難致事故有之候節ハ其旨具申スヘ  
シ

○死亡又ハ失踪等届出之件

(大正五年十二月四日) (甲達第二十九號)

死亡又ハ失踪等ノ届出ニ關シテハ明治四十二年甲達第

四十七號ヲ以テ相違置候ニモ拘ラス尙其手續ヲ怠ル者  
往々有之御記録並ニ怠納義務金ノ整理上支障不勤候條  
自今死亡又ハ失踪等事件發生後一ヶ月内ニ届出ヲ爲サ  
、ル向ハ御記録削除ノ手續ヲ了スル迄ノ義務金ヲ納付  
スヘキ儀ト心得ヘシ

但シ既ニ死亡又ハ失踪等ニシテ手續未了ノ向ハ別記  
ノ書式ニ依リ來ル大正六年二月末日迄ニ届出ル者ニ  
限リ御記録ヲ訂正シ死亡又ハ失踪等事件發生後ノ義  
務金ヲ免除ス

○死亡ノ節度牒返上之件 (明治十一年十二月) (達書第一百十號)

度牒下付相成居候人體死亡之節ハ度牒返納可致成規ノ  
處等閑ニ相心得居候者モ有之不都合ニ候條自今死亡或  
ハ一派積蠶等ノ節無遲滞返納可致此段相違候事

庶務・死亡ノ節度牒返上之件 僧侶歸俗出願之手續 副住職辭退者資格之件

○僧侶歸俗出願之手續 (明治四十三年一月) (甲達第一號)

自今派内僧侶ニシテ歸俗出願致候者ハ左記各項ノ手續  
致スヘシ

- 一、本人、所屬寺住職、法類連署ヲ要ス
- 一、組長ヲ經由スヘシ
- 一、歸俗ノ理由病氣ナレハ醫師ノ診斷書俗務ニ從事  
ナレハ職業證明書ヲ添付スヘシ
- 一、冥加金參拾圓上納スヘシ

○副住職辭退者資格之件 (明治十五年二月) (甲達第四號)

副住職ヲ辭退シ住職繼席不致者ハ衆徒ト可相心得此段  
相違候事

庶務・兼務人承諾書之件 所屬寺轉換度牒裏書之件 得度試驗項目之件 得度試驗之件

○兼務人承諾書之件 (明治十四年二月) (達書第三號)

各府縣下

末寺僧侶中

自今兼務住職出願ノ節ハ本願ノ外ニ兼務スヘキ本人ノ承諾書相添可申出此段相達候事

○得度試驗項目之件 (明治十九年三月) (甲達第八號)

今般寺法細則施行ニ付得度出願之向ハ派内教授一ヶ年已上入學ノ證書該校ニ於テ申受可差出尙試驗項目之儀左之通相定候條此段相達候事

得度試驗項目

- 一、七祖聖教 句讀
- 一、領解文 講案

○所屬寺轉換度牒裏書之件 (明治三十年九月) (甲達第三十九號)

從來本派僧侶ニシテ其所屬寺ヲ離レ他寺ノ住職又ハ副住職ト爲ル場合ニハ別ニ所屬寺轉換願ノ手續ヲ運ハシメ候慣例ニ有之候處自今右轉換願ノ手續ヲ要セスシテ直ニ度牒ニ裏書ヲ與フヘク候間住職出願ノ際必ス度牒ヲ添テ差出スヘシ

但シ本山ノ特選ニ係ル正副住職ハ拜命後直ニ度牒裏書出願スヘキ儀ト相心得ヘシ

○得度試驗之件 (明治三十九年二月) (乙達第十八號)

從來各教區管事ハ委任セシ得度試驗事務ハ本年四月一日以後各組組長ハ委任候試驗ヲ要スル得度願人ハ同日以後組長事務所ニ於テ受験スヘシ

但シ願人ノ志望ニ依リ本山ニ於テ受験スルコトヲ得

○得度御式定日之件 (明治三十七年二月) (告示第五號)

大正一〇、八

自今得度御式日左ノ通定メラル

- 一、御式日ハ二、三、四、五、六、八、十、十一、十二ノ各月ハ十六日ニシテ十月ハ十八日ナリ、一月、七月ハ行ハセララス

○一字名改稱ニ付改名願之件 (明治二十六年七月) (甲達第十五號)

今度甲第十三號ヲ以テ相達シ候一字名相稱ヘ候モノ改名ノ儀本山ヘ添書下付願出候向ハ別ニ左ノ書式ノ願書相添ヘ出願致スヘシ

(編者附記、書式ハ願記ノ中ニ出ツ)

○一字名改名之件 (明治二十六年七月) (甲達第十三號)

從來僧侶中一字名相稱ヘ候者往々有之候處右ハ集會ヨリ建議ノ次第モ有之候條今後二字名ニ改メ本山ノ御添書申請ク所轄廳ヘ改名願出聽許ノ上ハ其證相添ヘ速ニ本山ノ記録訂正ノ儀出願致スヘシ

○俗名ヲ改名スヘキ之件 (明治二十六年七月) (甲達第十二號)

僧侶ハ得度差許サレ候同時ニ法名御授與相成候ヘハ其事故ヲ以テ直ニ所轄廳ヘ改名出願致スヘキ筋ニ有之候處往々其手續ヲ等閑ニシテ法衣ヲ着シ俗名相稱ヘ候者有之不都合ニ候條速ニ本山ニ願出御添書申請管轄廳ヘ改名願差出聽許相成候ハ、其證相添ヘ本山ヘ届出ヘシ

庶務・得度御式定日之件 一字名改名之件 一字名改稱ニ付改名願之件 俗名ヲ改名スヘキ之件

庶務・地方廳開濟ノ願事速ニ届出ヘキ件 檀家總代ニ關スル件

○地方廳開濟ノ願事速ニ届出ヘキ件

(明治四十二年十月 訓告第十二號)

從來本山ヨリ御添書ヲ下付セラレタル願記ニシテ當該官廳へ出願シ指令ヲ受ケタルトキハ該指令本紙ヲ添ヘ直ニ其旨可届出規定ニ候處右手續ヲ怠リ候者往々有之整理上差支不都合ノ至リニ付未届ノ者ハ此際速ニ可届出尙ホ自今御添書相成度願記ニ對シテハ必ス其手續ヲ怠ラサル様致スヘシ此段特ニ訓告ス

之儀各教務所へ届出今後本山へ差出候願届等檀徒ノ連署ヲ要スヘキ分ハ右總代之人名連署可爲致此段相違候事

(別紙)

内務省乙第三十三號

各管内社寺總代人之儀氏子檀家中(氏子檀家ナキモノハ信徒)相應ノ財産ヲ有シ衆望ノ歸スルモノ三名以上相選戸長役場へ届サセ今後該社寺ノ願届等ハ渾テ連署ヲ以テ可爲差出且社寺收入財産ハ(田畑山林ノ所得ハ勿論賽物新築葬儀回向料等一切ノ受納物ヲ云フ)其共有ニ屬スヘキモノト其神官住職ニ付スルモノトノ豫約毎社寺適宜相定平素混亂セサル様取調方可爲致此旨相違候事

但シ神宮官幣社ハ非此限

明治十四年七月二十一日

内務卿 松方正義

○檀家總代ニ關スル件 (明治十四年八月 達書第二十七號)

今般内務省乙第三十三號ヲ以テ別紙之通府縣へ御達相成候ニ付テハ施行ノ際戸長役場へ届出候檀家總代人名

○檀家總代本山へ届出之件

(大正六年一月 甲達第六號)

自今末寺ヨリ本山へ檀家總代届出之儀左記各項ニ依リ其都度手續致スヘシ

- 一、新寺建立ノ場合ハ最初出願ノ際ニアリテハ信徒總代トシテ署名セルモノナレハ地方廳ニ於テ公稱許可ノ上ハ直ニ檀家總代ヲ選定シ町村長ノ證明ヲ得テ本山へ届出ヘシ
- 二、寺院移轉ノ場合ハ現在地ノ檀家總代ハ移轉後多ク他寺ニ附屬シ又移轉先ニ於ケルモノハ信徒總代トシテ署名シタルモノナレハ右移轉許可ノ上ハ更ニ檀家總代ヲ選定シ町村長ノ證明ヲ得テ本山へ届出ヘシ但シ距離ノ移轉ニシテ檀家ニ何等異動ナキモノハ此限ニアラス

(書式第一號)

庶務・檀家總代本山へ届出之件

檀家總代御届

何府何國何市何番地

何 某 (三名以上)

今般前記何名當寺檀家總代ニ當選致候條此段連署ヲ以テ御届仕候也

何府何國何市何町何寺住職

何 某

何寺檀家總代當選人

何 某

(組長奥書スルコト)

本山執行御中

三、檀家總代改選ノ場合ハ新舊總代連署ノ上町村長ノ證明ヲ得テ本山ニ届出スヘシ (書式第二號)



庶務・檀家異動御記録訂正願之件

檀家總代 氏	名
何府何市何町番戶	名
檀家總代 氏	名
何府何市何町何寺住職	名
法類 氏	名
何府何市何町何寺住職	名
同 氏	名
何府何市何町何寺住職	名
前書之通相違無之ニ付奥印仕候也	
何府何市何町何寺住職	名
何々組々長 氏	名
本山執行御中	
檀家増減理由明細書	
何府何市何町番戶	名
一増戶	何年月日何府縣郡村ヨリ轉籍 又ハ何府縣郡村何家ヨリ分家 氏 名
一増戶	何年月日何宗何寺院 ヨリ轉宗歸屬 氏 名
一減戶	何年月日何府縣郡村へ 全戶移轉又ハ絶家 氏 名

一減戶 何年月日何府縣郡村何寺へ轉檀 氏 名  
右之通相違無之候也  
年 月 日 (署名者前同斷)

檀家連名簿  
何府何市何町番戶 戶主 何 某  
何府何市何町番戶 戶主 何 某  
何府何市何町番戶 戶主 何 某  
何府何市何町番戶 戶主 何 某  
合計何千何百何十何戶  
右之通相違無之候也  
年 月 日 (署名前同斷)

○檀家異動訂正願ニ關スル事項之件

(明治四十四年九月) (甲達第四十號)

自今檀家異動訂正願ニ關スル減檀理由ハ左記事項ノ外之ヲ許可セス  
追テ右出願ニ際シテハ必ス現在檀家各自ノ調印セル連名簿ヲ添付スヘシ  
一、廢家又ハ絶家及遠隔ノ地ニ移籍シタルモノ但シ町村長ノ證明ヲ要ス  
一、轉檀シタル者ニシテ其所屬先キノ證明アルモノ

○檀家總代改選ニ關スル件

(明治二十四年五月) (甲第十七號)

今般內務省訓令第八號ヲ以テ社寺氏子檀家總代人選舉

庶務・檀家異動訂正願ニ關スル事項之件 檀家總代改選ニ關スル件

之儀別紙之通達セラレ候條自今檀家總代人ノ改選ハ該訓令ニ依リ改選シ其都度本山へ届出ヘシ

(別紙)

內務省訓令第八號  
明治十四年當省乙第三十三號達中共有ノ二字ヲ社寺有ト改メ末條ニ左ノ一項ヲ増補ス  
總代人ハ滿三年毎ニ改選市町村役場若クハ戶長役場へ届出シムヘシ尤モ期限中ト雖トモ犯罪其他不良ノ所爲アルトキハ臨時改選セシムヘシ  
但シ臨時改選ノ外ハ前總代人再三當選スルモ妨ナシ  
明治二十四年五月二十五日  
內務大臣伯爵 西 郷 從 道

庶務・地方法務取締之件 御繪傳繪解ニ關スル件 北海道渡航僧侶取締之件

○地方法務取締之件 (明治四十四年十二月 所 第二十號)

近來各地ニ於ケル規定ノ手續ヲ履行セス説教所類似ノモノヲ建設シテ多人數ヲ集合セシメ又ハ未得度者ニシテ猥リニ法衣ヲ着用シテ不法ノ行爲ヲ爲シ或ハ衆徒ニシテ無斷ニ所屬寺以外ノ法務ニ從事シ以テ地方ノ秩序ヲ擾亂シ一派ノ體面ヲ汚スモノ往々有之由右殿取締ルヘク十分監督致スヘシ

○北海道渡航僧侶取締之件 (明治四十一年十一月 甲達第三十三號)

北海道渡航僧侶取締ノ儀ニ付別記ノ通り各探訪使へ相違候條心得ノ爲メ此段特ニ相違ス

(別記) 乙達第四十六號

件 探訪使

近來北海道へ移住門徒訪問名稱ノ下ニ内地ヨリ幾多ノ僧侶渡航チ企テ舊師檀關係ノ緣故チ名トシ淨財チ強請スル者有之趣相聞へ不都合ノ至リニ候右ハ同地布教ノ發達チ沮害スル儀ニ候條自今此等ノ渡航僧侶ハ其組長並探訪使ノ證明書ヲ取リ第一管區探訪使ノ認可チ得候様嚴重ニ取締致スヘシ

○御繪傳繪解ニ關スル件 (明治十三年六月 達書第十九號)

近來末寺僧侶之内ニ於テ繪解ト稱シ説教ノ節御繪傳チ懸ケ繪相チ説明致候者有之趣不都合ノ至リニ候右ハ寺法上無之儀ニ付向後右様ノ所業無之様可致此段相違候事

○寺院住職小學校訓導交互兼務之件 (明治三十五年一月 甲達第二號)

寺院住職小學校訓導交互兼務之件ニ付別紙寫之通宗教局長ヨリ通牒有之候處末寺僧侶ニシテ其本務ニ差支ナキ限リハ訓導相勤候儀不苦候條爲心得相違ス

(別紙)

宗甲第二〇號

眞言宗高野派管長ヨリ別紙之通り何出有之候處右ニ對シ左ノ通り及回答候ニ付爲御心得此段及通牒候也 明治三十五年一月九日

内務省宗教局長 斯波淳六 耶圓 眞宗本願寺派管長 伯耆大谷光尊殿

宗甲第二〇號

寺院住職等小學校訓導交互兼務ノ件ニ關シ何出相成候處右ハ從前地方ノ狀況ニ依リ地方長官ニ於テ必要ト認ムルモノハ其職務上差支ナキ場合ニ限リ地方長官ヨリ文部内務兩省へ經伺ノ上住職等ト小學校教師ト兼職セシメ來レル例ニ有之候處自今右經伺ヲ要セス地方長官限リ處分スルコトニ相成候儀ニ有之候條

庶務・寺院住職小學校訓導交互兼務之件

御諒知相成度此段及回答候也

明治三十五年一月九日

内務省宗教局長 耶圓

眞言宗高野派管長宛

今回神職及寺院住職ニ小學校訓導兼職認許スル儀御省ト文部省ト御協議ノ結果之ヲ許スコトニ決定シ其旨地方へ御内訓有之シヤニ地方諸新聞ニ記載有之候力右ハ事實ニ有之候哉將來宗徒養成上ノ都合モ有之候ニ付至急何分ノ御指令被成下度此段御伺申上候也

明治三十四年十二月九日

眞言宗高野派管長 一等教師 大僧正 原 心 猛 耶圓 内務省宗教局長 斯波淳六 耶殿



庶務・僧侶政事ニ干與スヘカラサル件

○僧侶政事ニ干與スヘカラサル件

其一 (明治三十三年九月) (甲達第二十三號)

本派僧侶ノ心得方ニ就テハ從來屢訓告セル所ナルモ今般別記之通訓第八七七號ヲ以テ内務大臣ヨリ訓令有之候條篤ク注意スヘシ

(別記)

訓第八七七號

各教宗派ノ教師僧侶タル者ハ善ク其教規宗制ニ率由シテ教義宗旨ヲ講明シ専心一意布教傳道ニ從事スヘキニ拘ラス近來動モスレハ其職分ヲ忘レ或ハ公會ニ或ハ新聞雜誌ニ政事ヲ論議シ甚シキハ教社ニ加入シテ時事ニ狂奔スル者有之哉ニ聞ク斯ノ如キハ教師僧侶タル者ノ本分ニ背キ教宗派ノ規定ヲ蔑如スルノミナラス其身ヲ政社ニ列スル如キニ至リテハ明ニ國家ノ法令ニ觸ル、モノト謂ハサルヲ得ス如此ニシテ尙之ヲ不問ニ附シ教宗派ノ規律之レカ爲メニ弛廢スル如キアラハ管長ニ於テモ亦々其責ナシトセス就テハ此際其教宗派内ノ教師僧侶ニ對シ自今右等心得違ナキ様、分戒筋ヲ加フルト共ニ平素教規宗制ノ規定ヲ

嚴守シ其教宗派ノ規律ヲ保持スル様篤ク注意スヘシ  
右訓令ス  
明治三十三年九月十五日

内務大臣侯爵 西 那 從 道

眞宗本願寺派管長伯爵大谷光尊殿

其二 (大正六年三月) (甲達第十三號)

政事ニ干與スヘカラサル儀ハ豫テ相違シ置候處今般別記ノ通、宗教局長ヨリ通牒有之候ニ就テハ苟クモ僧侶タルモノ其職分ヲ忘レ政事ニ干與スルカ如キトアラハ屹度處分ニ可及候條心得違無之様深ク注意スヘシ此旨特ニ相違ス

(別記)

文部省官宗一〇號

寺院住職ノ政事ニ干與スルヲ許サ、ルハ貴派懲戒條

○危險思想取締之件

(明治四十三年十月) (訓告第四號)

國運ノ發展ニ伴ヒ社會ノ狀態滋複雜ニ赴クニ當リ近來稍モスレハ歐米各地ニ於ケル危險ナル思想ニ感染シ社

庶務・危險思想取締之件 派内僧侶ノ會名社名ヲ以テ同志糾合之件

規務十六條ノ規定ニ徴シ明ナル儀ニ候處從來衆議院議員總選舉ニ際シ貴派所屬ノ廣島縣下寺院住職其他ノ僧侶ニ於テ議員候補者ノ爲メニ自ラ門徒ヲ訪問シ或ハ他人ヲ介シテ運動スル等其本分ヲ忘レテ選舉運動ニ從事スル者尠カラザリシヤノ聞エ有之果シテ事實トセハ右條規ニ照シ穩カナラサル儀ニ候條今次ノ總選舉ニ際シテハ萬一ニモ右等心得違ヒノ者無之様此際速ニ嚴戒ヲ加ヘラレ度依命此段及通牒候也  
大正六年三月二十日

文部省宗教局長 柴田駒三 郎 團

眞宗本願寺派管長事務取扱

六雄 澤 慶 殿

○派内僧侶ノ會名社名ヲ以テ同志糾合之件

(明治三十四年九月) (甲達第十二號)

派内僧侶ニシテ會名若クハ社名ヲ以テ同志ヲ糾合スル件ニ就テハ明治三十年訓告第四號ヲ以テ懇々訓告致置

庶務・派内僧侶ノ會名社名ヲ以テ同志糾合之件 托鉢規程  
候處萬一行違ノ行有之テハ不相濟候條心得違無之様致  
スヘシ

明治三十年六月十八日發布訓告第四號

末寺 一般

近來派内ノ僧侶教學擴張道義振興等ノ名ヲ假リテ外  
觀ヲ裝ヒ會名若クハ社名ヲ以テ同意者ヲ募リ竊ニ黨  
派ニ類スル舉動ヲ爲ス者往々之レ有ルヤノ聞エアリ  
其名ヲ聞ケハ一應美事ナルカ如シト雖トモ若シ夫レ  
竊ニ黨同伐異ノ謀ヲ逞セントスルノ意ニ出ルモノナ  
ラン乎是レ即チ派内ノ和合ヲ破リ不測ノ災害ヲ釀成  
スルモノト謂フヘシ抑々派内僧侶トシテ教學擴張道  
義振興ノ方法ニ於テハ末寺ニ組ヲ設ケ一組チ一團ト  
シ各組チ合シテ一教區ト爲スノ制度アルノミナラス  
本山教會門末教會ノ組織アリテ洩ル、所無シ何ソ煩  
ク法度教示ノ範圍外ニ於テ會名社名ヲ設ケ團結スル  
ノ必要アラシヤ之ニ依テ本山ハ其認定スル所ニ依リ  
或ハ解散ヲ諭シ或ハ退會ヲ命シ其甚數者ニ至リテハ  
不得止相當ノ處分ニ及フコトモアルヘケレハ派内一  
般ノ僧侶ニ於テモ深ク其意ヲ體シ右等ニ嫌アル舉動  
致ス間敷此段特ニ訓告ス

○托鉢規程 (明治十九年)

- 第一條 本派ノ僧侶托鉢ヲ行セントスル者ハ免許證牌  
ヲ本山ヘ請願スヘシ
- 第二條 托鉢證牌ハ一地方ニ於テ三人以上同時ニ出願  
スルニ非レハ之ヲ授與セス但シ後年ニ至リ加入補闕  
ヲ願フモノハ此限ニ非ス
- 第三條 托鉢證牌ヲ得タルモノハ必ス其地方廳ヘ届出  
ヘシ但シ東京ハ警視廳ヘモ届出ヘシ
- 第四條 托鉢ノ行装ハ正衣(白服麻衣墨袈裟)ヲ着シ網  
代笠ヲ冠リ鉢若クハ頭陀囊(鼠色)ヲ用ヒ餘物ヲ携帶  
セス必ス一様ノ體タルヘシ各人ノ所好ニ隨フヲ許サ  
ス
- 第五條 托鉢ヲ行フハ午前第七時ヨリ同第十一時迄ヲ  
限リトス但シ遠路往返ノ爲メ時間ヲ遷延スルハ此限  
ニアラス
- 第六條 托鉢中ハ威儀ヲ肅整スヘシ往來人ト談話シ市  
店ニ入テ物品ヲ購求スルヲ許サス
- 第七條 途上縱令惡言罵詈或ハ非法ノ舉チナスモノア  
ルモ決シテ之ト抗スルヲ得ス
- 第八條 托鉢中鉢盂ト唱ヘ受施ノ時ハ其佛本願力等ノ

届出ヘシ

○托鉢證牌下付ニ關スル注意之件  
(明治二十五年五月)  
乙 第五號

正副組長

托鉢受牌者ニ於テ不可謂醜態ヲ極メ遂ニ佛門ノ通則ニ  
違背スルノ嫌ヲ受ケ候テハ不相濟儀ニ付向後證牌下附  
願出候者ハ左項ニ當ル理由ヲ副申セシメ其事實嚴重調  
査ノ上ニ非サレハ證牌下付不相成候條此段相違候事  
一、教學及慈善ノ資金ヲ扶助若クハ積立ル目的アル  
者  
一、修學中其學資ニ充ツル目的アル者

- 四句偈ヲ唱フヘシ
- 第九條 托鉢者ハ施者ノ請ヒアルニアラサレハ人家ニ  
接近シ濫リニ歩ヲ駐ムヘカラス且施物ハ施者ノ意ニ  
任セ敢テ餘物ヲ乞フヲ許サス但シ齋食ヲ供セントス  
ル施主アル時ハ其請ニ應シ該家ニ就キ讀經スヘシ
- 第十條 證牌ヲ得タル者ト雖トモ二人以下之ヲ行スル  
ヲ許サス若シ十人以上ニ及ハ、必ス其列チ分チ一列  
十人以下タルヘシ且ツ公衆ノ來往ノ便ヲ妨クヘカラ  
ス
- 第十一條 托鉢中ハ必ス免許證牌ヲ携帶シ何時タリト  
モ警察官等ノ檢閲ニ供スヘシ
- 第十二條 罹災等ニテ證牌ヲ遺失スルトキハ其事由ヲ  
詳記シ再下付ヲ出願スヘシ
- 第十三條 移住等ノ節ハ前條ニ準シ證牌ノ書替ヲ出願  
スヘシ
- 第十四條 事故アリテ證牌ヲ返納セント欲スル者ハ前  
條ニ準シ證牌ヲ添ヘ届出ヘシ
- 第十五條 證牌所持ノ者死亡ノ節ハ組長ヨリ證牌ヲ本  
山ニ返納スヘシ
- 第十六條 托鉢者若シ此規程ニ違犯スルノ行爲アル時  
ハ組長ノ具申ニヨリ證牌ヲ收奪シ本山ヨリ地方廳ヘ

庶務・托鉢規程 托鉢證牌下付ニ關スル注意之件

庶務・二物願之件 本堂後門之件 御厨子入形祖師聖人御影下付之件 勅語拜受ニ付訓告之件

○二物願之件 (明治十二年二月) (達書第二十六號)

今般證議ノ次第有之内陣本座以上ノ向ハ天蓋禮盤差許候條右望ノ者ハ出願可致此段相違候事

○本堂後門之件 (大正六年二月) (甲達第十一號)

特別ヲ以テ自今本堂後門ノ設置ヲ許ス

○御厨子入形祖師聖人御影下付之件

(大正十二年七月) (甲達第二十六號)

爾今出願寺院ニ限リ御厨子入形祖師聖人御影御下附相成ル

追テ冥加金ハ從前御下附ノ祖師聖人御影冥加金ニ依リ授與セラル

○勅語拜受ニ付訓告之件 (明治四十年五月) (訓告第五號)

明治三十七八年ノ奉公ニ關シ大法主親下親ク 勅語ヲ拜受アラセラレタルハ寔ニ一宗ノ光榮トスヘキ所親下マダ直チニ御直諭ヲ發セラレ 聖恩ノ優渥ナルヲ告ケ功ヲ全國ノ門葉ニ頒チ給フ惟フニ帝國空前ノ大難ニ際シ苟クモ生チ日域ニ受クルモノ誰カ忠節ヲ抽テサルヘケンヤ況ンヤ二諦相資ノ法流ニ浴スルノ輩粉骨削身ノ勞ヲ致スヘキハ當然ナリ何等ノ功勞力以テ嘉賞ニ値セシタル門末一般ノ微衷此ニコノ無比ノ光榮ヲ辱フシタルヲ思ヘハ實ニ喜ニ堪ヘス然レトモ事ハ滿ルニ缺ケ橋ルニ敗ル今日一宗ノ前途豈ニ夫レ光榮ニ狂喜スルノ秋ナランヤ

今ヤ一宗ハ此ノ無比ノ光榮ヲ荷フ然ルニ戰役當時ノ奮勵果シテ此光榮ニ値スルモノアリシヤ否ヤ本職等前ニ命ヲ奉シテ外從軍布教使ヲ戰地ニ派遣シ内臨時部及出張所チ各地ニ設ケ一派奉公ノ事業ヲ總攬セシカ其成績豫望ノ十一ニ達セス甚々遺憾ニ堪ヘサルモノアリ何ソ帝國大宗派ノ活動トシテ百萬門末ノ精力ヲ傾注シタリト云フチ得ンヤコレニ本職等ノ無能ニ由ルト雖モ

○勅語御寫下付之件 (明治四十年五月) (甲達第十三號)

勅語御寫別院派内諸學校並ニ末寺一般へ下附セラレ候此段相違ス

○勅語御寫下付申請心得之件

(明治四十年六月) (甲達第二十五號)

勅語御寫下付申請心得別記ノ通り定メラレ候條此段相違ス

(別記)

勅語御寫下付申請心得

一 本年甲達第十三號ニ基キ 勅語御寫ヲ拜受セント

庶務・勅語拜受ニ付訓告之件 勅語御寫下付之件 勅語御寫下付申請心得之件

部下役員及門末一般亦今回ノ光榮ニ對シテ深ク慚愧スル所ナカルヘカラス、抑モ一宗今日ノ狀態ハ尙ホ未ダ全ク昏睡ノ域ヲ脱却セス須ク大ニ覺醒スル所アルヘキナリ夫レ職ヲ山務ニ奉スルモノハ宜ク宗門發展ノ大計ニ留意スヘク任ニ育英ニ在ルモノハ須ク人材陶冶ノ要義ニ焦慮スヘク殊ニ直接布教傳道ノ衝ニ當ルモノハ大ニ自己ノ道念ヲ修養シ自ラ以テ人ヲ教化スヘク末寺一般亦應ニ舊態ヲ脱シ愈奮勵權信徒ノ教導ニ從事スヘシ而シテ本宗ノ組織由來僧俗ノ別ナシ百萬ノ門徒マダ宜シク宗門盛衰ノ責任ヲ頌ツヘシ此ノ如クシテ上下本末相協和シ以テ宗教宣布社會救済ノ舉ニ從ハ、一派ノ前途益々隆昌チ加ヘ今日ノ光榮ヲ空フセサルヲ得ヘシ黨同伐異紛爭ヲ蝸牛角上ニ好ムカ如キハ實ニ宗門ノ罪人ナリトス

今ヤ 勅語拜受ノ事アリ親下ノ御直諭ヲ拜讀シテ自ラ願ルニ恐懼措ク能ハス此ニ訓告ヲ發シテ敢テ一般ノ齋勵ヲ希望ス

庶務・勅語御寫下付申請心得之件 勅語御寫兼第住職ノ寺院及説教所へ下付之件  
スル寺院ハ組長ヲ經テ左ノ申請書ヲ差出スヘシ

申請書

勅語御寫

右當寺へ御下付ノ上ハ崇敬上不都合無之様奉  
安可致候條御下付被成下度此段申請仕候也

何府何市何町  
何縣何郡何村

何組何寺住職

年月日

何 某

何府何市何町  
何縣何郡何村

檀家總代 何

某

(檀家總代ハ三名以  
上連署スルコト)

執行御中

一勅語御寫ハ一定ノ箇ニ納メ下付セラル但シ右ニ要  
スル經費ハ上納致スヘシ

一勅語御寫ハ無住又ハ兼務住職ノ寺院ニハ當分下付  
セラレス

○勅語御寫兼務住職ノ寺院及説教所へ下  
付之件 (明治四十二年二月  
甲達第十三號)

明治四十年六月甲達第二十五號ヲ以テ 勅語御寫ハ無  
住又ハ兼務住職ノ寺院へハ當分下付セラレサル旨相違  
置候處自今兼務住職ノ寺院及説教所へモ依願御下付相  
成ル

財

務

本 山 會 計  
特 別 會 計  
三 季 冥 加  
教 育 補 充 費  
式 典 特 別 會 計  
本 山 勘 定  
佛 教 大 學 會 計  
中 學 及 專 修 學 院 費  
教 會 講 社  
財 團 法 人 設 立 準 則

庶務・勅語御寫下付申請心得之件 勅語御寫兼第住職ノ寺院及説教所へ下付之件  
スル寺院ハ組長ヲ經テ左ノ申請書ヲ差出スヘシ

一勅語御寫ハ無住又ハ兼務住職ノ寺院ニハ當分下付  
セラレヌ

申請書

勅語御寫

右當寺へ御下付ノ上ハ崇敬上不都合無之様奉  
安可致候條御下付被成下度此段申請仕候也

何府何市何町  
何縣何郡何村

何組何寺住職

年月日

何

某印

何府何市何町  
何縣何郡何村

檀家總代 何

某印

(檀家總代ハ三名以  
上連署スルコト)

執行御中

一勅語御寫ハ一定ノ函ニ納メ下付セラル但シ右ニ要  
スル經費ハ上納致スヘシ

○勅語御寫兼務住職ノ寺院及説教所へ下

付之件 (明治四十二年二月  
甲達第十三號)

明治四十年六月甲達第二十五號ヲ以テ 勅語御寫ハ無  
住又ハ兼務住職ノ寺院へハ當分下付セラレサル旨相達  
置候處自今兼務住職ノ寺院及説教所へモ依願御下付相  
成ル

財

務

本山會計  
特別會計  
三季冥加  
教育補充費  
式典特別會計  
本山勘定  
佛教大學會計  
中學及專修學院費  
教會講社  
財團法人設立準則

財務

○本山會計法(明治三十九年一月) 明治四三、二〇  
法度第一號 大正一〇、七

- 第一條 本山會計ノ年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル
- 第二條 會計年度所屬ノ歳入歳出ニ關スル出納事務ハ翌年六月三十日ニ終結ス
- 第三條 懇志及ヒ其他ノ收納ヲ歳入トシ奉仕費及ヒ其他ノ經費ヲ歳出トシ共ニ豫算ニ編入ス
- 第四條 米穀其他物品ノ出入ハ別途ニ報告ス但シ特別指定ノ寄附ニ係ル工事及ヒ物品モ此ニ準ス
- 第五條 毎年度ニ於テ決定シタル經費ノ定額ハ他ノ年度ニ屬スル經費ニ充ルコトヲ得ス
- 第六條 歳入歳出ノ總豫算ハ前年ノ集會ニ之ヲ提出ス
- 第七條 歳入歳出ノ總豫算ハ順次款項ヲ區別シ左ノ書類ヲ添付ス
  - 一、各款ノ豫算經費書並ニ説明書及ヒ細目表
  - 二、前年度ノ出納決算書並ニ説明書及ヒ細目表
- 第八條 豫算中ニ左ノ豫備金ヲ置ク
- 第一豫備金

財務・本山會計法

第二豫備金

- 第一豫備金ハ避クヘカラサル豫算ノ不足ヲ補フモノトス
- 第二豫備金ハ豫算外ニ生シタル臨時必須ノ費用ニ充ツルモノトス
- 第九條 前條ノ豫備金ヲ支出シ終リタル後尙臨時費用ヲ要スルトキハ臨時集會ヲ召集シ之カ協賛ヲ經ヘシ
- 第十條 懇志及ヒ其他ノ收入ハ收入規程ニ依リ之ヲ取扱フ收入規程ハ執行之ヲ定ム
- 第十一條 收入規程ニ依リ金品收入ノ局ニ當ル責任アル役員ニアラサレハ懇志及ヒ其他ノ收入ヲ取扱フコトヲ得ス
- 第十二條 毎會計年度ニ於テ經費ニ充ツル定額ハ其年度ノ歳入ヲ以テ之ヲ支辨ス
- 第十三條 豫算ニ定メタル目的ノ外ニ定額ヲ使用シ又ハ規程以內ニ款項ノ金額ヲ彼此流用スルヲ得ス
- 第十四條 支出ハ支出規程ニ依リ之ヲ取扱フ支出規程ハ執行之ヲ定ム
- 第十五條 支出規程ニ依リ支出ノ局ニ當ル責任アル役員ニアラサレハ支出ヲ取扱フコトヲ得ス
- 第十六條 集會ニ報告スル決算ハ同一ノ式ヲ用ヒ左ノ

財務・本山會計法

事項ヲ明記シ會計検査部・檢閲ヲ受ク

一、歳入ノ部

歳入豫算額

收入済歳入額

收入不足歳入額

收入超過歳入額

二、歳出ノ部

歳出豫算額

仕拂濟歳出額

臨時増加歳出額

翌年度繰越額

三、貸借計算書

第十七條 歳計ニ剩餘ヲ生シタルトキハ其翌年度ノ歳入ニ編入ス

第十八條 年度歳入ニ不足ヲ生シ臨時借入金ヲナシタルトキハ集會ノ事後承認ヲ經ヘン

第十九條 豫算ニ於テ一年度ニ終ルヘキ工事又ハ編纂其他ノ事業ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲メ其事業ヲ遅延シ年度内ニ其經費ノ支出ヲ終ラサルモノハ之ヲ翌年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得

第二十條 數年ヲ期シテ竣成スヘキ前條ノ事業ニシテ

繼續費トシテ總額ヲ定メタルモノハ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度迄順次繰越使用スルコトヲ得

第二十一條 誤拂渡並ニ定額戻入トナリタル金額ノ返納又ハ出納ノ定結シタル後其年度ニ屬スル收入及ヒ豫算外收入ハ部テ現年度ノ雜收ニ組入ヘシ

第二十二條 財務ノ局ニ當ル役員ハ其取扱ニ關スル現金若クハ物品ニ付一切ノ責任ヲ負フ

第二十三條 財務ノ局ニ當ル役員ハ水火盜難又ハ其他ノ事故ニ依リ其保管スル現金若クハ物品ヲ紛失毀損シタル場合ニ於テハ其保管上避クヘカラサリシ事實ヲ證明シ會計検査部ノ指揮ヲ受クヘシ

第二十四條 財務ノ局ニ當ル役員中ニ於テ收納係ノ者ハ出納係ヲ兼スルコトヲ得ス

第二十五條 特別ノ須要ニ依リ本法ノ規程ニ準據シ難キモノハ特別會計ヲ設ク但シ其規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二十六條 本法施行ニ要スル細則ハ教示ヲ以テ之ヲ定ム

○本山會計收入規定(大正五年七月) 大正二四七八

第一條 懇志其他ノ收入事務ハ財務部ニ屬ス

第二條 前條ノ事務ハ左ノ係員ヲ置キ之ヲ取扱ハシム

懇志金係

冥加金係

義務金係

土地及家屋係

調査係

印章係

金庫係

第三條 前條ノ各係ヲ統括スル爲メ收納主任一名ヲ置ク

第四條 米穀其他物品ノ納入ハ總テ懇志金係ニ於テ取扱ハシム

第五條 各收納係ハ收入ノ都度調査係ノ検査ヲ經テ印章又ハ受納書ヲ交付シ收納ノ金品ハ各收納簿ヲ添ヘ收納主任ヘ廻付ス

第六條 調査係ハ各係取扱ノ收入ヲ調査シ各係ヨリ收納主任ヘ廻付ノ金品ト符合スルヤ否ヤヲ検査ス

第七條 印章係ハ調査係ノ檢印ヲ認メ速ニ交付ノ手續

財務・本山會計收入規程

ヲ爲スヘシ

第八條 收納主任ハ各係ヨリ廻付スル金品ヲ各收納原簿ニ記入シ現金ハ毎日計算ノ上金庫係ニ納入ス

第九條 收納主任ハ收納ノ金品ヲ毎日部長及執行ニ報告シ毎月末豫算ト照合スヘシ

第十條 室内部へ納入ノ金品ハ其種別ニ從ヒ帳簿ヲ添ヘ收納主任ニ於テ其都度送納ノ手續ヲナスモノトス

第十一條 賽錢函ハ隨時之ヲ開キ開函ノトキハ係員ノ立會ヲ要ス

第十二條 金庫係ハ收納金ノ種別ニ從ヒ區分ヲ定メ特約銀行へ保管ノ手續ヲナスヘシ

附 則

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

財務・本山會計支出規程

○本山會計支出規定(大正五年七月) (大正七年八月)

第一條 支出ハ總テ財務部ニ於テ取扱ヒ左ノ係員ヲ以テ分任セシム

- 出 財 係
- 交 付 簿 係
- 金 庫 係
- 郵 送 係
- 原 簿 係
- 物 品 係

第二條 各局部所管ノ經費支拂ハ付出簿ニ受取人ノ氏名支拂フヘキ金額支出科目ヲ記載シ各局部ノ主任及執行ノ認印ヲ要ス

第三條 支拂ヲ爲サントスルトキハ支拂切符ヲ發スル前左ノ事項ヲ調査スヘシ

- 一、請求ノ經費ハ正當ニシテ必要ナリヤ否ヤ
  - 二、該經費ハ豫算超過スルコトナキヤ否ヤ
  - 三、支出科目及所屬ノ年度ヲ誤ルコトナキヤ否ヤ
  - 四、豫算ヲ以テ定メタル目的ニ違フコトナキヤ否ヤ
- 第四條 出財係ハ前條各號ノ調査ヲ了シタルト認ムルトキハ交付簿ニ依リ支拂切符ヲ受取人若クハ代理人

ニ交付シ別ニ證印ヲ受クヘシ受取人ハ支拂切符ニ年月日ヲ記入シ證印ノ上金庫係ニ就キ現金ノ引替ヲ請フヘシ

第五條 郵送ニ係ル金額ハ郵送係ニ於テ支拂切符ヲ受ケ金庫係ニ就キ之ヲ現金ニ交換シ即日郵便又ハ銀行爲替ノ手續ヲ爲スヘシ

第六條 現金前渡ノ支拂ハ總テ執行ノ決裁ヲ經サレハ支拂切符ヲ發スルコトヲ得ス

第七條 各年度ニ屬スル經費ノ支拂ハ本山會計法第二條ニ依リ翌年七月一日以後ハ前年度ノ支拂切符ヲ發スルコトヲ得ス

第八條 原簿係ハ一切ノ支出ヲ原簿ニ記入シテ毎日部長及執行ニ報告シ毎月末各豫算ニ對照スヘシ

第九條 金庫係ハ合式ノ支拂切符ヲ得ルニアラサレハ現金ノ交付ヲ爲スヘカラス

第十條 金庫係ハ休日ヲ除ク外其開庫時間内ハ支拂切符持參人ニ對シ現金ヲ交付スヘシ

第十一條 金庫係ハ左ノ場合ニ於テ出財ヲ拒ムヘシ

- 一、案内支拂書ヲ請ケサルモノ
- 二、支拂切符ト案内支拂書ト符合セサルモノ
- 三、支拂切符汚損ノ爲メ案内支拂書ト照合シ難キモノ

第三條 免物費ハ其冥加ノ收入ヲ以テ支辨シ剩餘ハ通常歲入ニ編入ス但シ其收支ハ集會ニ報告スヘシ

此告示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第十二條 物品係ハ物品收支簿ニ依リ諸般ノ物品ニ就キ買入又ハ保存修覆等ノコトヲ取扱フヘシ

第十三條 物品ノ贈與貸借又ハ支消費拂ノ如キハ總テ種別ニ隨ヒ毎日其用途ヲ帳簿ニ記載シ主用者ノ認印ヲ受クヘシ

附 則  
本告示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○特別會計規程(明治三十六年十月) (教示第十八號)

第一條 永代經費免物費等歲入ノ爲メニ生スル費目ハ特別會計ニ附ス

第二條 永代經費ハ永代經志金積立ノ利子ヲ以テ支辨シ剩餘ハ其志金ト共ニ之ヲ積立テ永世ニ貯蓄ス

財務・本山會計支出規程 特別會計規程 三季冥加規程

○三季冥加規程(明治三十四年十一月) (法 度 第 六 一 號)

明治三十六年十一月  
大正 四年三月  
同 四年三月  
同 四年三月  
同 四年三月

第一條 三季冥加ノ上納ハ此規程ニ依ル

第二條 末寺ハ毎年三季冥加ヲ本山ニ上納スヘキモノトス

第三條 三季冥加各自ノ納金額ヲ定ムル左ノ如シ  
但シ止ムヲ得サル場合ニハ集會ノ協賛ヲ經テ五割以  
内ノ臨時増加ヲ爲スコトヲ得

一、末 寺



財務・三季冥加規程

別格別院	金貳拾圓
別格寺	金拾五圓
内陣上座一等	金拾貳圓
甲種特別衣體	金拾壹圓
内陣上座一等	金拾壹圓
特別衣體	金拾壹圓
内陣上座一等	金拾壹圓
甲種特別衣體	金九圓
内陣上座二等	金八圓五拾錢
特別衣體	金八圓
内陣上座二等	金八圓
内陣本座一等	金六圓五拾錢
甲種特別衣體	金六圓
内陣本座一等	金六圓
内陣本座二等	金五圓
内陣列座	金四圓
餘之間	金參圓
脇之間	金貳圓
外陣列座	金壹圓
平僧	金五拾錢
末寺支坊 所屬寺堂班ノ二分ノ一額	
二、前住職 著用衣體ノ三分ノ一額	

三、副住職

著用衣體ノ二分ノ一額

四、衆徒

長男衣體許可ノ者  
其衣體ノ三分ノ一額  
所屬中堂班許可ノ者  
其衣體ノ二分ノ一額  
教師對配衣體許可ノ者  
其衣體ノ三分ノ一額  
單ニ教師ノ者金四拾錢  
未教師ノ者金貳拾錢

第四條 前條以外ノ終身堂班衣體許可ノ者ハ所屬寺堂

班衣體ニ依ラスシテ住職ハ其堂班衣體全額、前住職ハ三分ノ一額、副住職ハ二分ノ一額、衆徒ハ三分ノ一額ヲ上納スヘキモノトス

第五條 僧侶ニシテ三季冥加ノ上納ヲ怠ル時ハ其寺若

クハ本人ノ願取投ヲ停止シ滯納金額ニ對スル延滯手数料トシテ其次年度ヨリ毎年百分ノ八ヲ附加徵集シ尙延滯スル者アル時ハ懲戒ニ處ス但シ別格別院ハ鑑事、末寺支坊ハ所屬寺住職又ハ兼務住職其責ニ任ス

第六條 三季冥加ノ取扱細則ハ教示ヲ以テ之ヲ定ム

附則

本更改ハ大正十四年四月一日ヨリ施行ス

○教育補充費賦課規程

(明治卅六年十二月) 明治卅六年十二月 大正十四年三月  
法度第六號 同四、五、三

第一條 教育補充費ハ本規程ニ依リ貳萬五千圓ヲ限リ

末寺ハ賦課ス但シ止ムヲ得サル場合ニハ集會ノ協賛ヲ經テ本規程以內ノ臨時增加ヲ爲スコトヲ得

第二條 教育補充費ハ中學及專修學院費並ニ本山立學

校生徒ニシテ學費補助ノ必要アリト認ムル者ニ支給セル補助費ノ剩餘若クハ不足額ト該年度支出豫算額ノ差引若クハ合計ヨリ授業料收入豫算額ヲ減シタルモノヲ賦課ス

第三條 教育補充費ノ賦課ハ左ノ比率ニヨル

別格別院	貳〇
別格寺	壹五
内陣上座一等	壹貳
甲種特別衣體	壹壹
内陣上座一等	壹〇
特別衣體	九
内陣上座二等	
甲種特別衣體	

財務・教育補充費賦課規程

内陣上座二等

八、五

特別衣體

八

内陣上座一等

六、五

甲種特別衣體

六、五

内陣本座一等

六

内陣本座二等

五

内陣列座

四

餘之間

參

脇之間

貳

外陣列座

壹

平僧

〇、五

末寺支坊

所屬寺堂班ノ二分ノ一額

但シ他ノ方法ニ依リ其數區負擔高ナリ納付スルモ妨

カナシ

第四條 教育補充費徵集ニ關シ必要ナル規則ハ別ニ教

示ヲ以テ之ヲ定ム  
第五條 末寺ニシテ教育補充費ノ賦課ニ應セス又ハ徵集ニ關スル規則ニ背ク者ハ其寺若クハ本人ノ願取投ヲ停止シ滯納金額ニ對スル延滯手数料トシテ毎年百分ノ八ヲ附加徵集シ尙延滯スル者アル時ハ懲戒ニ處ス但シ別格別院ハ鑑事、末寺支坊ハ所屬寺住職又

財務・三季〇加并ニ教育補充費取扱細則

ハ兼務住職其責ニ任ス

附 則

本更改ハ大正十四年四月一日ヨリ施行ス

〇三季冥加並ニ教育補充費取扱細則

(明治四十一年七月) 明治四十四年二月 大正六、一、  
甲教示第四十七號 同 四四、一、八 大正七、一、八

第一條 三季冥加並ニ教育補充費ノ事務ハ執行 所管ニ屬シ三季冥加規程教育補充費賦課規程及此細則ニ依リ之ヲ取扱フ

第二條 上納期ヲ定ムル左ノ如シ

- 一、三季冥加 毎年六月三十日
- 一、教育補充費 毎年十月三十一日

但シ期限ニ先ダチ上納スルコトヲ得

第三條 財務部ハ毎年四月一日ノ現在ニ依リ其年ノ賦

課額及前年迄ノ滯納額ヲ調査シ管事及組長ヘ告知ス

管事及組長ハ前項告知書ニ依リ臺帳ヲ調製シ置クヘ

シ

第四條 組長ハ前條告知書ニ依リ組内各寺僧侶ノ納額ヲ其寺ニ通知スヘシ

第五條 納額ニ誤謬ヲ發見シタルトキハ直ニ組長及管事ヲ經テ申出ツヘシ

第六條 各寺住職ハ組長ヨリ納額ノ通知ヲ受ケタルト

キハ其寺並ニ所屬僧侶ノ納金取廻メノ責ニ任シ必ス

期日迄ニ本山財務部ヘ到着スヘキ餘日ヲ計リ組長ヘ

納付スヘシ但シ直接本山ヘ上納ノトキハ必ス組長及

管事ヘ上納者各自ノ金額氏名年月日ヲ届出ヘシ

第七條 組長ハ組内ヨリ納金アリタルトキハ期日迄ニ

必ス財務部ヘ上納シ直ニ管事ヘ報告スヘシ

第八條 組長ハ各寺未納整理ノ責ニ任ス若シ組長ノ請

求ニ應セサルトキハ忘納金額住所寺號氏名ヲ管事ヘ

報告シ管事ハ直ニ本山ヘ上申スヘシ

第九條 印章ハ組長ヲ經テ本人ヘ交付ス

附 則

此教示ハ明治四十二年度ヨリ施行ス

本細則施行ノ日ヨリ明治三十三年十二月教示第二十四

號三季冥加上納規程、同三十九年二月教示第五號三季冥加取扱細則、同三十九年二月教示第六號教育補充費取扱細則ヘ之ヲ廢止ス

〇三季冥加並ニ教育補充費怠納金處理規程

(大正十年二月) 法度第一號

第一條 本規程ハ末寺三季冥加並ニ教育補充費怠納金ヲ整理スルモノトス

第二條 義務金怠納者中無住無檀ノ寺院又ハ天災地變等ニ依リ上納シ能ハサルモノハ其事由ヲ具シ組内住職ノ三分ノ二以上證明書ヲ添ヘ組長管事ヲ經由シ願出ツルモノニ對シテハ審査ノ上特ニ左ノ恩典ニ浴セシムルコトヲ得

一、怠納金ノ全免

財務・三季冥加并ニ教育補充費取扱細則 式典ニ關スル特別會計法

式典ニ關スル特別會計法(大正八年十一月) 法度第八號

第一條 式典ニ要スル經費ハ特ニ之ニ關シ門末ヨリ納ムル香儀又ハ祝儀等ヲ以テ支辨シ之ヲ特別會計トス

第二條 式典ノ豫算ハ年度ヲ分タス一括シテ議決スル

二、怠納金ノ減免

三、怠納金ノ納期猶豫

第三條 前條ノ恩典ニ浴スルモノ、中全免者ニ對シテハ免除ノ日ヨリ向フ滿五ヶ年間減免者ニ對シテハ免除ノ日ヨリ向フ滿三ヶ年間猶豫者ニ對シテハ猶豫期間中總代會衆ノ選被選權ヲ停止ス

第四條 本規程ヲ適用シ得ラレサル怠納寺院ニシテ上納ヲ怠ル者ハ懲戒ニ處ス

附 則

本法度ハ大正十年四月一日ヨリ施行ス

財務・式典ニ關スル特別會計法 本山勘定規程

コトヲ得

第三條 本決算ハ式典終了ノ翌年集會ニ之ヲ報告ス

附 則

本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○本山勘定規程(明治三十六年七月) 明治三七年四月  
大正一〇、一〇

第一條 本山勘定ハ法義篤信ニシテ多年本山ノ爲メニ盡力シ而モ地方ニ於テ名譽資産アル本派信徒中ヨリ選拔シ允裁ヲ經テ囑託ス

第二條 本山勘定ハ左ノ要務ヲ擔任ス

- 一、本山財務ニ關シ執行ノ協議ニ與リ又ハ意見ヲ披陳シ財政運用上調節ノ事ニ從フ
- 二、收支ニ關シ調査ノ必要ヲ認ムル時ハ何時ニテモ之ヲ調査ヲ執行ニ求ムルコトヲ得

第三條 前條各項ノ外特ニ重要ト認ムヘキ事項ノ協議ニ與ルコトアルヘシ

第四條 本山勘定ノ員數ハ百名以内トシ其任期ナ十ケ年トス但シ補缺員ハ前任者ノ任期ヲ繼グモノトス

第五條 本山勘定ノ總會ハ協議ヲ要スル都度臨時ニ之ヲ開ク

第六條 本山勘定ハ五名以上ノ同意ヲ得テ總會ノ召集ヲ執行ニ申請スルコトヲ得

第七條 本山勘定ハ五選ヲ以テ十名ノ當直ヲ定メ執行ニ届出ヘキモノトス

第八條 當直勘定ノ任期ハ三年トス

第九條 當直勘定ハ毎月一回例會ヲ開クモノトス

第十條 信徒ニシテ本山財務ニ關スル意見ヲ具申スルモノアル時ハ之ヲ當直勘定ノ會議ニ附ス

附 則

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行シ同時ニ從前ノ本山勘定任務條規ヲ廢ス

○龍谷大學特別會計規程(大正十一年六月) 法度第八號

第一條 龍谷大學ハ龍谷大學財團ヨリ回附スル收入、授業料、本山支出金、寄附金、其他ノ收入ヲ以テ其一切ノ支出ヲナスモノトス

第二條 龍谷大學ノ歳入歳出ノ豫算決算ハ執行之ヲ集會ニ提出ス

第三條 龍谷大學豫算中ニハ本山會計法第八條規程ノ豫備金ヲ設ケヘシ

第四條 寄附金ニシテ特ニ用途ヲ指定シタルモノハ其條件ニ從ヒ使用シ其決算ハ之ヲ集會ニ報告スヘシ

第五條 收入支出規程ハ教示ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本規程ハ發布ノ日ヨリ施行シ佛敎大學特別會計規程ハ之ヲ廢止シ佛敎大學ニ關スル會計ハ本規程ヲ準用スルモノトス

○龍谷大學收入支出規程(大正十二年一月) 甲教示第二號

第一條 會計ノ年度ハ毎年四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第二條 會計年度所屬ノ歳入歳出ニ關スル出納事務ハ次年度六月三十日迄ニ終結ス

第三條 本山支出金龍谷大學財團回附金及其他ノ收入ヲ歳入トシ職員俸給及其他ノ經費ヲ歳出トシ共ニ豫算ニ編入ス

第四條 歳入歳出豫定計算書ハ前年度十一月三十日迄ニ龍谷大學長ヨリ執行ニ提出スヘシ

第五條 歳入歳出ノ決定計算書ハ次年度七月三十一日迄ニ龍谷大學長ヨリ執行ニ提出スヘシ

第六條 本山支出金ハ毎月二十四日迄ニ平均月額ヲ下テ之ヲ支出スヘシ

第七條 豫備金ハ避ケヘカラサル豫算ノ不足又ハ豫算外ニ生シタル臨時必須ノ費ハ其都度執行ノ認可ヲ經テ之ヲ支出スヘシ

第八條 歳入超過歳出剩餘アルトキハ之ヲ次年度收入ニ組入ルヘシ

財務・龍谷大學特別會計規程 龍谷大學收入支出規程

財務・龍谷大學收入支出規程 中學校及專修學院費收支規程 教會講社條例

- 第九條 豫算ニ於テ一年度ニ終ルヘキ工事又ハ編纂其他ノ事業ニシテ避クヘカラサル事故ノ爲メ其事業ヲ遲延シ年度内ニ其經費ノ支出ヲ終ラサルモノハ執行ノ認可ヲ得テ次年度ニ繰越シ使用スルコトヲ得
- 第十條 數年ヲ期シテ竣成スヘキ前條ノ事業ニシテ繼續費トシテ總額ヲ定メタル者ハ執行ノ認可ヲ得テ毎年度ノ仕拂殘額ヲ竣功年度迄順次繰越使用スルコトヲ得
- 第十一條 特別指定ノ寄附ニ依リ工事又ハ物品ノ購入ヲナサントスルトキハ豫メ執行ノ認可ヲ經ヘシ
- 第十二條 毎月收支明細書ハ翌月十日迄ニ執行ニ提出スヘシ

附 則

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行シ同時ニ従前ノ佛教大學資金管理規程及佛教大學收入支出規程ヲ廢ス

○中學校及專修學院費收支規程

(明治四十一年十一月) 大正二二二  
(法度第四號)

- 第一條 中學校及專修學院費ハ授業料及補充費其他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ
  - 第二條 本規程ノ收支ハ特別會計トス
- 附 則  
此法度ハ明治四十二年豫算ヨリ施行ス

○教會講社條例

(大正二年二月) 大正五二  
(法度第四號)

- 第一條 本條例ハ派内一般ノ教會講社ニ適用スルモノトス
- 第二條 教會講社ハ本宗ノ門信徒ニヨリテ組織シ二諦

財務・教會講社條例 教會講社準則

- ノ教義ヲ受樂シ王法爲本ノ祖訓ヲ發揮シ本山崇敬佛化助揚ノ實ヲ舉クルヲ以テ目的トス
- 第三條 前條ノ目的ヲ達スル爲メ說教或ハ講演ヲ開キ教會講社員ノ信念志操ヲ練磨シ又本山祖廟ニ參詣シ法義相續ノ助縁ニ資シ其他地方ノ狀況ニヨリ適宜ノ施設ヲ爲スモノトス
- 第四條 一教會講社ニハ會員百名以上ヲ有スヘキモノトシ其地域ハ一定セス尙地方ノ狀況ニヨリテ分會ヲ設クルコトヲ得但シ既設ノ教會講社ハ總テ本條例ニ準シ之ヲ取扱フ
- 第五條 教會講社ニハ派内住職又ハ教師ヲ以テ擔當者トシ本山之ヲ任命ス
- 第六條 前條擔當者ノ外必要ナル職員ヲ置キ擔當者ノ申請ヲ參酌シ本山之ヲ任命ス
- 第七條 教會講社ノ設立ハ設立者ニ於テ規則ヲ定メ組長管事ヲ經由シ本山ノ認可ヲ受クヘキ者トス  
規則ニハ左ノ事項ヲ規定スルヲ要ス  
一、名稱 二、位置 三、目的 四、事業 五、會員 六、職員 七、會務
- 第八條 教會講社ニ要スル經費ハ所屬教會講社員ノ釀出ニ依ルモノトス

第九條 教會講社員ニシテ第二條ノ目的ヲ阻害スル者ハ本山ヨリ之ヲ擯出テ命シ教會講社ニシテ第二條ノ目的ヲ阻害シ第三條ノ事業ヲ實行セサル時ハ本山ハ之ヲ解散ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 教會講社員ハ本山參詣ニ際シ本山ハ相當ノ取扱ヲ爲ス

第十一條 教會講社準則ハ別ニ教示ヲ以テ之ヲ定ム

附 則

本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○教會講社準則

(大正二年二月) 大正六一  
(甲教示第二號)

- 第一條 教會講社ノ事務及布教ハ管事ノ指揮監督ヲ受ク
- 第二條 教會講社條例第三條ニヨリ各教會講社ハ毎月

財務・教會講社準則

一回定期ノ法廷ヲ開キ且ツ毎年一回以上本山派遣ノ  
布教使若クハ便宜相當ノ講師ヲ聘シ説教演説又ハ講  
演ヲ開催スヘシ

第三條 教會講社ハ一定ノ方法ヲ定メ所屬會員ヲシテ  
少クモ十ヶ年一回順次本山祖廟ニ參詣セシムヘシ

第四條 教會講社ハ當該地方ニ於ケル風教維持ノ中心  
トシテ時機ニ應ジ施設スルモノトス

第五條 教會講社員ハ一定ノ金員ヲ釀出シ之ヲ教會講  
社ノ事業ニ要スル經費、志納金及會員ノ本山祖廟參  
詣費ニ充ツヘシ

第六條 前條ノ釀出金額及釀集金ノ保管並ニ利殖方法  
ハ本山ノ認可ヲ受クヘキ設立規則中ニ規定スヘシ

第七條 教會講社員ノ互選ニ依リ職員中ヨリ會計監督  
一名ヲ選出シ當選者ノ申請ニ依リ本山之ヲ任命ス

第八條 會計監督ハ教會講社ノ金錢物品ノ出納事務ニ  
關スル責任ヲ負フヘキモノトス但シ其任期ヲ滿二ヶ  
年トシ再任ヲ妨ケス

第九條 教會講社設立ノ出願ニハ設立者豫定擔當者及  
關係寺院住職ノ連印ヲ要ス

第十條 教會講社ハ本山ノ認可ヲ經テ會員ノ徽章ヲ一  
定スルコトヲ得

附 則  
本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

本 山 講

- 本山講 規程
- 補 則
- 本山講事務規程
- 懇志獎勵規程
- 收 入 規 程
- 支 出 規 程
- 優良額下付規程
- 同 細 則
- 本山講 殘務
- 記念慶讚殘務

財務・教會講社準則

一回定期ノ法筵ヲ開キ且ツ毎年一回以上本山派遣ノ  
布教使若クハ便宜相當ノ講師ヲ聘シ說教演說又ハ講  
演ヲ開催スヘシ

第三條 教會講社ハ一定ノ方法ヲ定メ所屬會員ヲシテ  
少クモ十ヶ年一回順次本山祖廟ニ參詣セシムヘシ

第四條 教會講社ハ當該地方ニ於ケル風教維持ノ中心  
トシテ時機ニ應ジ施設スルモノトス

第五條 教會講社員ハ一定ノ金員ヲ釀出シ之ヲ教會講  
社ノ事業ニ要スル經費、志納金及會員ノ本山祖廟參  
詣費ニ充ツヘシ

第六條 前條ノ釀出金額及釀集金ノ保管並ニ利殖方法  
ハ本山ノ認可ヲ受クヘキ設立規則中ニ規定スヘシ

第七條 教會講社員ノ互選ニ依リ職員中ヨリ會計監督  
一名ヲ選出シ當選者ノ申請ニ依リ本山之ヲ任命ス

第八條 會計監督ハ教會講社ノ金錢物品ノ出納事務ニ  
關スル責任ヲ負フヘキモノトス但シ其任期ヲ滿ニケ  
年トシ再任ヲ妨ケス

第九條 教會講社設立ノ出願ニハ設立者豫定擔當者及  
關係寺院住職ノ連印ヲ要ス

第十條 教會講社ハ本山ノ認可ヲ經テ會員ノ徽章ヲ一  
定スルコトヲ得

附 則  
本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

本山講

- 本山講 規 程
- 補 則
- 本山講事務規程
- 懇志獎勵規程
- 收 入 規 程
- 支 出 規 程
- 優良額下付規程
- 同 細 則
- 本山講殘務
- 記念慶讚殘務

本山講

○本山講規程 (大正五年一月) (大正五三  
法度第一號) (同九三)

- 第一條 本講ハ本山講ト稱ス
- 第二條 本講ノ事務所ハ京都市下京區堀川通本願寺門前町官有地本願寺派本山本願寺ニ置ク
- 第三條 本講ハ本願寺ノ寺債ヲ償還シ及ヒ教學資金ヲ蓄積スルヲ以テ目的トス
- 第四條 前條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ方法ニ依リ末寺門徒及信徒ノ懇志ヲ受ク
  - 一、一時又ハ數時ノ懇志
  - 一、金五拾錢チ一口トシ毎年一口ツ、五年間繼續ノ懇志但シ一人ニテ數千口又ハ數人ニテ一口ヲ納ムルハ懇志進納者ノ意思ニ任ス
- 第五條 前條ノ收納懇志ハ本山會計法第二十五條ニ依リ特別會計トス
- 第六條 本講ノ收納懇志ハ確實ナル銀行ニ預クルモノトス
- 第七條 本講ニ左ノ役員ヲ置ク
  - 總務 一名

本山講・本山講規程

- 參務 二名
  - 理事 若干名
  - 監事 三名
  - 參事 若干名
  - 主事 若干名
  - 書記 若干名
  - 第八條 本講ニ商議員若干名ヲ置ク
  - 第九條 本講ニ加談若干名ヲ置ク
  - 第十條 本講ノ收支豫算ハ前年度ノ集會ニ提出シ收支決算ハ次期ノ集會ニ報告ス
  - 第十一條 本講ノ支出規程事務規程并ニ獎勵規程ハ教示ヲ以テ之ヲ定ム
- 附則  
本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

本山講・補則 本山講事務規程

○補則 (大正六年四月 法度第二一號)

- 第一條 本講懇志寄附者ニ對スル永代經基金トシテ各年度收納懇志ノ百分ノ十以内ヲ積立ツルモノトス
  - 第二條 本講收納懇志成績優良ナル教區ニ對シ其優良ト認ムル部分ノ十分ノ八以内ヲ其區内ノ教學資金又ハ特殊ノ事業資金トシテ下付スルコトヲ得
- 附則  
本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○本山講事務規程 (大正五年一月 甲教示第一號)

- 第一條 總務ハ本山講ヲ代表シ一切ノ事務ヲ綜理シ事務員ヲ任免ス
- 總務事故アルトキハ參務其事務ヲ代理ス

- 第二條 參務ハ總務ヲ輔佐シ事務員ヲ指揮シテ講務ニ從事ス
- 第三條 理事ハ本山講懇志ノ收支事務ヲ取扱フモノトス
- 第四條 監事ハ出納監査ノ責ニ任ス
- 第五條 參事ハ本山講懇志獎勵ノ事務ヲ翼贊ス
- 第六條 主事ハ總務及參務ノ指揮監督ヲ承ケ事務ヲ掌ル
- 第七條 録事ハ上職ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ擔任ス
- 第八條 書記ハ上職ノ指揮ヲ承ケ雜務ニ從事ス
- 第九條 事務ノ都合ニ依リ雇員ヲ使用スルコトヲ得
- 第十條 商議員ハ左ノ資格アル者ノ中ヨリ總務之ヲ選任ス

- 一、一時金壹千圓以上寄附者
- 二、五百圓以上ノ寄附者
- 三、末寺住職ニシテ自己及檀信徒ノ懇志ヲ合シテ前二號中其一ノ金額ノ二倍以上ニ相當スル者
- 四、別院又ハ別格別院ニシテ前第三號ニ相當スルトキ其輪番又ハ住職若クハ監事
- 五、説教所又ハ教會講社ニシテ同ク前第三號ニ相當スルトキハ其代表

○本山講懇志獎勵規程 (大正五年一月 大正五、五 甲教示第二號)

- 第一條 本山講懇志獎勵事務ハ總務之ヲ統轄ス
- 第二條 總務ハ獎勵事務ノ便宜ヲ圖ル爲メ全國ヲ若干本山講・本山講事務規程 本山講懇志獎勵規程

- 六、親授以上ノ本山役員タリシモノニテ功績アリタル者
  - 七、本山勘定、別院勘定
  - 第十一條 商議員會ハ毎年一回之ヲ開キ本山講收支及其他必要ナル事項ニ關シ之ヲ商議ス
  - 臨時必要ナル場合ハ臨時會ヲ開クコトヲ得
  - 第十二條 加談ハ各地方ニ於ケル僧侶又ハ門信徒ニシテ名望アル者ノ中ヨリ總務之ヲ選任ス
- 附則  
本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

- 區ニ分チ管事組長又ハ特ニ命シタル者ヲシテ當該區ノ事務ニ當ラシム
  - 第三條 本山講ニ對シ多額ノ懇志ヲ納メタル者及獎勵上特殊ノ功勞アリタル者ハ相當ノ取扱ヲナスコトアルヘシ
  - 前項取扱ノ内規ハ別ニ之ヲ定ム
  - 第四條 懇志獎勵ノ費用ハ本山講之ヲ負擔ス
- 附則  
本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○本山講收入規程 (大正五年十月 甲達第二十二號)

- 第一條 本山講收入金品ノ取扱ハ左ノ係ヲ置キ分擔セシメ理事其事務ヲ掌ル
  - 收納係
- 本山講收入規程



本山講・本山講收入規程 本山講支出規程

調査係  
印章係

- 第二條 收納係ハ收入金品ニ對シ先ツ規定ノ假領收證ヲ交付シ次テ印章下付ノ手續ヲナスモノトス  
雜收入ニ對シテハ受納證ヲ交付ス
- 假領收證、受領及印章ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム
- 第三條 假領收證及受納證ニハ收納主任及理事又ハ理事代理ノ證印ヲ要ス
- 第四條 第三條ニ用フル各證印ハ豫メ總務以下關係職員ノ認可ヲ受ケタルモノニ限ル
- 第五條 收入金品ハ毎日收納合計紙、事故金合計紙、收納日計紙ヲ添ヘ金庫係ヘ回金シ其證印ヲ受クヘシ
- 第六條 收入金品ハ別ニ定ムル簿冊ニ記入シ毎日總務以下關係職員ニ開申スヘシ
- 第七條 調査係ハ別ニ定ムル送納票ヲ精算シ收納金品ト相違ナキヲ確メ收納主任及理事又ハ理事代理ノ證印ヲ受ケタル上ニ於テ其送納票ヲ臺帳係ヘ回移ス
- 第八條 印章係ハ臺帳記入及賞與係ノ手ヲ經タル送納票ニ依リ印章ヲ認メ調査係ノ精査ヲ受ケタル上收發係ヘ回移ス

○本山講支出規程 (大正五年十月)

(甲教示第十七號)

- 第一條 本山講金品ノ取扱ハ左ノ係ヲ置キ分擔セシメ理事其事務ヲ掌ル  
金庫係  
計算係  
用度係
- 第二條 金庫係ハ收納係ヨリ收納合計紙、事故金合計紙、收納日計紙ト共ニ受領セル金品ノ保管又ハ利殖方法及出財ニ關スル事務ヲ取扱フ
- 第三條 出財ハ總テ總務以下關係職員ノ承認ヲ經タル後傳票ニ依リ支出ス支出傳票ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム傳票ニハ受領者ノ證印ヲ要シ郵送ニハ別紙領收證ヲ徴スヘシ
- 第四條 計算係ハ各收納及支出傳票ニ依リ收納整理簿支出内譯原簿ニ其收支ヲ記入シ毎月假決算表ヲ作り之ヲ開申ヲナスモノトス
- 第五條 用度係ハ物品ノ購入保管等ノ事務ヲ取扱ヒ物品受渡簿ニ依リ毎月收支表ヲ作り之ヲ開申ヲナスヘシ
- 第六條 物品ノ受渡ハ注文傳票遞送記或ハ請求簿ニ依

○本山講懇志優良額下付規程

(大正九年六月) 法度第四號

- 第一條 本山講規程補則第二條ノ實行期ヲ大正九年八月末日限リトス
- 第二條 優良ト認メ得ル教區ニ對シテハ優良部分ノ十分ノ六ヲ左ノ方法ニ依リ下付ス  
下付金ハ大正九年三月末日同年八月末日ノ二期ニ分チ前者ハ同年四月一日以後ニ於テ大正八年度收

本山講・本山講支出規程 本山講懇志優良額下付規程 本山講懇志優良額下付取扱細則

- ル傳票等ノ様式ハ別ニ之ヲ定ム
- 第七條 各年度ニ屬スル經費ノ支拂ハ本山會計法ニ依ル

附 則  
本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○本山講懇志優良額下付取扱細則

(大正九年二月) 教示第三號

- 第一條 法度第四號本山講懇志優良額下付規程ニ依リ下付金ハ管事ヲ經テ教區ニ下付ス
- 第二條 下付金ノ處分ハ教區會ノ議決ニ依リ執行ノ認可ヲ受クヘシ
- 第三條 管事ハ前條ノ認可ヲ受ケタルトキハ下付金申請ノ手續ヲ爲スヘシ

(210)

本山講・本山講終結並殘務取扱之件 立教開宗七百年記念慶讃事務所殘務之件

第四條 管事ハ下付金ノ處分ニ付監督ノ責ニ任ス

附 則

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○本山講終結並殘務取扱之件

(大正十一年二月 法度第一號)

第一條 大正十一年三月末日ヲ以テ本山講ヲ終結ス

第二條 本山講殘務ハ別ノ教示ニ由ル立教開宗記念慶

讃事務所ニ於テ之ヲ取扱フ

第三條 本山講殘務取扱中ハ本山講規程ヲ準用ス

附 則

本法度ハ大正十一年四月一日ヨリ施行ス

○立教開宗七百年記念慶讃事務所殘務之件

(大正十三年六月 甲教示第五號)

第一條 大正十三年六月三日ヲ以テ立教開宗七百年記念慶讃事務所ヲ閉鎖ス

第二條 立教開宗七百年記念慶讃事務所ノ殘務ハ臨時復興事務所ニ於テ之ヲ取扱フ

第三條 立教開宗七百年記念慶讃事務所ノ殘務取扱中ハ同事務所職制ヲ準用ス

附 則

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

褒

賞

監

正

褒賞局規程

特別賞與

褒賞例

戰時教務賞與

受賞者有階者待遇

監正局規程

監正條規

懲戒條規

赦免例

事務員懲戒例

處分猶豫者身分資格

監事駐在事務所

(210)

本山講・本山講終結並殘務取扱之件 立教開宗七百年記念慶讃事務所殘務之件

第四條 管事ハ下付金ノ處分ニ付監督ノ責ニ任ス  
附 則  
本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○立教開宗七百年記念慶讃事務所殘務之件  
(大正十三年六月)  
(甲教示第五號)

第一條 大正十三年六月三日ヲ以テ立教開宗七百年記念慶讃事務所ヲ閉鎖ス  
第二條 立教開宗七百年記念慶讃事務所ノ殘務ハ臨時復興事務所ニ於テ之ヲ取扱フ  
第三條 立教開宗七百年記念慶讃事務所ノ殘務取扱中ハ同事務所職制ヲ準用ス  
附 則  
本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○本山講終結並殘務取扱之件

(大正十一年二月)  
(法度第一號)

第一條 大正十一年三月末日ヲ以テ本山講ヲ終結ス  
第二條 本山講殘務ハ別ノ教示ニ由ル立教開宗記念慶讃事務所ニ於テ之ヲ取扱フ  
第三條 本山講殘務取扱中ハ本山講規程ヲ準用ス  
附 則  
本法度ハ大正十一年四月一日ヨリ施行ス

褒

賞

監

正

褒賞局規程	特別賞與	褒賞與	戰時教務賞與	受賞者有階者待遇	監正局規程	監正條規	懲戒條規	赦免例	事務員懲戒例	處分猶豫者身分資格	監事駐在事務所
-------	------	-----	--------	----------	-------	------	------	-----	--------	-----------	---------

褒賞

○褒賞局規程 (大正十年八月) (甲敎示第六號)

- 第一條 褒賞局ハ派内僧俗ニ對スル褒賞事務ヲ掌ル
  - 第二條 褒賞局ニ左ノ職員ヲ置ク
    - 局長 一名
    - 監事 若干名
    - 審事 若干名
    - 錄事 若干名
  - 第三條 局長ハ局務ヲ統理シ所屬ノ職員ヲ監督ス
  - 第四條 監事ハ褒賞ニ關スル事實ノ調査並ニ審決ノ要求及之ニ關スル事務ヲ掌理ス
  - 局長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス
  - 第五條 審事ハ監事ノ要求ニ對シテ審査決定ス但シ審決ハ三名以上ノ合議ヲ要ス
  - 第六條 錄事ハ上職ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
- 附則  
本敎示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

褒賞・褒賞局規程 特別賞與條例

○特別賞與條例

(明治四十一年十一月) (甲敎示第五十一號) (同 四四、四一、四四、四八)

- 第一條 本例ニ依リ賞與スヘキモノ左ノ如シ
  - 第一種 多年本山ノ事務ニ從事シ偉大ナル功勞アル者
  - 第二種 特種ノ事件ニ關シ多大ナル功勞アル者
  - 第三種 他ノ模範タルヘキ特種ノ善行者又ハ巨多ノ金圓ヲ獻納シ本山ノ事業ヲ補助スル者
- 第二條 賞與スヘキ各種ニ左ノ等級ヲ分ツ
  - 一 等
    - 衣 裏松重色堅地
    - 大五條 木蘭色堅地龜甲平金地紋紋白浮織
    - 疊袈裟 紺地護法龜甲平金線白糸地紋摺金紋
    - 紋徑一寸六分紋數十五
  - 二 等
    - 切袴 薄色堅薄紫色
    - 白藤之丸大紋堅地綾
    - 衣 濃蘇芳色堅地
    - 大五條 木蘭色堅地龜甲白堆地紋紋白浮織
    - 疊袈裟 紺地護法龜甲平金白入交地紋摺金紋
    - 紋徑一寸五分紋數十三

褒賞・特別賞與條例

切袴 薄色 薄紫 薄白 藤之丸大紋堅地綾  
三等 衣 鶯茶色堅地

大五條 木蘭色堅地龜甲同色堆地紋紋白浮織  
疊袈裟 紺地護法龜甲平地紋摺金紋  
紋徑一寸五分紋數十三

切袴 薄色 薄紫 薄白 藤之丸大紋堅地綾

以上三種ノ賞品ハ本山ヨリ下附ス  
第三條 僧侶ニ非ラサル者ニシテ第一條ニ該當スル者  
ニハ左ノ徽章ヲ交付ス

壹等



徑一寸五分  
金章

貳等



參等



第四條 大五條疊袈裟並ニ徽章ノ紋章ハ第一種表章ハ  
下リ藤、第二種表章ハ桐(五七)第三種表章ハ鶴之丸  
トス

第五條 特別賞與ハ總テ法主ノ特命トス

第六條 特別賞與ヲ受ケタル者ノ席次ハ派内席次規程  
ノ定ムル處ニ依ル

第七條 特別賞與ハ終身トシ相續者ニ繼承スルコトヲ  
得ス

附則

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○褒賞例

(明治四十一年十二月) 明治四二、一 同四四、七  
甲教示第五十五號 同大正 四四、八 同四四、八  
同正 七七、三 同四四、七  
同正 一五、一〇 同九七、五  
同正 九三、三

第一條 本例ハ派内ノ僧侶ニ對スル特別賞與條例外ノ  
褒賞ヲ行フ所ノ例規トス

第二條 褒賞スヘキ者左ノ如シ

第一種 多年本山ノ任務ニ從事シ功勞アル者

第二種 特種ノ事件ニ關シ功勞アル者

第三種 他ノ模範タルヘキ善行者又ハ金圓ヲ獻納  
シテ本山事業ヲ援助シ功勞アル者

第三條 褒賞ハ左ノ十三種トス

一、表章(三種ニ各五等十級ヲ分ツ)

一等二級 二等二級 三等二級

四等二級 五等二級

二、染筆類

三、御依用念珠

四、尊號

五、小形御影

六、藏版物

褒賞・褒賞例

七、甲種輪袈裟 (別表第四號)

八、乙種輪袈裟

九、院號

一〇、甲種肩衣 (別表第五號)

一一、乙種肩衣

一二、念珠

一三、賞詞

第四條 褒賞スヘキ者ニテ特別ノ事由アルトキハ寺格  
堂班ヲ授與スルコトアルヘシ

第五條 第三條第一號ノ各等受賞者ニハ別表第一號ノ  
旌章ヲ授ケ左ノ取扱ヲ爲ス

僧侶

一、待遇堂班ヲ與フ其待遇ハ別ニ之ヲ定ム

二、別表第二號ノ輪袈裟着用ヲ許可ス  
檀信徒

一、本山及別院法要ニ參列ヲ許可シ其着用スヘ  
キ布衣ヲ別表第三號ノ通り定ム

第六條 受賞者ノ旌章、對配衣體、輪袈裟、輪袈裟  
ノ佩用又ハ着用ハ總テ本人ノ終身ニ限り之ヲ相續者  
ニ繼承シ又ハ他人ニ讓渡スコトヲ得ス若シ違反シタ  
ル者ハ相當ノ處分ヲ爲ス

褒賞・褒賞例

附則

本告示ハ發布ノ日ヨリ施行ス  
本告示發布ト同時ニ之ニ牴觸スル從前ノ諸規程ハ之ヲ  
廢ス

(別表第一號)

○旌章		等級	徑	地	紋
一等一級	一寸二分			金地	金紋
一等二級	一寸			金地	金紋
二等一級	一寸二分			銀地	金紋
二等二級	一寸			銀地	金紋
三等一級	一寸二分			銀地	銀紋
三等二級	一寸			銀地	銀紋
四等一級	一寸二分			赤銅地	銀紋
四等二級	一寸			赤銅地	銀紋
五等一級	一寸二分			銀地	赤銅紋
五等二級	一寸			銀地	赤銅紋

(別表第二號)

○疊輪袈裟		等級	色目	地合	紋	紋徑	紋數
一等一級	紺	堅地	白	茶	白浮織	一寸六分	十五
一等二級	紺	堅地	白	茶	白浮織	一寸六分	十五
二等一級	紺	堅地	金	茶	白堆織	一寸五分	十三
二等二級	紺	堅地	金	茶	白堆織	一寸五分	十三
三等一級	紺	堅地	金	茶	白堆織	一寸四分	十二
三等二級	紺	堅地	金	茶	白堆織	一寸四分	十二
四等一級	紺	堅地	金	茶	白堆織	一寸三分	九
四等二級	紺	堅地	金	茶	白堆織	一寸三分	九



第一種ハ下リ藤、第二種ハ五七桐、第三種ハ鶴之丸紋章トス

褒賞・褒賞例 褒賞例第二條施行規程

○輪袈裟		種目	色目	地合	紋	紋數	紋徑	地模様
甲種	藤色堅地	藤	金	平	十	六	一寸六分	唐
乙種	藤色堅地	藤	金	平	十	六	一寸六分	唐

○布衣		等級	色	目
一等	二級	葉		裏
二等	二級	薄		茶
三等	二級	萌		黃
四等	二級	鶺鴒		茶
五等	二級	黃		子

◎紋章ハ旌章ニ同シ		等級	納表	納裏	納表	納裏	納表	納裏
五等一級	紺	堅地	納表	納裏	納表	納裏	納表	納裏
五等二級	紺	堅地	納表	納裏	納表	納裏	納表	納裏

(別表第五號)

○肩衣		種目	色目	地合	紋
甲種	香色	香	羽	二重	鶴之丸
乙種	香色	香	奉	書	鶴之丸

○褒賞例第二條施行規程

(大正二年九月) 甲達第二十號 大正二〇、二二

一、褒賞例第二條第一種ニ該當スル賞與ハ職員就職後滿四ヶ年以上ニ於テ第一回ノ考査ヲナシ第六條第一號ノ賞與ヲ主トシ其功績表章各等級ニ相當セルトキハ第二號以下ニ依リ又ハ之ヲ加賞ス  
凡テ職員ハ第一回授賞後實役滿三ヶ年毎ニ其職責

褒賞・褒賞例第二條施行規程

上ノ成績ヲ考查シ能ク其實務ヲ全フシ功勞アリト認ムルトキ上級ノ授賞ヲ行フ但シ特殊ノ功績ヲ認ムル時ハ前二項ノ年時ヲ短縮スルコトアルヘシ無給職員ハ功勞考查ニ方リ無給ノ故ヲ以テ賞與ヲ加重ス

第六條第一號褒賞ノ授賞ハ左ノ例ニ由ル

一、例授職員實役五年以上在職者ハ四等一級ニ至ラシムルコトヲ得

一、稟授職員實役八年以上在職者ハ三等一級ニ至ラシムルコトヲ得

一、親授職員實役六年以上在職者ハ二等一級ニ至ラシムルコトヲ得

一、特授職員實役三年以上在職者ハ一等一級ニ至ラシムルコトヲ得

一、褒賞例第二條第二種ニ該當スル褒賞ハ凡テ功勞ノ優劣ニ由リテ銓衡シ同等ノ功勞ニ對シテハ職員ニ非サル者ヲ重クス

一、褒賞例第二條第三種ノ他ノ模範タルヘキ善行者ハ凡テ善行ノ優劣ニ由リテ銓衡シ金圓獻納者ノ授賞ハ左ノ例ニ依ル

一等一級  
金貳萬圓以上

金壹萬五千圓以上

一等二級

金壹萬圓以上

二等一級

金七千圓以上

二等二級

金五千圓以上

三等一級

金參千五百圓以上

三等二級

金貳千五百圓以上

四等一級

金貳千圓以上

四等二級

金壹千五百圓以上

五等一級

金壹千圓以上

五等二級

若シ有給職員ニシテ俸給ヲ辭退シ有給ノ現職同等ノ勤務ニ從フ者ハ金額ヲ計上シテ本條ヲ適用ス

一、右ノ場合ニ於テ上級表章ヲ授クルニ相當セサルトキハ第六條第二號以下ノ褒賞ヲ用ユ

一、第六條褒賞中第三號ハ俗人ニ限ル第五號第六號ハ僧侶ニ限ル

一、本達ニ於ケル職員トハ凡テ本山ヨリ辭令ヲ受ケタル職員布教使ヲ總稱ス

○褒賞例第二條施行規程細則

(大正二年九月 大正七、五  
乙達第三十四號)

一、職員ノ第一種功績調査ハ毎年一回之ヲ行フ

一、右調査ハ毎年七月十五日限り所屬上級職員ノ申告ヲ受理シ調査ノ上七月末日迄ニ執行ヨリ褒賞局長ニ回付ス

一、右成績調査ノ要件左ノ如シ

一、上級職員命令ノ遵奉

一、職務ノ勤勉

一、事務成績ノ優秀但シ難易ヲ考查シ情況ヲ參酌スルヲ要ス

一、役員懲戒ヲ受ケサルコト

一、實役年時ハ凡テ定年名簿ニヨル

一、有給職員トハ毎月定額ノ俸給手當ヲ受クルモノヲ指シ其他ノ臨時手當ノ如キハ無給トス

一、第一種表章ノ初授ハ例授及稟授ニ在リテハ五等二級、親授ニ在リテハ四等二級、特授ニ在リテハ三等二級ヲ普通トシ特別ノ功績アルトキハ甲達範圍内ノ上級授賞ヲ爲スコトアルヘシ

一、第二回ノ第一種表章ハ一級ヲ進ムルヲ普通トシ特  
褒賞・褒賞例第二條施行規程細則 戰時教務賞與條例

○戰時教務賞與條例

(明治三十七年十一月 明治三八一  
教示第二十三號)

第一條 本例ニ依リ賞與スヘキ者左ノ如シ

一、軍隊ニ從ヒ戰地ニ於テ布教ニ盡力スルノミナラス自己ノ危難ヲ顧ミス特殊ノ功績アリタル者

二、内地ニ於テ戰時布教事務ニ從事シ若クハ軍隊又ハ傷病兵ノ慰問ヲナシ其功績顯著ナル者

三、義勇奉公獎勵ノ爲メ説教演説等ヲ爲シ功績アリタル者

褒賞・戦時教務賞與條例

第二條 賞與品ヲ定ムルコト左ノ如シ

一、特種甲

大五條 金蘭、地紋入、五七桐、白浮紋

疊袈裟 同上、紋十五附、裏白羽二重附

一、特種乙

大五條 紅梅、地紋入、五七桐、白浮紋

疊袈裟 同上、金白入交、紋十五附、裏白羽二重附

一、第一種

大五條 松葉重色綾地五七桐、白浮紋摺金紋入交

交

疊袈裟 同上、紋十五附、裏白羽二重附

一、第二種

大五條 紫緯白堅地五七桐、白浮紋摺金紋入交

疊袈裟 同上、白浮紋十五附、裏白羽二重附

一、第三種

大五條 鳶色堅地五七桐、白紋金茶紋入交

疊袈裟 同上、紋十五附、裏白羽二重附

一、第四種

大五條 柳茶色堅地五七桐、白紋金茶紋入交

疊袈裟 同上、紋十五附、裏白羽二重附

一、第五種

大五條 鳶茶色堅地五七桐、白紋金茶紋入交

疊袈裟 同上、紋十五附、裏白羽二重附

一、第六種

疊袈裟 藍海松堅地五七桐、白紋金茶紋入交、

紋十五附、裏白羽二重附

第三條

特ニ殊功アリタルモノニハ疊袈裟ニ威儀紐ヲ

附ス

第四條 威儀紐ヲ左ノ四等ニ分ツ

第一等 金紐

第二等 紫色

第三等 綠色

第四等 茶色

第五條 賞與手續ハ褒賞例第三條ニ依ル

○戦時教務賞與條例受賞者取扱ニ關スル

件 (明治四十四年八月 大正七、二 甲達第三十四號)

戦時教務賞與條例受賞者ハ自今左ノ通り特別賞與條例及褒賞例等級ニ准シ取扱相成ル

戦時教務賞與條例

受賞者 特別賞與條例

特別甲 一等ニ准ス

特別乙 三等ニ准ス

褒賞例

第一種 一等ニ級ニ准ス

第二種 二等ニ級ニ准ス

第三種 三等ニ級ニ准ス

第四種 四等ニ級ニ准ス

第五種 五等ニ級ニ准ス

但シ大正七年十二月甲達第二十號發布以前ニ係ル第六種受賞者ニシテ五等ニ級ニ准セラレ、者ハ本座二等通常衣體ヲ着用スルコトヲ得

○本山事務員受賞者有階者待遇規程

(大正七年十二月 大正一五、一〇 甲達第十九號)

一、身分等級對配左ノ如シ

身分等級	對配
特授一等	上座一等甲種特別衣體
特授二等	上座一等特別衣體
特授待遇	上座一等通常衣體
親授一等	上座二等甲種特別衣體
親授二等	上座二等特別衣體
親授待遇	上座二等通常衣體
稟授一等	本座一等甲種特別衣體
稟授二等	本座一等特別衣體
稟授三等	本座一等通常衣體
稟授四等	本座二等特別衣體
稟授五等	本座二等通常衣體
稟授待遇	本座二等通常衣體

一、組長副組長ニシテ准等ヲ有スル者モ本表ニ准ス

褒賞・戦時教務賞與條例受賞者取扱ニ關スル件

本山事務員受賞者有階者待遇規程



褒賞・本山事務員受賞者有階者待遇規程

一、有階者對配左ノ如シ

學階	對配
勸學本講二回以上 經歴濟	上座一等甲種特別衣體
同 五年經由ニシ テ本講經歴濟	上座一等特別衣體
同	上座一等通常衣體
司教五年經由ニシ テ副講經歴濟	上座二等甲種特別衣體
同	上座二等特別衣體
輔教五年經由又ハ 都録經歴濟	本座一等甲種特別衣體
同	本座一等特別衣體
助教	本座二等特別衣體
得業	本座二等通常衣體

一、受賞者對配左ノ如シ

受賞者等級	對配
褒賞例一等一級	上座一等甲種特別衣體
褒賞例一等二級	上座一等特別衣體
褒賞例二等一級	上座二等甲種特別衣體
褒賞例二等二級	上座二等特別衣體
褒賞例三等一級	本座一等甲種特別衣體
褒賞例三等二級	本座一等特別衣體
褒賞例四等一級	本座一等通常衣體
褒賞例四等二級	本座二等特別衣體
褒賞例五等一級	本座二等通常衣體
褒賞例五等二級	本座二等通常衣體

參考

明治四十四年九月甲達第三十八號及甲達第四十一號  
ヲ廢ス

○布教使事務員對配堂班消滅之件

(大正一一年七月  
甲達第二十一號)

從來本願寺布教使其他事務員ハ退職ト共ニ身分消滅  
シ同時ニ對配堂班モ消滅致候儀ニ有之候處近來間々退  
職者ニシテ尙從前ノ對配衣體着用ノ向有之哉ノ風聞有  
之右ハ甚以不都合ノ儀ニ候條爾今屹度心得違無之様注  
意致サルベシ

稟賞・布教使事務員對配堂班消滅之件

監正・監正局規程 監正局條例

監正

○監正局規程 (大正十年八月 甲教示第十五號)

第一條 監正局ニ左ノ二部ヲ置ク

第一部

派内懲戒事件ノ調査並ニ審決ノ要求及之ニ關スル事務ヲ取扱フ

第二部

第一部ノ要求ニ對シ審決及之ニ關スル事務ヲ取扱フ

第二條 監正局ニ左ノ職員ヲ置ク

局長 一名

監事 若干名

審事 若干名

錄事 若干名

第三條 局長ハ局務ヲ統理ス

第四條 監事ハ第一部ノ事務ヲ處理シ局長事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

第五條 審事ハ第一部ノ要求ニ對シテ審理判定ス

第六條 錄事ハ庶務ニ從事ス

附則  
本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○監正條例 (大正十年八月 法度第八號)

第一章 總則

第一條 本條例ハ派内ノ懲戒事件及各規程ニ依ル申告ニ適用ス

但シ連枝ニ關シテハ別ノ規定ニ依ル

第二條 懲戒事件ニ關シテハ執行監督ノ下ニ監正局長之ヲ掌理シ監事ヲシテ調査セシメ審決會ノ審決ニ付スルモノトス

第三條 申告ハ監正局長ニ提出スヘシ監正局長ハ監事ヲシテ調査セシメ審決會ノ審決ニ付スルモノトス

第四條 審決會ノ審決ハ初審、再審トス

監正・監正條例

第五條 懲戒及申告事件ノ當事者ハ審事ヲ忌避スルノ申立ヲ爲スコトヲ得

第六條 監正局員職務執行ニ付自ラ回避ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第七條 忌避回避ノ申立ハ其事由ヲ詳記シ監正局長ニ提出スヘシ

第八條 懲戒及申告事件ノ當事者ハ審決會ノ許可ヲ得テ代辯人ヲ同行シ又ハ代辯人ノミテ出頭セシメテ之ヲ審理ヲ受クルコトヲ得

代辯人ハ稟授以上ノ派内ノ僧侶ニ限ル

第九條 審事、監事互ニ兼任スルコトヲ得ス

第十條 監正局ノ重要ナル書類ノ發送ハ配達證明附書留郵便トスヘシ

第十一條 懲戒申告事件ニ付却下セラレタル場合ハ被申告者ハ其申告ノ理由ニ惡意アリト認メタルトキハ其者ニ對シ更ニ申告ヲ爲スコトヲ得各規程ニ依ル申告事件ニ付テモ亦同シ

第十二條 監正局長及審事監事ハ左ノ事項ヲ行フコトヲ得

一、派内ノ職員及其他ノ僧侶ヲ指揮スルコト

二、派内ノ職員ヲ喚問スルコト

三、事件ノ關係者ヲ喚問スルコト

四、事件ノ關係書類及物件ノ提出ヲ命スルコト

第十三條 懲戒申告事件ノ費用ハ本山ヨリ支辨ス各規程ニ依ル申告事件ノ費用ハ監正局長ノ指定スル金額ヲ申告者ヨリ豫納セシムルコトヲ得

第十四條 申告ハ左ノ事由ニ依テ消滅ス

一、被申告者ノ死亡

二、懲戒處分ニ該當セサル申告事件ニ付テハ其者ノ取下、和解、拋棄

三、確定審決

四、反則ノ後發布セラレタル法規ニ因リ其反則ノ廢止

五、赦免

六、時效

第十五條 時效ハ左ノ期間ヲ經過スルニ因リテ完成ス但シ他ニ特別ノ規定アルモノハ其規定ニ依ル

一、奪度牒ニ該當セル反則ニ付テハ十年

二、其他ノ重懲戒ニ該當セル反則ニ付テハ七年

三、輕懲戒ニ該當セル反則ニ付テハ五年

四、諭戒ニ該當セル反則ニ付テハ一年

第二章 懲戒其他ノ手續

監正・監正條例

第一節 審決會ノ構成及權限

第十六條 審決會ハ初審再審トモニ三名以上ノ審事及一名ノ録事ヲ以テ構成シ上席審事ヲ以テ會長トス  
第十七條 審決會ノ審決ニ對シテハ派内ノ何人ト雖モ干涉スルコトヲ得ス  
第十八條 審事ハ懲戒處分ニ依ルニ非サレハ其意ニ反シテ免職、休職、轉職セラル、コトナシ  
第十九條 初審審決ニ干與シタル審事ハ再審審決ニ干與スルコトヲ得ス

第二節 懲戒事件ニ關スル申告手續

第二十條 何人ト雖モ派内僧侶ノ法度教示ニ違反シタルコトヲ認知シタルトキハ之カ申告ヲ爲スコトヲ得  
第二十一條 本山役員及組長ハ末寺僧侶ニ反則行爲アリコトヲ認知シタルトキハ之カ申告ヲ爲スヘシ  
第二十二條 申告ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ニ署名捺印ノ上差出スヘシ  
一、被申告者ノ氏名、原籍、住所、身分、所屬寺  
二、事實  
三、證據

第二十三條 申告ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ監事又ハ録事ハ口述書ヲ作り之ヲ讀ミ聞

カセ署名捺印セシムヘシ

第三節 監正局第一部ノ取調及終局手續

第二十四條 監正局長ハ末寺僧侶ニシテ宗法違反ノ行爲アルコトヲ認知シタルトキ又ハ申告ヲ受ケ事件受理スヘキモノト認メタルトキハ監事ヲシテ之カ取調ニ着手セシム  
第二十五條 監事ハ懲戒處分ニ依ルニ非サレハ其意ニ反シテ免職、休職、轉職セラル、コトナシ  
第二十六條 被申告者又ハ證人ノ身分特授若クハ集會開會中ノ會衆ニ係ルトキハ左ノ手續ヲ行ヒタル上召喚狀ヲ發スヘシ  
一、特授 執行ノ承認ヲ經ルコト  
二、會衆 集會ノ承認ヲ經ルコト

第二十七條 正當ノ理由ナク召喚ニ應セサル者ハ懲戒條規ニ依リ處分ヲ爲スコトアルヘシ  
第二十八條 監正局長ハ執行ノ同意ヲ得テ管事又ハ地方在住ノ稟授二等以上ノ經歷ヲ有スル僧侶ニ臨時監正局監事ノ職務ヲ執ラシムルコトヲ得  
第二十九條 宗意違反ニ關スル事件ハ勸學又ハ司教中ヨリ特命シテ之カ取調ヲ爲サシム  
但シ監事ノ立會ヲ要ス

第三十條 監正局第一部ノ取調ハ調書ヲ作り供述者ニ署名捺印セシムルコトヲ要ス

第三十一條 事件ニ對スル取調終結シタルトキハ監事ハ論告書ヲ作成シ一件書類事件ノ證據及參考トナルヘキ事物ヲ監正局長ニ提出ス局長ハ之ヲ執行ニ開申シ第二部ニ移シ初審審決會長ニ交附ス  
但シ事件ノ性質ニ依リテハ和解ヲ勸メ若クハ戒飭ヲ加ヘ第二部ニ移サ、ルコトアルヘシ

第四節 初審審決手續

第三十二條 懲戒事件ニ關スル審決ハ必ラス本人ヲ喚問シテ行フヘシ  
但シ左ノ場合ニ於テハ缺席審決ヲ爲スコトヲ得  
一、缺席審決ヲ申出タル者  
二、國法ニ觸レ刑ノ執行中ノ者  
三、疾病其他ノ事由ニ因リテ三週日間ヲ經過スルモ自己又ハ代辯人出頭セサル者

第三十三條 審決會ノ審問期日ハ一週日前ニ到着ノ日取ヲ以テ事件ノ當事者ニ通知スヘシ  
第三十四條 審決手續ニ付テハ第二十四條、第二十七條ノ規定ヲ準用ス  
第三十五條 審決會ハ必ス監事ノ立會ヲ要ス立會監事

監正・監正條例

ハ意見ヲ述フコトヲ得

第三十六條 録事ハ被申告者及證人、鑑定人ノ供述ヲ筆記シ之ヲ讀ミ聞セ署名捺印セシムヘシ

第三十七條 審決ハ當該審事合議ノ上多數ノ意見ニ依リ之ヲ決シ執行ニ開申ス

第三十八條 審決原本ニハ關與ノ審事及録事署名捺印スヘシ

第三十九條 審決ノ申渡ハ審決會ノ名ニ於テ審決原本ヲ以テ之ヲ爲ス

第四十條 審決申渡書ハ録事之ヲ作り審決ヲ爲シタル後遲滞ナク當事者ニ送致スヘシ

第四十一條 懲戒事件ノ審決申渡書ハ左ノ事項ヲ明示スヘシ  
其他ノ審決申渡書モ之ニ準ス

一、被申告者ノ氏名、原籍、住所、身分、年齢、所屬寺  
二、主文  
三、事由  
四、審決申渡ノ年月日  
五、再審申立期間  
第四十二條 録事ハ審決始末書ヲ作り左ノ事項其他一

監正・監正條例

切ノ審決手續ヲ記載スヘシ  
 一、被申告者又ハ原被兩告ノ氏名、原籍、住所、身分、年齢、所屬寺、前反ノ有無  
 二、審問及其供述ノ要旨  
 三、證據物件  
 四、審問中監事ノ意見ノ要旨  
 五、審決ノ要旨其年月日審決シタル審事、錄事立會シタル監事ノ氏名  
 第四十三條 審決始末書ニハ審決會長及錄事署名捺印スヘシ  
 第四十四條 審決原本及審決始末書ハ一件書類ト共ニ監正局第一部ニ保管ス  
 第五節 再審審決手續  
 第四十五條 事件ノ當事者初審審決ニ對シ審決申渡書送達ノ日ヨリ十日以内ニ監正局長ニ再審ヲ申立ツルコトヲ得  
 第四十六條 監正局長ハ再審ノ申立ヲ受ケタルトキハ速ニ一件書類ト共ニ再審審決會長ニ交附ス  
 第四十七條 再審ノ申立ハ其審決前ニアリテハ之ヲ取り下ルコトヲ得  
 第四十八條 再審審決ニ特別ナル規定ノ外ハ其審決ノ

手續ニ付テハ總ヘテ初審審決ニ關スル規定ヲ準用ス  
 第四十九條 再審審決會ニ於テ再審申立ノ理由ナシトスルトキハ之ヲ却下ス  
 第五十條 再審審決會ニ於テ初審審決ハ其手續ニ不備アリト認ムルトキハ初審審決ヲ破棄ス此場合ニ於テハ監正局長ハ他ノ審事ヲ以テ構成シタル初審審決會ニ交附シ更ニ審決ヲ爲サシム  
 第五十一條 再審審決會ニ於テ初審審決ハ不當ニ事實ヲ確定シ又ハ不當ニ法規ヲ適用シタルト認ムルトキハ初審ヲ廢棄シ自ラ審決スヘシ  
 第六節 懲戒處分ノ執行手續  
 第五十二條 懲戒處分ノ執行ハ審決確定ノ上執行之ヲ行ヒ且ツ派内ニ公示ス決行猶豫ノ場合モ亦同シ  
 第五十三條 奪度職處分ノ執行ニ付テハ決行前集會ノ議ヲ經ルコトヲ要ス  
 第五十四條 有期懲戒ノ執行ハ決行期間ヲ指定ス

附則

本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス  
 本條例ニ牴觸スル從前ノ諸規程ハ之ヲ廢ス

○懲戒條規

(大正十年七月) 大正二五、四  
 (法度第六號)

第一章 總則

第一條 本條規ハ派内僧侶及教士ノ反則者ヲ懲戒スル條規トス  
 第二條 本條規ニ明文ナクシテ他ノ法度ニ懲戒ノ規定アルモノハ其規定ニ依ル  
 第三條 懲戒ハ重懲戒、輕懲戒、諭戒トス  
 第四條 重懲戒ハ無期、輕懲戒ハ有期トシ有期懲戒ハ一月以上十年以下トス  
 第五條 輕懲戒ニ處セラレタルモノハ情狀ニ依リ處分確定ノ日ヨリ一年以上三年以下ノ期間内其決行ヲ猶豫スルコトヲ得但シ前ニ輕懲戒以上ノ處分ヲ受ケタル者ハ此限リニアラス  
 第六條 左ニ掲ケル場合ニ於テハ處分決行猶豫ノ言渡ヲ取消スヘシ  
 一、猶豫ノ期間内ニ更ニ反則ヲナシ輕懲戒以上ノ處分ヲ受ケタルトキ  
 一、猶豫ノ言渡シ前ニ犯シタル他ノ反則ニ就キ輕懲戒以上ノ處分ヲ受ケタルトキ  
 第七條 處分決行猶豫ノ言渡ヲ取消サル、コトナクシ

監正・懲戒條規

テ猶豫ノ期間ヲ經過シタルトキハ懲戒ノ申渡ハ其效力ヲ失フ  
 第八條 精神喪失者ノ行爲若クハ不慮ノ災變ニ因リ止ムヲ得サルニ由タル行爲ニ對シテハ懲戒ヲ加ヘス  
 第九條 數反俱發ノトキ又ハ一ノ反則行爲ニシテ懲戒ノ條項中各號ノ二以上ニ該當スルトキハ其重キニ從テ處分ス  
 第十條 左ノ反則者ハ懲戒處分ヲ加重ス  
 一、累反、共反ノ主謀者  
 二、情狀ノ重キ者  
 第十一條 左ノ反則者ハ懲戒處分ヲ減輕スルコトヲ得  
 一、反則ヲナシ前非ヲ悔悟シ未タ發覺セサル前自首シタル者  
 二、反則ノ實行ニ着手シ未タ遂ケサル者  
 三、金錢物品ノ損害ヲ辨償シタル者  
 四、反則ノ幫助ヲ爲セシ者  
 五、反則ノ情狀輕キ者及反則ノ情狀憫諒スヘキ者  
 第十二條 本條規ノ懲戒條項ヲ左ノ如ク換用スルコトヲ得  
 一、堂班ノミ有スル者罷教師免住職停說教ノ處分ニ該當スル反則アリタルトキハ停堂班ニ處ス

監正・懲戒條規

- 二、教師(教師試補)ノミ有スル者免住職停堂班ノ處分ニ該當スル反則アリタルトキハ停説教ニ處ス
- 三、堂班、教師(教師試補)併有ノ者免住職ノ處分ニ該當スル反則アリタルトキハ停堂班若クハ停説教ニ處シ又停堂班ニ該當スルトキ現ニ停堂班處分中ノ者ハ停説教ニ處ス
- 四、住職ニシテ堂班ヲ有セサル者停堂班ノ處分ニ該當スル反則アリタルトキハ停説教ニ處ス

第二章 懲戒分類

- 第十三條 左ニ掲ケタルモノハ重懲戒トス
  - 一、奪度牒 奪度牒ハ本派僧侶ノ分限ヲ擅斷ス
  - 二、罷教師 罷教師ハ教師又ハ教師試補ヲ免ス
  - 三、免住職 免住職ハ住職、副住職、兼務住職ヲ免シ又ハ前任住職ノ資格ヲ奪フ
  - 四、罷教士 罷教士ハ教士ヲ免ス
- 第十四條 左ニ掲ケタルモノハ輕懲戒トス
  - 一、停説教 停説教ハ説教、法話、講演ヲ停止ス
  - 二、停堂班 停堂班ハ堂班着席並ニ衣體ノ着用ヲ停止ス
  - 三、停僧儀 停僧儀ハ僧服用ヲ停止ス
  - 四、停教士 停教士ハ教士ノ資格ヲ停止ス

第十五條 左ニ掲ケタルモノヲ諭戒トス

- 一、誹責 誹責ハ文書ヲ以テ戒飭ス
- 第十六條 第十三條ノ處分ヲ受ケタル者ハ本山ヨリ受ケタル賞典、恩典及名譽ノ表彰ヲ失フ第十四條ノ處分ヲ受ケタル者ハ之ヲ停止ス
- 奪度牒、罷教師ノ處分ヲ受ケタル者ハ同時ニ學階ヲ褫奪シ免住職、停説教、停堂班ノ處分ヲ受ケタル者ハ學階ニ對スル待遇ヲ停止ス罷教師又ハ免住職ノ處分ヲ受ケタル者ハ同時ニ堂班ヲ停止ス
- 第十七條 奪度牒ノ懲戒ニ處スヘキモノ左ノ如シ
  - 一、佛祖ニ對シ不敬ノ行爲アリタル者
  - 二、法主ニ對シ不遜ノ行爲アリタル者
  - 三、宗意ニ悖リタル異説ヲ主張シ教諭ニ服セサル者
  - 四、轉宗轉派ヲ企圖シタル者
  - 五、國法ノ處分ニ依リ禁錮以上ノ處刑ヲ受ケタル者
  - 六、背法沒道ノ行爲ヲナシ僧侶ノ本分ヲ失墜シタル者
  - 七、罷教師ノ處分ヲ受ケ尙其非行ヲ改メサル者
- 第十八條 罷教師ノ懲戒ニ處スヘキモノ左ノ如シ
  - 一、本山ノ認可ナキ佛像等ヲ堂内ニ安置シ又禁厭、祈禱ニ類スル行爲アリタル者

監正・懲戒條規

- 二、不正行爲ニ由リ本山ニ損害ヲ及シタル者
  - 三、衆徒ニシテ猥リニ所屬寺ヲ離レ住職ノ命令ニ違背スル者
  - 四、世間ニ對シ宗派ノ威信ヲ損傷スル行爲アリタル者
  - 五、免住職ノ處分ヲ受ケ尙改悛セサル者
- 第十九條 免住職ノ懲戒ニ處スヘキモノ左ノ如シ
  - 一、家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者
  - 二、非行ニ依リ多數檀信徒ノ不歸依ヲ招キタル者
  - 三、猥リニ法寶物及寶物ヲ典賣讓與シ又ハ寺有財産ヲ消費シタル者
  - 四、猥リニ派内共有ノ金品ヲ費消シ又ハ使用シタル者
  - 五、停説教又ハ停堂班ノ處分ヲ受ケ尙改悛セサル者
- 第二十條 罷教士ノ懲戒ニ處スヘキモノ左ノ如シ
  - 一、不正行爲若クハ品行不良ノ爲メ一派ノ名譽ヲ汚濁シタル者
  - 二、宗意ニ悖リタル異説ヲ主張シ教諭ニ服セサル者
  - 三、停教士ノ處分ヲ受ケ尙改悛セサル者
- 第二十一條 停説教ノ懲戒ニ處スヘキモノ左ノ如シ
  - 一、宗意ニ悖リタル異説ヲ唱ヘタル者

- 二、説教、法話又ハ講演ヲナスニ當リ野卑猥褻ノ言辭ヲ弄シ宗門ノ威信ヲ傷ケタル者
- 三、廉耻ヲ破リ品行不良ニシテ僧侶ノ體面ヲ汚スル行爲アリタル者
- 四、寺族又ハ寺禮ノ間ニ紛議ヲ醸シタル者

第二十二條 停堂班ノ懲戒ニ處スヘキモノ左ノ如シ

- 一、法度、教示ニ從ハス若クハ派内事務ノ施行ヲ妨ケタル者
- 二、派内事務所ニ對スル義務金ヲ納付セサル者
- 三、派内事務所ニ對シ虚偽ノ申立ヲナシタル者
- 四、派内事務所ニ對シ他人ヲ誣告シタル者
- 五、派内職員ノ職務施行ニ對シ侮辱ヲ加ヘタル者
- 六、派内事務所ノ命令ヲ受ケ故ナク之ニ應セサル者
- 七、職員猥リニ職務外ノ事ヲナシテ損害ヲ本山又ハ他人ニ及シタル者
- 八、職員ニシテ賄賂ヲ收受シタル者
- 九、本山ノ職名等級又ハ姓名、寺號、堂班、教師、學階、法蘭等ヲ詐稱シタル者
- 十、堂宇ヲ諸興行等ニ貸與シ及猥リニ政談演説等ニ使用シ又ハ寺院ノ尊嚴ヲ汚スヘキ行爲アリタル者

監正・懲戒條規

- 十一、堂宇及境内ニ猥リニ他宗教派ノ使用ニ貸與シタル者
- 十二、成規ノ衣體ヲ濫用シタル者
- 十三、猥リニ法寶物及寶物ヲ貸與シテ利ヲ計リタル者
- 十四、猥リニ他寺檀徒ノ法務ヲ取扱ヒタル者
- 十五、檀信徒ヲ教唆シテ累テ派内事務所ニ及ホシタル者
- 十六、法類ノ和合ヲ破リタル者
- 十七、猥リニ他宗派ノ用務ニ從ヒ損害ヲ派内ニ及ホシ又ハ派内ノ名譽ヲ汚シタル者
- 十八、猥リニ他宗派ノ寺院説教所ノ招聘ニ應ジタル者
- 十九、猥リニ他宗派ノ僧侶ヲ招キ説教又ハ法務ヲ爲サシメタル者
- 二十、罰金、拘留又ハ科料ニ處セラレタル事情重キ者
- 第二十三條 停僧儀ノ懲戒ニ處スヘキモノ左ノ如シ
  - 一、未教師無堂班ニシテ罷教師以下ノ懲戒ニ該當ヘキ反則ヲナセシ者
- 第二十四條 停教士ノ懲戒ニ處スヘキモノ左ノ如シ

- 一、宗意ニ悖リタル異說ヲ唱ヘタル者
- 二、品行不良ノ者
- 三、教士ニシテ正規ノ服裝ヲ濫ル者
- 第二十五條 譴責ノ懲戒ニ處スヘキモノ左ノ如シ
  - 一、過テ火ヲ失シ堂宇等ヲ燒亡シタル者
  - 二、過誤ニ依リ反則シタル者
  - 三、其他輕キ反則ヲ爲シタル者
- 第三章 附 則
- 第二十六條 第十七條第二號ハ管長事務取扱ニモ亦之ヲ準用ス
- 第二十七條 本條規ハ他ノ法規ニ於テ懲戒ヲ定メタルモノニモ亦之ヲ適用ス

附 則

本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

本法度ハ發布ト同時ニ之ニ牴觸スル法度ノ諸規程ヲ廢ス

○赦 免 例 (大正十年七月) 法度第七號

- 第一條 赦免、特免、免除及減輕ハ本例ニ定ムルトコロニ依ル
- 第二條 赦免ハ一派ノ最大慶弔ニ際シ法主ノ特命ニ依リ教示ヲ以テ赦免スヘキ懲戒ノ種目ヲ指定シテ之ヲ行フ
- 第三條 赦免ハ懲戒審決ヲ受ケタル者ニ對シテハ其審決ハ將來ニ向テ其效力ヲ失ヒ審決前ノ者ニ對シテハ其審決手續ヲ取消ス
- 第四條 赦免ヲ受ケタル者後日他ノ反則ニ依リ懲戒審決ヲ受ケルニ累反ヲ以テ論セス
- 第五條 特免ハ懲戒決行中ノ特定ノ者ニ對シ特別ノ事由アル場合法主ノ特命ニ依リ之ヲ行フ
- 第六條 免除減輕ハ懲戒決行中ノ前非悔悟ノ實跡アル者ニ對シテ之ヲ行フ
- 第七條 處刑ヲ受ケタルニ依リ懲戒ニ處シタル者ハ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル後滿一年ヲ經過セサレハ本例ヲ適用セス

附 則

本法度ハ發布ノ日ヨリ施行ス

監正・赦免例 事務員懲戒例

○事務員懲戒例 (大正二年九月) 大正七、五 甲教示第九號

- 第一章 總 則
- 第一條 事務員ニ對スル職務上ノ懲戒ハ本例ニ由ル
- 第二條 本例ニ於テ事務員ト稱スルハ本山ヨリ六ヶ月以上繼續シテ俸給手當ヲ給與セラレ又ハ例授以上ノ待遇ヲ受ケ派内ノ公務ニ從事スル者ヲ總稱ス財團等ノ獨立幹部ニシテ本山關係ノ團體事務員ハ之ニ準ス
- 第三條 事務員ニシテ懲戒ヲ受クヘキ場合左ノ如シ
  - 一、職務上ノ義務ニ違背シ又ハ職務上ノ過誤及怠慢アリタルトキ
  - 一、職務ノ内外中間ハス事務員ノ威嚴又ハ信用ヲ失フヘキ行為アリタルトキ
- 第四條 懲戒ヲ分チテ左ノ二種トス
  - 一、重懲戒
  - 二、輕懲戒
- 第五條 重懲戒ハ免職停職ノ二トシ減俸及金錢ノ損害賠償ヲ附加スルコトアルヘシ
- 第六條 免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ休職ト現職ト中間ハス他ノ職務ヲ帶フルトキ凡テ之ヲ免ス
- 第七條 免職ノ處分ヲ受ケタル者ハ滿二ヶ年ヲ經サレ

監正・事務員懲戒例

- ハ再ヒ事務員ニ任用セラレ、ヲ得ス
- 第八條 停職ノ處分ヲ受ケタル者ハ總テノ職務ヲ停止シ俸給及事務員ノ身分待遇ヲ停止ス
- 第九條 停職ノ處分ハ最小期限ヲ三ヶ月トス
- 第十條 本例ニ依リ免職ニ處セラレタル者ハ贊事名簿登錄及録事名簿登錄資格ヲ失フ
- 第十一條 輕懲戒ハ定年増加減俸證責ノ三トシ金錢損害賠償ヲ附加スルコトアルヘシ
- 第十二條 定年増加ハ一ケ年以内、減俸ハ一ヶ月以上一年以下俸給手當ノ三分ノ一以内ヲ限度トス
- 第十三條 證責ハ所屬幹部長若クハ執行長署名ノ文書ヲ以テス
- 第十四條 重懲戒輕懲戒ニ附加セラレタル辨償金ヲ納付セサル時ハ之ヲ寺法懲戒ニ移ス
- 第十五條 懲戒ニ附セラレヘキ事件ニ付キ寺法ノ懲戒審査ニ付セラレタルトキハ其審決ヲ終ルマテ事務員懲戒審査會ノ審議ヲ停止ス
- 第十六條 其職務ヲ去リタル後滿三ケ年以内ニ於テ該職ニ付懲戒ニ付スヘキ事實ヲ發見スルトキハ左ノ通り處分ス若シ事實ニシテ金錢ノ損害賠償ヲ伴フトキハ五ケ年以内ノ發見ニ及ヒ其處分ニ損害賠償ヲ附加ス

- 一、重懲戒ニ相當スヘキ者ニシテ本人總テ現職ニ在ラサレハ當時俸給額ノ三ヶ月分以内ニ於テ納金セシメ若クハ二ケ年以内ニ於テ休職又ハ豫備事務員ノ身分待遇ヲ停止シ又ハ之ヲ罷免ス
- 一、輕懲戒ニ相當スヘキ者ニシテ本人總テ現職ニ在ラサレハ當時俸給額ノ一ヶ月分以内ニ於テ納金セシメ若クハ一ケ年以内ニ於テ休職又ハ豫備事務員ノ身分待遇ヲ停止ス
- 一、賠償及納金ニ應セサルトキハ寺法懲戒ニ移ス
- 第十七條 數科併發シタルトキハ其重ニ從ヒ輕重ナケレハ其一ニ從テ之ヲ論シ再犯ノ場合ハ相當ノ加重ヲナス
- 第二章 申告並ニ懲戒手續
- 第十八條 上級事務員ハ所屬事務員ニシテ第三條ノ行爲アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ監正局長若クハ監正局監事ニ申告スヘシ他ノ事務員ニシテ爲メニ職務ノ阻礙ヲ受ケタルトキハ其事務員ヨリ一般僱侶ニシテ爲メニ損害ヲ受ケタルトキハ其僱侶ヨリ同シク申告ヲ爲スコトヲ爲
- 第十九條 監正局長若クハ監正局監事ハ前條ノ申告ヲ

監正・事務員懲戒例

- 受ケタルトキハ直ニ事實ノ調査ニ從事スヘシ若シ申告力監正局長及其ノ親屬ニ關スルトキハ臨時直命ヲ以テ特授事務員中若クハ親授一等贊事中ヨリ任命シ監正局長ノ事務ヲ執ラシム
- 第二十條 前條ノ事實調査ヲ了シタルトキハ監正局長ハ論告ヲ添ヘ調査書ヲ執行ニ提出スヘシ執行ハ事務員懲戒委員會ヲ開設シ該一件書類ヲ事務員懲戒委員長ニ回付シ審決セシム
- 第二十一條 事務員懲戒委員會ノ審査ハ本人ヲ召喚シ其申立ヲ聽取シタル上處分ヲ決ス但シ委員三分ノ二以上其必要ナシト認ムルトキ及本人之ニ應セサルトキハコノ限ニ非ス
- 第二十二條 本人ノ召喚ニハ懲戒處分ノ事實ナキ場合ニ限リ旅費實額ヲ給ス
- 第二十三條 初審審決ハ懲戒委員會ヨリ本人ニ申渡シ執行及所屬獨立幹部長ニ報告ス若シ本人及監正局長所屬獨立幹部長ヨリ十日以内ニ異議ヲ申立ツルトキハ再審ニ附ス
- 第二十四條 懲戒審決ハ再審ヲ以テ終審トス
- 第二十五條 審決ヲ了シタルトキハ監正局長ハ執行及所屬獨立幹部長ニ報告シ執行若クハ所屬獨立幹部長

ハ相當手續ノ上處分ヲ實行ス

- 第三章 事務員懲戒委員會
- 第二十六條 事務員懲戒委員會ハ委員三名若クハ五名ヲ以テ組織シ事務員中ヨリ臨時任命セラレ上席委員委員長トナル
- 第二十七條 再審委員ハ初審ト同人ヲ任命スルコトナシ
- 第二十八條 事務員懲戒委員會ノ審決ハ委員ノ多數意見ニ依ル若シ同數ナルトキハ委員長之ヲ決定ス
- 第二十九條 監正局長及監正局監事ハ事務員懲戒委員會ニ出席シ意見ヲ述フ
- 第三十條 事務員懲戒委員會ハ事件ノ調査不十分ト認ムルトキハ直接調査スルコトヲ得
- 第三十一條 事務員懲戒委員會ノ事務ハ特ニ係員ヲ任命スル場合ノ外監正局録事之ニ當ル
- 附 則
- 本敎示ハ大正二年十月一日ヨリ施行ス

監正・監正處分猶豫者身分資格規程 監正局監事駐在事務所ノ件

○監正處分猶豫者身分資格規程

(大正七年五月) 大正二二一  
甲教示第六號

第一條 處分決行猶豫期間ハ左記公職ニ就クテ得ス若シ就職中ノ者ハ即日退職ヲ命ス

本山事務員

學校教職員

布教使

特選會衆、總代會衆、教區會衆

各財團並係員

組長副組長、用係、組内協議員

婦人會、青年會等凡テ教會講社役員及一時任命ノ

事務員、雇員

第二條 處分決行猶豫者ハ左記各項ヲ其期間之ヲ停止ス

賞典 特別賞與條例 褒賞例、戰時教務賞與條例ノ受賞

恩典 相當冥加御禮金ニ依ラサル堂班、私記嘆

徳文、巡讃、特種衣體等ノ恩許ニ係ルモノ及酬勞年金

名譽ノ表彰 別格寺以外ノ侍眞、侍眞補、納衆前

職待遇

第三條 處分決行猶豫者ハ輕重懲戒ヲ分タス左ノ資格ヲ失フ

贊事名簿登錄

錄事名簿登錄

附則

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

本規程ニ牴觸スル從前ノ達令ハ之ヲ廢ス

○監正局監事駐在事務所ノ件

(大正七年五月) 大正七、八  
乙教示第一號

今般別記各所ニ監正局監事駐在セシメ教區及開教區城内賞罰ニ關スル調査事務ヲ取扱ハシム

(別記)

駐在	臺	朝	支	布	北
地	灣	鮮	那	哇	米
事	臺	朝	關	布	桑
務	北	鮮	東	哇	港
所	別	別	別	別	本
	院	院	院	院	願
					寺
					出
					張
					所

附則

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

監正・監正局監事駐在事務所ノ件



別院

堂班衣體

服制

別院職制、別院事務章程  
輪番、別院職制  
親授以上輪番登禮盤許可

別格寺衣體堂班衣體及常用心得  
勤前住上、衣體堂屬中、班、前、副住、特、許、宗、堂、出  
班繼退副住、堂、屬、中、班、前、副住、特、許、宗、堂、出  
差衣體皆復與記念五條、種、及、立、切、開、入、念  
袈裟、水、晶、珠、數、瓜、紅、中、啓、法、衣、許、取、法、之  
丸、等、紋、章、袈、珠、別、格、寺、堂、衣、體、許、取、法、之

服裝規程、事務員體表、外陣參拜席、衲衆事  
服務員巡讀衣體、事務員體表、外陣參拜席、衲衆事  
居講師、學、校、教、職、員、學、生、制、服、教、士、女、教、士、徽、章、安  
居講師、學、校、教、職、員、學、生、制、服、教、士、女、教、士、徽、章、安

別院

○別院職制(明治四十二年八月)  
(甲教示第二十八號) 明治四十二年八月二日

第一條 別院ハ法主ノ兼務ニシテ至重ノ法要ハ親修トス

第二條 別院ニ左ノ職員ヲ置ク

- 輪 番 一名
- 輪番助勤 若干名
- 參 勤 若干名
- 承 仕 若干名
- 堂 掌 若干名
- 勘 定 若干名
- 加 談 若干名

第三條 輪番ハ法務其他院内ノ事務及崇敬門末ノ教導ヲ掌リ所屬職員ヲ指揮監督ス

第四條 輪番助勤ハ輪番ヲ佐ケ輪番事故アルトキハ其事務ヲ代理ス

第五條 參勤ハ讚衆ヲ以テ任シ上職ノ指揮 受ケ法務ヲ佐ク

第六條 承仕ハ上職ノ指揮ヲ受ケ法務及庶務ニ従事ス

別院・別院職制 別院事務章程

第七條 堂掌ハ上職ノ指揮ヲ受ケ雜務ニ従事ス

第八條 勘定ハ輪番ノ指揮ヲ受ケ金穀出納ヲ取扱フ但シ本山ヨリ別ニ取扱人ヲ置キ勘定ニ參與セシムルコトアルヘシ

第九條 加談ハ輪番ノ諮詢ニ應シ院務ニ參與スルコトアルヘシ

附 則

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○別院事務章程(明治三十年七月)  
(教示第六號) 明治三十年七月八日

第一條 別院定例法會修行ノ時日勤式裝束ハ輪番ヨリ崇敬門末ニ達シ親修法要ノ時ハ出張會行事若クハ會役者ヨリ達スルモノトス

第二條 別院定例法會ノ勤式ハ別ニ之ヲ定ム

別院・別院事務章程

第三條 臨時法要ハ輪番ヨリ何出ツヘキモノトス  
 第四條 輪番ハ外陣ニ着席スルモノトス但シ侍眞侍眞補ニシテ輪番ヲ命セラレタルトキハ堂班ノ首席ニ着スルモノトス  
 第五條 直參門徒ノ法要葬式等ハ輪番ノ任務トス  
 第六條 輪番ハ別院ノ布教ニ關シテハ管事又ハ開教總長若ハ監督ト協同動作シ別院所屬ノ布教使ヲ指揮ス  
 第七條 別院ハ崇教門末ニ就キ法義篤信ニシテ名望アル者若干名ヲ舉ケ輪番ヨリ本山へ具申シ本山ヨリ勘定ノ囑託書ヲ交付スルモノトス但シ任期滿三年トス  
 第八條 別院ハ勘定ノ中ニ就テ三名以上五名以下ヲ選ビ當直勘定ヲ定ムルモノトス  
 第九條 勘定取締役一名當直勘定一名ハ別院ニ常勤スルモノトス  
 第十條 勘定取締役ハ一般勘定ノ首席トス  
 第十一條 勘定取締役又ハ當直勘定ニシテ總勘定ノ合議ヲ要スル場合アルトキハ其旨ヲ輪番ニ告ケ輪番ヨリ總勘定へ召集狀ヲ發スルモノトス  
 第十二條 前條召集ノ總勘定多數ノ意見ト取締役及當直勘定ノ意見ヲ異ニスルトキハ輪番之ヲ裁決スヘシ輪番若シ裁決シ難キトキハ本山ノ指揮ヲ乞フモノトス

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

○別格別院職制(明治三十八年 大正六八 教示第二十號)

第一條 別格別院ニ左ノ職員ヲ置ク  
 鑒事 一名  
 參勤 若干名  
 承仕 若干名  
 勘定 若干名  
 第二條 鑒事ハ住職ノ指揮ヲ受ケ法要其他ノ院務ヲ處理ス  
 院ノ維持發達ニ關スル事項ハ勘定ノ協議ヲ經ヘキモノトス  
 第三條 參勤ハ讚衆ヲ以テ任シ上職ノ指揮ヲ受ケ法務ヲ輔ク

別院・別格別院職制 別院表

西山別院	山城國葛野郡川岡村大字川島
北山別院	山城國愛宕郡修學院村大字一乘寺
角坊別院	山城國葛野郡西院村大字山之内

○別院表

第四條 承仕ハ鑒事ノ指揮ニ從ヒ法式並ニ堂内莊嚴ノ事ヲ處理ス  
 第五條 勘定ハ住職ノ指揮ニ從ヒ金穀出納ヲ取扱フ  
 第六條 專任住職ナキ別格別院ノ鑒事及勘定ノ職務權限ニ關シテハ別院職制事務章程中輪番及勘定ノ規定ヲ準用ス  
 附則  
 此職制ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第十三條 勘定取締役並ニ當直勘定ハ別院毎月ノ收入經費ヲ帳簿ニ明記シ月末ニ之ヲ計算シ過不足ヲ詳記シタル表ヲ作り各自記名押印シ輪番ノ證明書ヲ受ケ毎月本山ニ差出スヘシ但シ當月ノ分ヲ翌月五日限り差出スヘシ  
 第十四條 勘定ハ院費ノ節減ヲ口實トシテ教義宣布ノ費用支出ヲ拒ミ又ハ輪番ノ關ラサル事故ニ對シ支出スルコトヲ得ス  
 第十五條 勘定ハ佛事勤式等ノ法務ニ干涉スルヲ得ス  
 第十六條 別院所有ノ動産不動産ヲ職員ノ名受ニスルコトヲ得ス必ス本山或ハ別院ノ名受トスヘシ  
 第十七條 別院ノ財産賣買及金錢貸借ニ關スル事件ハ其都度本山へ委任狀ヲ請フモノトス  
 第十八條 前條ノ委任狀ヲ請ハスシテ監院又ハ輪番已下職名ヲ肩書シ役員ヲ用ヒ金錢ヲ借入ル、トモ全ク其取扱人ノ私債ニシテ本山及別院ニハ毫モ關係ナキモノトス  
 第十九條 別院規定經常豫算外ノ修繕新築撤裁ヲナサントスルトキハ本山ノ許可ヲ經ヘキモノトス

附則

別院・別院表

山科別院	山城國宇治郡山科村大字西野
近松別院	大津市南町
八幡別院	近江國蒲生郡八幡町
赤野井別院	近江國野洲郡玉津村大字赤野井
岐阜別院	岐阜市西野町
黒野別院	美濃國稻葉郡鷺飼村大字黒野
笠松別院	美濃國羽鳥郡笠松町字柳原
名古屋別院	名古屋市中區門前町
松本別院	松本市北深志町
築地別院	東京市京橋區築地三丁目
仙臺別院	仙臺市東一番町
函館別院	函館市東川町
江差別院	北海道檜山郡江差中歌町
小樽別院	小樽市小樽開運町
札幌別院	札幌市南四條西五丁目
帶廣別院	北海道十勝國河西郡帶廣町
福井別院	福井市尾上中町
吉崎別院	越前國坂井郡北鴻村大字吉崎
富山別院	富山市總曲輪
金澤別院	金澤市五寶町
小丸山別院	越後國中頸城郡府村大字愛宕國

三條別院	越後國南蒲原郡三條町
與板別院	越後國三島郡與板町
津村別院	大坂市東區本町四丁目
堺別院	堺市神明町東二丁目
尾崎別院	大阪府泉南郡尾崎村
鷺森別院	和歌山市鷺森
日高別院	紀伊國日高郡御坊村大字蘭浦
埴屋別院	丸龜市字埴屋
高知別院	高知市追手筋
廣島別院	廣島市寺町
萩別院	長門國阿武郡萩町西田町
四日市別院	豐前國宇佐郡四日市町
鹿兒島別院	鹿兒島市東千石町
臺北別院	臺北市新起街
大泊別院	樺太大泊
關東別院	支那盛京省大連若草山
鎮西別院	豐前國金敷郡大里町
布哇別院	布哇ホノル、
朝鮮別院	朝鮮京城若草町
釜山別院	朝鮮釜山

○別院輪番疊着席許可之件

(明治四十一年十二月乙達第五十二號)

各別院輪番

自今別院輪番(輪番助勤ヲ除ク)ニシテ調聲相勤メ候場

別院・別院表 輪番疊着席許可之件 親授以上ノ輪番へ登禮許可之件

人吉別院	肥後國球磨郡人吉町
三河別院	岡崎市傳馬町
長野別院	長野市西後町
顯證寺	河内國中河内郡久寶寺村大字久寶寺
本德寺	播磨國飾磨郡手柄村龜山
本善寺	大和國吉野郡吉野村大字飯貝
本照寺	攝津國三島郡富田村
明照寺	近江國犬上郡福滿村大字平田
德應寺	越中國東礪波郡井波町
福田寺	近江國坂田郡法性寺村大字長澤
善福寺	神戸市下山手通八丁目

○親授以上ノ輪番へ登禮許可之件

(大正二年四月乙達第十二號)

各別院(築地、津村、鎮西別院ヲ除ク)

自今親授以上ノ輪番ニシテ巡證御許可ノ者ハ該別院重要ナル法要ニ際シ登禮疊着席シ私記嘆徳文御傳授濟ノ者ハ報恩講ニ際シ右拜讀差許サル但シ常例ノ勤行ハ外陣ニ於テ調聲可致儀ト心得フヘシ

合ニ限リ特ニ左記疊着席ヲ許可セラレ  
疊 半疊厚サ曲尺二寸  
二方木綿縁大紋一個ヲ横列ス

堂班衣體・別格寺衣體並各堂班衣體之件

堂班衣體

○別格寺衣體並各堂班衣體之件

(明治四十一年十一月) 大正二、一、同七、三  
甲達第三十七號 同七、五

今般別格寺衣體並各堂班衣體別記ノ通り更改ス

(別記)

○別格寺衣體

- 一代金襴拵金錦地七條袈裟  
但シ金銀地浮織縫紋並四天王像又ハ四天ノ内ヘ  
四天外ニアル模様ヲ入ル、コトヲ許サス
- 修多羅ハ金銀糸ヲ許サス
- 一代鶉色白八ツ藤紋五條袈裟
- 一代鶉色綾地萌黃葡萄酒草小五條袈裟
- 一代紫色拵金離紋並拵金入錦地輪袈裟 但シ紅金銀地ヲ許サス
- 一代葉櫻色無紋精好緞子、紗綾 離紋衣
- 一代黒無紋精好目透紗綾 離紋並絞縮緬衣 但シ離紋縮緬ヲ許サス
- 一代紫 緯白無紋地切袴
- 淺黃 緯白無紋地切袴

○内陣上座一等

- 一代金襴並拵金錦地七條袈裟  
但シ金銀地浮織縫紋並四天王像又ハ四天ノ内ヘ  
四天外ニアル模様ヲ入ル、コトヲ許サス
- 修多羅ハ金銀糸ヲ許サス
- 一代白地金離紋五條袈裟 但シ從前鶉色免許ノ者ハ終身交換著用ヲ許ス
- 一代紫色綾地黃蓮華唐草小五條袈裟
- 一代紫色拵金離紋並拵金入錦地輪袈裟 但シ紅金銀地ヲ許サス
- 一代薄青色無紋精好緞子、紗綾 離紋衣
- 一代黒無紋精好目透紗綾 離紋並絞縮緬衣 但シ離紋縮緬ヲ許サス
- 一代紫 緯白無紋地切袴
- 内陣上座二等
- 一代金襴並拵金錦地七條袈裟  
但シ金銀地浮織縫紋並四天王像又ハ四天ノ内ヘ  
四天外ニアル模様ヲ入ル、コトヲ許サス
- 修多羅ハ金銀糸ヲ許サス
- 一代白地赤離紋五條袈裟 但シ從前鶉色免許ノ者ハ終身交換著用ヲ許ス

堂班衣體・別格寺衣體並各堂班衣體之件

○内陣本座二等

- 一代紫色堅地白桐唐草小五條袈裟
- 一代紫色拵金離紋並拵金入錦地輪袈裟 但シ紅金銀地並白離紋ヲ許サス
- 一代栗皮色無紋精好緞子、紗綾 離紋衣
- 一代黒無紋精好紗綾 離紋並絞縮緬衣 但シ離紋縮緬ヲ許サス
- 一代紫 緯白無紋地切袴
- 淺黃 緯白無紋地切袴
- 内陣本座一等
- 一代金襴並金入錦地七條袈裟  
但シ金銀地拵金浮織縫紋並四天王像又ハ四天ノ内ヘ四天外ニアル模様ヲ入ル、コトヲ許サス
- 修多羅ハ金銀糸ヲ許サス
- 一代紫色緯白白離紋五條袈裟
- 一代紫色緯白萌黃桐唐草小五條袈裟
- 一代金入錦地輪袈裟 但シ拵金浮織並離紋紫紅地ヲ許サス
- 一代藍海松茶色無紋精好緞子 離紋衣
- 一代黒無紋精好紗綾 離紋並無紋縮緬衣
- 一代紫 緯白無紋地切袴
- 淺黃 無紋綾地切袴

○内陣列座

- 一代金襴並金入錦地七條袈裟  
但シ金銀地拵金浮織縫紋並四天王像又ハ四天ノ内ヘ四天外ニアル模様ヲ入ル、コトヲ許サス
- 修多羅ハ金銀糸ヲ許サス
- 一代萌黃色堅地白離紋五條袈裟
- 一代萌黃色堅地黃桐唐草小五條袈裟
- 一代金入錦地輪袈裟 但シ拵金離紋並紫紅地ヲ許サス

堂班衣體・別格寺衣體並各同班衣體之件

- 一代錦茶色無紋精好緞子衣 但シ離紋ヲ許サス
- 一代黒無紋精好紗綾衣 但シ離紋ヲ許サス
- 一代紫無紋堅地切袴

○餘之間

- 一代小模様金襴並金入錦地七條袈裟
- 但シ金銀地摺金浮織縫紋並四天王像又ハ四天ノ内ハ四天外ニアル模様ヲ入ル、コトヲ許サス
- 修多羅ハ金銀糸ヲ許サス
- 一代松葉色堅地白離紋五條袈裟
- 一代淺黄色堅地萌黃桐唐草小五條袈裟
- 一代金入錦地輪袈裟 但シ摺金離紋並紫紅地ヲ許サス

- 一代淺黄色緞子衣 但シ離紋ヲ許サス
- 一代黒紗衣 但シ離紋ヲ許サス
- 一代紫無紋平絹切袴

○脇之間

- 一代金入竹屋町裂地並無金錦地七條袈裟
- 但シ縫紋紫紅地並四天王像又ハ四天ノ内ハ四天外ニアル模様ヲ入ル、コトヲ許サス
- 修多羅ハ金銀紫紅糸ヲ許サス

- 一代花色緞子地小紋白唐草五條袈裟
- 一代金入錦地輪袈裟 但シ摺金離紋並紫紅地ヲ許サス

- 一代黃極子色平絹袈裟衣 但シ離紋ヲ許サス

- 一代淺黄無紋平絹切袴

○外陣列座

- 一代無金唐草小模様錦地七條袈裟
- 但シ縫紋紫紅地並四天王像又ハ四天ノ内ハ四天外ニアル模様ヲ入ル、コトヲ許サス
- 修多羅ハ金銀紫紅糸ヲ許サス
- 一代淺黄無紋色緞子並絹地紫五條袈裟
- 一代金入錦地輪袈裟 但シ摺金離紋並ニ紫紅地ヲ許サス
- 一代薄紺色平絹衣 但シ離紋ヲ許サス
- 一代黒無紋紗緞子衣
- 一代淺黄無紋平絹切袴

○特別衣體

- 上座一等
- 一代紅葉重色衣
- 一代鶉色紋白五條袈裟(藤白唐草添之)

甲種特別衣體

- 一代裏栴檀(經藤鼠)色衣
- 一代紺玉蟲綾地沈織白摺金紋入交金茶古代唐草五條袈裟

上座二等

- 一代落葉重色衣(經白緯金茶除綾織)
- 一代白地平金紋五條袈裟

甲種特別衣體

- 一代葉裏色衣
- 一代紺玉蟲色堅地白摺金紋入交五條袈裟

本座一等

- 一代白地紫紋五條袈裟(地合堅地並精好紗ニ限ル)
- 一代青丹色衣(經萌黃緯柳茶)

甲種特別衣體

- 一代薄茶色衣
- 一代紫緯白堅地白平金紋入交五條袈裟

本座二等

- 一代薄葡萄色紋白五條袈裟
- 一代紫色堅地萌黃桐唐草小五條袈裟

内陣列座

- 一代焦茶色紋白五條袈裟

堂班衣體・別格寺衣體並各堂班衣體之件 衣體混用ヲ許ササル件

餘之間

- 一代淺黄色無紋精好衣
- 脇之間
- 一代花色離紋五條袈裟

外陣列座

- 一代黒絹衣

平僧

- 一代淺黄紙地五條袈裟
- 一代無金緞子地唐草小模様七條袈裟 但シ引懸

○衣體混用ヲ許ササル件(大正十年八月)

自今同堂班ニ於ケル通常特別甲種特別衣體ノ混用ヲ許サス

堂班衣體・許可衣體二級以上ニ互ル者ノ衣體着用ニ關スル件 所屬寺堂班衣體依願差許之件

○許可衣體二級以上ニ互ル者ノ衣體着用ニ關スル件 (大正十年八月) (甲達第十九號)

自今所屬寺ニ依ル堂班衣體許可ノ上ニ對配堂班衣體又ハ終身堂班衣體許可ノ者若クハ終身堂班衣體許可ノ上ニ對配堂班衣體許可ノ者ハ其何レノ堂班衣體ヲ着用スルモ差支ナシ但シ上級下級衣體ノ混用ヲ許サス

試補申付無之者ハ説教及葬儀取扱不相成ハ勿論ニ候條此段相違候事

但シ出願之手續重ニ衣體冥加之儀正副住職同様タルヘシ尙本文ニ抵觸セン從前ノ違ハ總テ廢止ノ儀ト可心得事

○所屬寺堂班衣體依願差許之件

(明治十六年五月) (甲達第五號)

末寺僧侶中

昨十五年(三月)甲第十一號ヲ以相違置候旨モ有之候處今般詮議之次第有之自今各寺住職ノ長男及無住寺前住職長男或ハ二男以下ト雖モ一家ノ戶主ニテ孰モ得度濟ニシテ所屬寺正副住職ニ可相成看据ノ者ニ限リ該寺堂班衣體依願着用差許候尤モ衣體着用差許候トモ教導職

○長男衣體許可ノ者へ自今依願出勤許可之件 (明治四十一年三月) (甲達第十四號)

末寺一般

明治三十六年五月甲達番外ヲ以テ長男衣體許可ノ者ハ本山及別院出勤等不被差許旨相違置候處自今終身堂班衣體着用許可ノ者ト同様依願出勤差許サレ

○教師對配衣體之件

(明治二十三年九月) (甲達番外)

本年甲達第三號ヲ以テ教師拜命ノ者ニ限リ本山ヲ除キ依願脇之間衣體ノ着用ヲ許ス

○特別衣體ハ通常衣體ト同時ニ願出ツヘキ之件 (明治二十四年一月) (乙達第一號)

正副總組長  
正副組長

從來堂班ニ附帶スル特別衣體願出之儀ハ各自ノ隨意ニ任セ置候處近頃ニ至リテハ右特別衣體ノ許可ナクシテ着用致候者有之哉ニ相聞ヘ屹度取締可致ニ付テハ今後堂班昇進ハ勿論正副住職繼席願之節該寺相當堂班衣體願ト同時ニ特別衣體着用許可願出ヘシ否ラサレハ繼席不被差許候條此旨組内各寺ヘ達シ置ク可シ

○教師對配衣體許可ノ者出勤差許之付

(明治四十五年一月) (甲達第五號)

明治二十三年九月甲達番外ヲ以テ教師對配衣體許可ノ者ハ本山及別院出勤等不被差許旨相違置候處自今終身堂班衣體着用許可ノ者ト同様依願出勤差許サレ

○前住職以上へ堂班被差許之件

(明治三十四年三月) (甲達第三號)

末寺一般

自今前住職以上ノ者依願其身一代堂班差許サレ

堂班衣體・教師對配衣體之件

教師對配衣體許可ノ者出勤差許之件 前住職以上へ堂班被差許之件

○副住職へ一代堂班許可之件

(明治三十八年六月  
甲達第九號)

自今副住職ニ對シ住職同様依願一代堂班差許サレ

堂班衣體・副住職へ一代堂班許可之件

末寺僧侶へ終身堂班許可之件

一般僧侶ノ終身堂班ニ關スル件

體着用依願被差許候ニ就テハ右許可ヲ受ケタル副住職  
又ハ衆徒ニシテ異日他寺へ轉スルモ其寺堂班ニ關セス  
終身堂班著席並ニ衣體着用スルヲ得ヘキハ勿論ニ候得  
共之ヲ末寺ノ永代堂班ニ差繼キ候儀ハ不相成候條此旨  
部内へ漏レナク通達スヘシ

○末寺僧侶へ終身堂班許可之件

(明治三十七年十一月  
甲達第十六號)

自今末寺僧侶一般へ願ニ依テ終身堂班著席並ニ衣體着  
用差許サル

○一般僧侶ノ終身堂班ニ關スル件

(明治三十七年十一月  
乙達第三十九號)

今般甲達第十六號ヲ以テ一般僧侶へ終身堂班著席並衣

○所屬中堂班許可之件

(明治四十五年一月  
甲達第四號)

今般住職看据ノ者ニシテ一代堂班昇進希望者ハ左記各  
項ニ依リ所屬中堂班ヲ許可ス但シ右ハ其寺住職許可ノ  
際ハ永代堂班ニ差繼クコトヲ得ルモ他寺へ轉屬スル場  
合ハ自然消滅ス

- 一、冥加金ハ明治三十八年甲達第十五號第五號表一  
代堂班昇進冥加額ニ依ル
- 一、本末共保財團ニ於テ賞與トシテ取扱フ所屬中堂  
班ハ本達示ニ依ルモノトス

○前任職及副住職堂班差繼之件

(明治四十三年八月  
甲達第二十二號)

明治三十四年甲達第三號ニ依リ前任職以上及同三十八  
年甲達第九號ニ依リ副住職へ許可セラレタル一代堂班  
ハ自今永代ニ差繼クコトヲ得

但シ左記ノ通り心得ヘシ

- 一、前任職以上へ許可ノ一代堂班ヲ永代ニ差繼クト  
キハ其寺住職及副住職又副住職へ許可ノ一代堂  
班ヲ永代ニ差繼クトキハ其寺住職ハ同寺ニ該堂  
班ニ對スル衣體着用願出ヘシ
- 一、右ノ場合ニ於テ所屬寺堂班衣體着用許可濟ノ衆  
徒アル向ハ前同様ノ手續ヲ爲ササレハ其衣體着  
用ノ資格消滅ス

○功勞特許終身堂班差繼許可之件

(明治四十年十一月  
甲達第三十七號)

從來功勞ニ依リ特許セラレタル終身堂班ハ永代ニ差繼  
クコトヲ得

末寺 一般

○退副住職該寺堂班衣體着用不相成件

(明治四十二年三月  
甲達第二十二號)

自今副住職辭退ノ者ハ該寺堂班ノ衣體着用ヲ許サス

堂班衣體・前任職及副住職堂班差繼之件 功勞特許終身堂班差繼許可之件



○傳燈奉告會記念袈裟被差許之件

(明治三十六年四月 甲達第二十五號)

末寺 一般

今般傳燈奉告會記念トシテ出勤堂班ヘ特ニ左ノ通り五條袈裟著用差許サル

- 一、五條袈裟 綾地萌黄色 白紋下リ藤紋章
- 右本座一等已上 紫 檜垣
- 一、五條袈裟 堅地萌黄色 白紋下リ藤紋章
- 右餘之間已上本座二等迄 紫 檜垣
- 一、五條袈裟 堅地萌黄色 白紋下リ藤紋章
- 右脇之間以下平僧地迄 黄亂藤紋

○大遠忌記念五條袈裟制定之件

(明治四十四年一月 甲達第七號)

末寺 一般

今般宗祖大師六百五十回大遠忌報恩講記念トシテ出勤

大遠忌記念五條袈裟制定之件

者並ニ山務ニ從事シ出勤シ能ハサル職員及各種布教使ニシテ堂班許可ノ者ヘ特ニ左ノ通り五條袈裟著用差許サル

(左記)

- 一、五條袈裟 綾地藤色、向鶴丸 白浮織、摺金紋入交
- 右連枝、衲衆、侍眞、侍眞補、別格寺
- 一、五條袈裟 綾地藤色、向鶴丸 白堆織、摺金紋入交
- 右内陣上座一等、二等
- 一、五條袈裟 堅地藤色、向鶴丸 白堆織、平金紋入交
- 右内陣本座一等、二等、内陣列座
- 一、五條袈裟 堅地藤色、向鶴丸 白堆織、金茶紋入交
- 右餘之間、脇之間、外陣列座
- 一、五條袈裟 堅地藤色 向鶴丸黄紋
- 右平僧地

○立教開宗七百年記念慶讃法要記念衣體制定之件 (大正十二年三月 甲達第八號)

末寺 一般

立教開宗七百年記念慶讃法要堂班出勤者及法要事務ニ參加セル事務員並ニ布教使ニシテ堂班許可ノ者ニ對シ別記記念衣體ノ著用ヲ差許サル

(別記)

白 無紋衣

○大遠忌記念五條袈裟成替願之件

(明治四十四年七月 甲達第三十號)

末寺 一般

本年甲達第七號大遠忌報恩講記念五條袈裟著用許可ノ者ニシテ其後堂班昇進ノ爲メ記念五條袈裟著用シ能ハサル者ヘ今般特別ヲ以テ既定ノ記念五條袈裟著用被差許候條左標ニ依リ許狀成替出願致スヘシ

昇進堂班	御禮金
別格寺	金五拾圓
内陣上座二等	金貳拾五圓
内陣列座	金拾五圓
外陣列座	金五圓

○各別院開宗記念慶讃法要出勤者ヘ記念衣體許可之件 (大正十二年五月 甲達第十九號)

自今各別院ニ於ケル立教開宗七百年記念慶讃法要出勤ノ堂班許可ノ者ニ對シ記念衣體ノ着用ヲ許サル

堂班衣體・大遠忌記念五條袈裟成替願之件 立教開宗七百年記念慶讃法要記念衣體制定之件

堂班衣體・特種五條袈裟並ニ紋切袴着用特許規程

○特種五條袈裟並ニ紋切袴着用特許規程

(明治四十三年三月) 大正一〇、二

(甲) 達第十號

第一條 末寺正副前住職及堂班許可ノ衆徒ニシテ本山基金上納者ニ限リ其希望ニ從ヒ別表ニ依リ特種五條袈裟紋切袴ノ着用ヲ特許ス  
檀信徒ノ本山基金上納者ニ限リ其希望ニ從ヒ所屬寺正副前住職及堂班許可ノ衆徒ニ前項同様ノ着用ヲ特許ス

(別表)

第一號表	
寺格	五條袈裟
別格寺	梅重色(經白緯紅梅)綾地摺金金紋
上座一等	梅色綾地摺金金紋
上座二等	梅色堅地摺金金紋
本座一等	紫色堅地摺金金紋
本座二等	白堅地紫紋綠金
初代又ハ終身堂班許可者上納金	金八百圓
二代上納金	金五百圓

第二條 前條特許者ニシテ其後堂班昇進シ更ニ本山基金へ追納スルトキハ該堂班規程ノ五條袈裟紋切袴着用ヲ特許ス  
前項追納金ハ規定金ノ内ヨリ既納金ヲ減シタル差額ヲ上納スルモノトス  
第三條 本規程ハ明治四十三年六月一日ヨリ施行ス  
第四條 本規程施行ト同時ニ明治三十六年七月甲達第三十五號教學費獻金賞與規程ヲ廢ス

第二號表

寺格	紋切袴	紋徑	初代又ハ終身堂班許可者上納金	二代上納金
別格寺	經花田緯白綾地紋雲八藤	五寸		
上座一等	經金茶緯白綾地紋松鶴丸	四寸五分	金八百圓	金四百圓
上座二等	經鶴茶緯白堅地紋松之丸	四寸五分	金六百圓	金參百圓
本座一等	經白緯萌黃地紋梅之丸	四寸三分	金四百圓	金貳百圓
本座二等	經白緯茶堅地紋梅之丸	四寸三分	金參百圓	金百六拾圓
內陣列座	經緯共紫色堅地同色梅之丸	四寸	金貳百圓	金百貳拾圓
餘之間	經緯共黃梔子色堅地紋同色竹之丸	四寸	金壹百圓	金六拾圓

堂班衣體・特種五條袈裟並ニ紋切袴着用特許規程

堂班衣體・復興記念賞與五條袈裟着用許可規程

○復興記念賞與五條袈裟着用許可規程

(大正十三年九月 甲達第十五號)

末寺一般

今般復興記念賞與五條袈裟着用特許規程左ノ通相定ム

復興記念賞與五條袈裟着用特許規程

第一條 末寺正副前住職及堂班許可ノ衆徒ニシテ復興

懇志進納者ニ限リ賞與トシテ其希望ニ從ヒ別表ニ依

リ記念五條袈裟ノ着用ヲ特許ス

檀信徒ノ復興懇志進納者ニ限リ其希望ニ從ヒ所屬寺

正副前住職及堂班許可ノ衆徒ニ前項同様ノ着用ヲ特

(別表)

許ス

第二條 前條特許者ニシテ其後堂班昇進シ更ニ復興懇

志進納スルトキハ該堂班規程ノ五條袈裟ノ着用ヲ特

許ス

前項進納金ハ規定標準額ノ内ヨリ既納金ヲ減シタル

差額ヲ上納スルモノトス

第三條 懇志進納者ニシテ其後堂班ニ異動ヲ生シタル

トキハ本規程ニ依リ曾テ得タル五條袈裟着用ノ許可

ハ消滅スルモノトス

第四條 本規程ハ大正十三年九月一日ヨリ施行ス

(別表) 別記ノ通り

復興記念賞與五條袈裟

堂班種別	五條袈裟	特許標準額		
		初代又ハ終身堂班許可者	二代	三代以後
上座一等甲種特別	紺玉蟲色綾地平金三重襷白撚金紋入交	金貳千圓以上	金千五百圓以上	金壹千圓以上
上座一等特別	鶉色綾地平金三重襷白撚金紋入交	金壹千圓以上	金七百圓以上	金五百圓以上
上座一等通常	白綾地平金三重襷金紋	金四百圓以上	金貳百五十圓以上	金百五十圓以上

備考

一、紋徑ハ一寸六分(丸紋以外ハ此寸法ニ準ス)

二、紋數ハ堅五、横十四、總數七十トス

三、紋型ハ成規ノモノヲ除ク外隨意トス

上座二等甲種特別	紺玉蟲色堅地白楡垣白撚金紋入交	金四百圓以上	金貳百五十圓以上	金百五十圓以上
上座二等特別	白色堅地赤楡垣平金紋	金四百圓以上	金貳百五十圓以上	金百五十圓以上
上座二等通常	白色堅地紫楡垣平金赤紋入交	金參百圓以上	金貳百圓以上	金壹百圓以上
本座一等甲種特別	紫色綾白堅地白籠目平金白紋入交	金百七拾圓以上	金百參拾圓以上	金七拾圓以上
本座一等通常	白色堅地萌黃籠目紫紋	金百五十圓以上	金百貳拾圓以上	金六拾圓以上
本座二等	薄葡萄酒色堅地萌黃籠目白紋	金百五十圓以上	金壹百圓以上	金五拾圓以上

堂班衣體・復興記念賞與五條袈裟着用許可規程

堂班衣體・特殊五條袈裟並ニ紋切袴着用特許之件 金入疊袈裟之件 皆水晶珠數爪紅中啓之件

○特殊五條袈裟並ニ紋切袴着用特許之件

(明治四十三年五月) (甲達第十六號)

本年甲達第十號ヲ以テ特殊五條袈裟並ニ紋切袴着用特許規程發布候處從來教學費獻金者ニ對スル五條袈裟着用特許候者ハ來ル六月以降ト雖モ從前ノ通り着用差支無之儀ト相心得ヘシ

○皆水晶珠數爪紅中啓之件 (明治十一年二月) (達書第七號)

從來皆水晶珠數並ニ爪紅中啓ハ妄リニ依用不相成候處近頃右成規ヲ亂シ候者モ往々有之不都合ニ候自今授與無之者ハ依用不成相候條此段相違候事

末寺僧侶中

○金入疊袈裟之件 (明治四十三年九月) (乙達第三號)

各府縣下

正副總組長 正副組長

金入疊袈裟ハ特別拜領ノ者ヲ除ク外末寺一般着用不相成候處往々着用致候者有之趣不都合ノ次第ニ付速ニ其着用ヲ差止メ其旨本山ニ申出ヘシ

○藤之丸其他紋章袈裟着用之件

(明治四十一年十二月) (大正一〇、八) (甲達第四十二號)

本山ノ許可ヲ經サルモノハ藤之丸(下リ藤)桐(五七)鶴之丸紋章袈裟ノ着用ヲ許サス但シ從前ヨリ拜領セル者ハ更ニ着用ヲ願出ヘシ

○法衣亂用取締之件 (明治四十二年九月) (訓告第十一號)

末寺一般

近來着用未タ差許サレサル者ニシテ金紋五條袈裟又ハ離紋ニ紛ラハシキ輪袈裟ヲ亂用シ或ハ紫緯白切袴ヲ著用スヘキ者ニシテ紫切袴ヲ用ユルカ如キ規定違反ノ者往々ニシテ有之哉ニ聞ヘ候處斯クノ如キハ派内ノ規律ヲ壞リ秩序ヲ紊ルコト恐カラス自今一層犯則者ノ取締ヲ嚴重ニ致スヘク候條各自堅ク規定ヲ遵守スヘシ右特ニ訓告ス

○別格寺衣體各堂班衣體許狀並ニ取扱法

其一 (大正十年三月) (甲達第一號)

今般別格寺衣體各堂班衣體許狀更改並ニ其取扱法ヲ別記之通り相定ム  
但シ本甲達ハ大正十年五月一日ヨリ施行ス  
一、衣體許狀ハ左記離形之通り第一號、第二號、第三號ノ三種トス

堂班衣體・法衣亂用取締之件 別格寺衣體各堂班衣體許狀並ニ取扱法 其一

(第一號)

第 號	何府縣何市郡何町村
割 印	何 寺
今般其寺永代内陣上座二等被差許候事	
大 正	執 行
所 年	所 月 日
所 印	
執 行 所	

(第二號)

第 號	何府縣何市郡何町村
割 印	何 寺
今般其寺所屬中内陣本座一等着席並通常衣體特別衣體甲種特別衣體特別五條袈裟紋切袴着	
何 某	

堂班衣體・別格寺衣體各堂班衣體許狀並ニ取扱法 其二 其三

用(巡讀衣體着用)右被差許候事

大正	執行
所年	月日
印	
執行	所

(第三號)

第 號

何府縣何市郡何町村

割印

何寺住職(副住職前住職又ハ衆徒)

何 某

今般終身内陣本座一等着席並通常衣體特別衣體特種五條袈裟紋切袴着用右被差許候事

大正 執行 所年 月日

執行 所

二、前項三種ノ許狀ニハ其許可ノ種類ヲ記入ノ上交付シ尙別格寺衣體並各堂班衣體表ヲ添付ス

其二 (大正十年三月) 甲達第二號

從來得度許可ノ者ニハ得度衣體許狀ヲ交付セルモ自今該許狀ヲ廢止シ別格寺衣體並ニ各堂班衣體表ヲ交付ス

其三 (大正十年三月) 甲達第三號

自今住職許可ノ者ニハ住職申付辭令ノミヲ交付スルコトトシ繼席許狀ハ廢止ス

服 制

○服裝規程 (明治四十一年十一月) 大正四、一〇〇 甲教示第五十二號 同〇、一〇〇

第一條 衣(別圖ノ如シ)ヲ色衣、黒衣ノ二種トシ袈裟ヲ七條、五條、小五條、疊、輪袈裟ノ五種トス

第二條 服裝ヲ分テ左ノ二類トス

第一類

- 禮 裝(一種) 色衣 七條 切袴
  - 禮 裝(二種) 黒衣 七條 切袴
  - 正 裝(一種) 色衣 五條 切袴
  - 正 裝(二種) 黒衣 五條 切袴
  - 略 正 裝(一種) 色衣 五條
  - 略 正 裝(二種) 黒衣 五條
  - 略 裝(一種) 黒衣 小五條
  - 略 裝(二種) 黒衣 疊袈裟
- 但シ禮裝ニハ僧綱板ヲ附着ス

第二類

- 正 服(一種) 色衣 輪袈裟又ハ疊袈裟 切袴
- 正 服(二種) 色衣 輪袈裟又ハ疊袈裟 切袴
- 略 服(一種) 黒衣 輪袈裟又ハ疊袈裟 袴

服 制・服裝規程 服裝規程細則

○服裝規程細則 (大正六年一月) 大正一〇、一〇〇 甲達第七號 同一〇、一〇〇

一、禮裝ニ附着スヘキ僧綱板ハ衣ト連續作製スルヲ禁ス

略 服(二種) 黒衣 輪袈裟又ハ疊袈裟

但シ疊袈裟ハ本山事務員其他特許セラレタル者ニ限ル

略 服(三種) 布袍 輪袈裟又ハ疊袈裟 俗袴

第三條 第一類服ニハ中啓ヲ用ユ 附 則

本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス 本規程ニ牴觸スル從前ノ諸達示ハ之ヲ廢ス

別圖(難形略之)

衣(色衣ハ從前ノ半素絹形 黒衣ハ袖ヲ縮ム)

服制・服裝規程細則 事務員衣體表

- 一、巡禮衣體ニハ僧綱板ヲ禁ス
- 一、第一類服ニハ必ス白服白襪ヲ用ヒ第二類服ニハ白服俗服又ハ洋服ヲ用フルコトヲ得
- 一、一種略服ノ袴ハ切袴又ハ俗袴ヲ用フルコトヲ得但シ切袴ハ白服ノ時ニ限ル
- 一、正服ノ帽ハ通常黒絹帽又ハ黒羅紗高帽ヲ用フ但シ略服ニ限リ夏季ニハ草帽ヲ用フルコトヲ得
- 一、一種禮裝ヲ用フルハ主トシテ報恩講、御歴代年忌慶讃會、葬儀等トス
- 一、一種正裝ヲ用フルハ主トシテ高祖大師、前住上人御忌日、御歴代祥忌、降誕會、修正會、除夜會、

- 一、證佛會、歡喜會等トス
- 一、一種略裝ヲ用フルハ主トシテ晨朝日没等トス
- 一、第一類二種服ヲ勤式ニ用フルコトハ特ニ指定スル場合ニ限ル
- 一、官吏ノ大禮服ヲ着用スヘキ儀式ニ參列スルトキハ一種正服トシ通常禮服ノトキハ一種略服トス
- 一、結衆參仕ノ服裝ハ別ノ規程ニ依ル
- 一、布敷使ノ布敷服裝ハ左ノ如シ
- 御消息並ニ御直諭(御垂示)披露一種正裝
- 說教、二種略正裝又ハ一二種略裝
- 法話、講演一二三種略裝又ハ一二種略服

○事務員衣體表

役名	色	衣	五	條	小	五	條	切	袴
執行	綠	葉	色	紫綾地下藤紋白浮織	○			薄色堅地紫緯白雲八藤大紋	

服制・事務員衣體表

會行事	副會行事	侍眞補眞	侍眞長	守眞堂	知眞	輪番	輪番助勤	別院參勤	本山(稟授) 役員(以上)	本山承仕	本廟承仕	別院承仕	本山堂掌	別院堂掌
白 薔 躑 色	○	木 桑 色	黑	黑	黑	黑	黑	黑	○			無 紋 黑 色		
紫地鶴丸紋白浮織	紫地鶴丸紋白浮織	紫地紋白	紫地紋白	紫地紋白	紫地紋白	紫地紋白	紫地紋白	紫地紋白	紫地紋白	紫地紋白	紫地紋白	紫地紋白	紫地紋白	紫地紋白
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

道テ明治四十四年八月甲達第三十三號、明治四十四年八月甲達第三十六號、大正五年十一月甲達第二十七號  
 明治四十年八月所達第五十一號ヲ總集セシモノナリ

服制・外陣參拜席制定之件 衲衆衣體之件

○外陣參拜席制定之件 (大正十三年四月 告示第五號)

今般第三種服裝制定ニ就テハ外陣參拜席別記之通定メラル

(別記)

- 一、北餘間下役員席(服裝第三種ニテモ差支ナキコト)
- 一、南餘間一般僧侶(第三種)
- 一、正面 從來ノ服裝

巡讀衣體 事務員疊袈裟之件

○巡讀衣體

- 一、白衣 緞子、紗、綾紗、離紋(本座二等ハ離紋ヲ許サス)無紋 精好

○事務員疊袈裟之件

(明治四十一年二月) (明治四十二年十月) (甲達第九號) (同七、五、同九、六、七)

明治四十一年二月甲達第九號本山事務員疊袈裟別記之通更改相成ル

○現役事務員略章之件 (大正十三年五月 甲達第八號)

今般大正十二年九月發布ノ甲達第三十二號ヲ廢シ現從事務員略章別記ノ通相定ム

(別記)

紋章 下リ藤

服制・現役事務員略章之件 集會會衆疊袈裟制定之件

役名	地合	地色	地模様	紋章	徑	紋數
執	行綾	紺玉	蟲	海松菱	下	金徑一寸六分
侍眞	堅地	木	桑色	菊菱	浮	藤徑一寸六分
侍眞	堅地	香	色	若松菱	浮	藤徑一寸六分
特授役員	堅地	松葉	重	小葵	白糸沈	藤徑一寸五分
親授役員	堅地	松葉	重	花菱	白糸沈	藤徑一寸四分
稟授役員	堅地	藍海	松茶	千草	白糸沈	藤徑一寸二分
例授役員	堅地	鐵	納戸	無地	下	白糸沈藤徑一寸二分

(別記)

○衲衆衣體之件 (明治四十一年十二月 甲達第四十號)

- 一、香色衣 經栗皮色 緯黃色
- 一、紫地浮織紋白五條袈裟
- 一、藤丸大紋切袴

地質 銀、七寶

色合 綠及蔓ハ金色花ハ白色

徑 四分

冥加 金壹圓

○集會會衆疊袈裟制定之件

(明治四十一年十月) (甲達第四十二號)

今般集會會衆疊袈裟別記之通制定相成ル

(別記)

地合堅地、地色青丹、地模様紫色藤露、紋章白糸沈織下リ藤、紋徑一寸四分、數二、裏地白羽二重

服制・集會會衆略章之件 本願寺布教使輪袈裟制定之件 本願寺布教使輪袈裟冥加表

○集會會衆略章之件 (大正十四年二月) (甲達第三號)

今般集會々衆略章別記ノ通相定ム

(別記)

紋章 下リ藤  
地質 銀、七寶  
色合 綠及蔓ハ金色、花ハ藤紫色  
徑 六分

○本願寺布教使輪袈裟制定之件

(明治四十年七月) (甲達第四十六號) (大正十四年七月) (甲達第三十六號)

等級	種別	色目	地合	地模様	章紋數	紋徑
特授	松葉色堅地	紫	紫	燃金紋	二	一寸七分
親授	松葉色堅地	紫	紫	燃金紋	二	一寸五分
粟授	松葉色堅地	紫	紫	平金紋	二	一寸五分
例授	松葉色堅地	紫	紫	金茶紋	二	一寸五分

但シ現品ノ下附ハ規定ノ冥加ヲ上納スベシ

○本願寺布教使輪袈裟冥加之件

(大正十二年七月) (乙達第廿五號)

本願寺布教使一般

本年五月甲達第二十一號ヲ以テ制定セル本願寺布教使輪袈裟冥加金別記之通リ相定ム

(別記)

等級別	冥加額
特授	金五圓五拾錢
親授	金五圓
粟授	金四圓五拾錢
例授	金四圓

但シ送料金拾八錢ヲ要ス

○立教開宗七百年記念傳道參與布教使賞與輪袈裟

(大正十一年六月) (甲達第十九號)

今般立教開宗七百年記念傳道參與布教使賞與輪袈裟別記之通リ制定相成ル

(別記)

等級	地合	地模様	紋章	紋徑	紋數
專授以上	紫紺	松葉色白糸沈織	藤五三桐綠金	一寸五分	二
例授	紫紺	松葉色白糸沈織	藤五三桐	一寸五分	二

用ユ

一、襟ハ黒糸ヲ以テ縫ヲ施シ地ヲ曼字崩トシ五三桐紋三箇ヲ附ス

一、略圖(省略ス)

○本願寺布教使略章之件 (大正十二年九月) (甲達第十三號)

今般本願寺布教使略章別記ノ通リ相定ム

(別記)

等級	紋章	地質	色合	寸法	裏面	冥加
特授	五三桐銀七寶	黃	黃	縦六分 横六分	本派本願寺教務部	金壹圓
親授	〃	〃	淡紫	〃	〃	〃
粟授	〃	〃	紺青	〃	〃	〃
例授	〃	〃	淺黃	〃	〃	〃

但シ送料金拾貳錢ヲ要ス

刑務女教誨師服裝左之通制定ス

一、色目ハルテ黒色トシ縫、セル、アルバカ地等ヲ

○刑務女教誨師服裝制定之件

(明治四十二年十一月) (內布令第三十八號)

女教誨師一般

服制・立教開宗七百年記念傳道參與布教使賞與輪袈裟 刑務女教誨師服裝制定之件



服制・佛教大中學教職員輪袈裟之件 佛教中學及中學校教職員學生疊袈裟制定之件

○佛教大中學教職員輪袈裟制定之件

(明治三十五年八月) 大正二二三  
(甲達第十七號)

山立大、中學、中學校、女學校、中央佛教學院教職員  
輪袈裟左ノ通り定メラル但現品ハ申出ニ依リ執行所ヨ  
リ下付ス

等級	色目	地合	紋	紋數	紋徑
特授	茶	堅地	地模樣ナシ	二十	一寸六分
親授	一二三等	同	六ツ	二十	同
稟授	一、二等	同	六ツ	十八	同
稟授	三、四、五等	同	同	十六	同

○佛教中學及中學校教職員學生疊袈裟制定之件

(明治四十二年十一月) 大正二二三  
(甲達第五十四號)

今般山立佛教中學及中學校女學校中央佛教學院教職員  
學生疊袈裟別記之通制定相成ル

(別記)

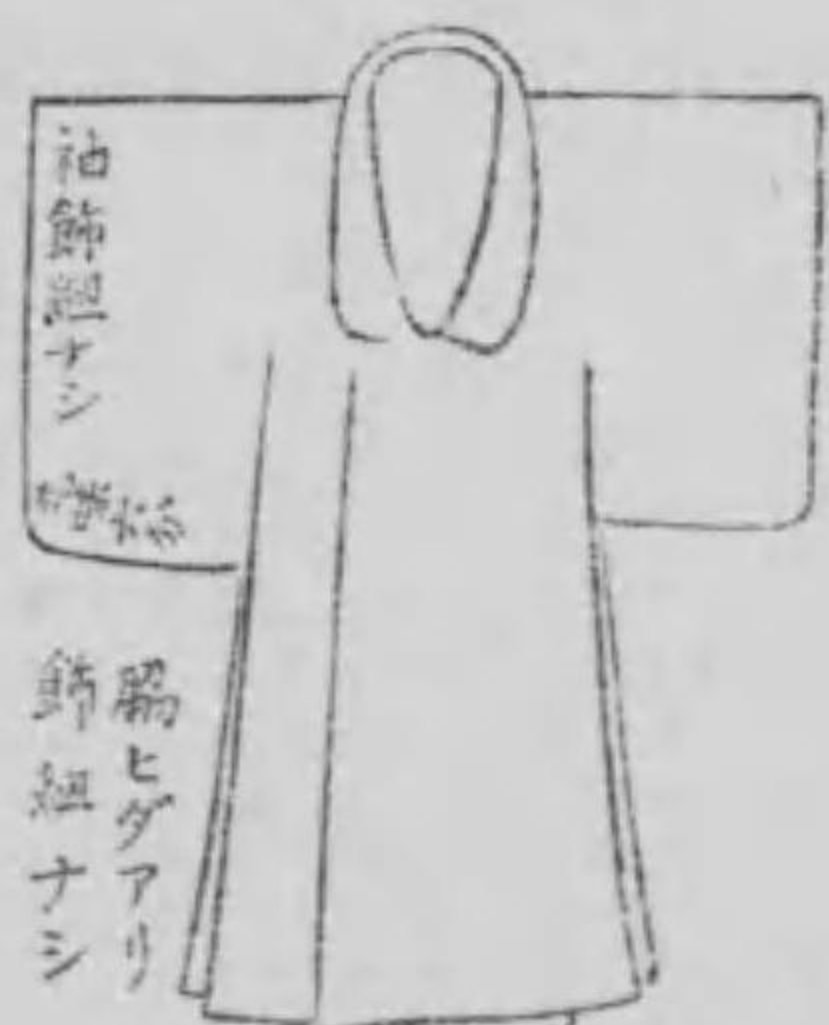
等級	地合	地色	地模樣	紋章	紋徑數	裏地
親授	堅地	煤竹唐草	白糸堆織	一寸五分	白羽二重	
稟授	同	同	六ツ	一寸四分	同	
例授	絹地	同	同	一寸三分	白絹地	
學生	同	ナシ	同	同	同	

司教 藍海松茶地紋白六藤疊袈裟

○女教士制服 (大正十二年二月)

(甲達第五號)

(別記)



襟 黒糸模樣縫  
唐草三藤折枝



女教士制服

○安居講師疊袈裟被下之件

(明治二十五年八月)  
(局達番外)

安居本講副講相勤候勸學司教へ左記之通疊袈裟被下候  
條爲心得此段相達候事

勸學 白茶地胡茶地紋白六藤疊袈裟

服制・有階者輪袈裟之件 安居講師輪袈裟被下之件

階級	色目	地合	紋	紋數	紋徑	地模樣
勤學	青、黃、青、黃、綠	堅地	六ツ	二十一	一寸六分	地模樣ナシ
司教	同	同	同	二十	一寸五分	但唐草
輔教	同	同	平金	同	一寸四分	同
助業	同	同	六ツ	十八	一寸三分	同
得業	同	同	同	十六	一寸二分	同

○有階者輪袈裟之件 (明治三十五年八月) 大正二二三  
(甲達第十八號) 一五九  
今般有階者輪袈裟左ノ通り定メラル但現品ハ申出ニ依  
リ執行所ヨリ下付ス

山内一般

服制・教士並女教士徽章制定之件

地 無紋  
羽二重  
アルバカ 貫紗

色 黒  
セ  
地  
紫紺

○教士並女教士徽章制定之件

(大正十二年二月  
甲達第六號)

派内一般

今般教士並女教士徽章別記ノ通り相定ム

(別記)

表面

紋

銀臺七寶燒  
地名綠銀杏(黄)菊崩シ  
(銀)模様  
徑曲尺七分五厘

裏面

本派本願寺  
教士章

浮文字

他宗派交渉

婦人青年會

青年會	青年會	青年會	女子青年會	婦人會	婦人會	真宗十派協和會	他宗僧侶歸參	他派法主招請	大佛谷寺	誠光照寺	出雲寺	山元寺	興正寺
會	會	會	會	會	會	會	會	會	派	派	派	派	派
規	規	概	準	準	規	會	會	會	派	派	派	派	派
程	程	則	則	則	程	會	會	會	派	派	派	派	派
旗	會	會	會	會	會	會	會	會	派	派	派	派	派

(268)

服制・教士並女教士徽章制定之件

地 無紋  
色 黒  
羽二重  
アルバカ 貫紗  
矜地 七ル  
色 紫紺

○教士並女教士徽章制定之件

(大正十二年二月 甲達第六號)

今般教士並女教士徽章別記ノ通り相定ム

(別記)

派内一級

表面

紋

銀臺七寶燒  
地名綠銀杏(黃)菊刷シ  
(銀)模様  
徑曲尺七分五厘

裏面

本派本  
寺額本  
章士教

浮文字

他宗派交渉

婦人青年會

興正寺派  
山元寺派  
出雲寺派  
誠照寺派  
佛光照寺派  
大谷寺派  
他派主招  
他宗僧侶歸參  
真宗十派協和會

婦人會本部規程  
女子青年會準則  
青年會本部規程  
青年會本部規程  
青年會本部規程

興正寺派別立之件

興正寺派別立之件

他宗派交渉

○興正寺派別立之件其一(明治九年九月)

(達書第六十六號)

末寺僧侶中

今般興正寺一派別立ノ儀御開届相成候ニ付權大教正華園攝信殿ヨリ申出ノ趣有之今後五派中一管長ニテ布教上取締ハ勿論教義事務取扱致候旨管長ヨリ教部省へ届出相成候趣通知有之候就テハ兩派門末ニ於テ彼我ノ偏執ヲ挟ミ鬪鬪ノ醜態ヲ醸候様ノ儀無之様門徒末々迄篇相諭可申此段相達候事

○興正寺派別立之件其二(明治九年九月)

(達書第六十四號)

末寺僧侶中

先般興正寺住職權大教正華園攝信殿ヨリ同寺下寺ノ内同志ノ者ニ限リ引率別派致度候段懇願有之候ニ付キ情

他宗派交渉・興正寺派別立之件其一 興正寺派別立之件其二

實酌量ノ上教部省へ添願相成候處本月十三日別紙之通御達相成候條此段相達候事

(別紙)

真宗本願寺住職

大教正 大谷 光尊

今般其末寺興正寺別立ノ儀ニ付キ申出ノ趣モ有之依テ別紙ノ通興正寺住職權大教正華園攝信へ相達候條此旨爲心得相達候事

教部大輔 穴 戸 璣

真宗本願寺末

興正寺住職

權大教正 華園 攝信

今般本寺本願寺卜協議ノ上別立ノ儀願出開届候條此旨相達候事

教務大輔 穴 戸 磯

他宗派交渉・興正寺派卜定約之件

○興正寺派卜定約之件 (明治十年十一月)

(號外 遼書)

去ル明治九年中興正寺別派之際同寺へ從屬ノ末寺員數不取調之廉有之候ニ付キ昨三十一日更ニ於飛雲閣兩山會盟之上別紙條約書交換候條此段爲心得相違候事

末寺僧侶中

(別紙)

條約

去ル明治九年七月興正寺別派申立之際從屬末寺員數取調不行届ノ廉有之同年十月別派許可之後屢往復討議ニ及ヒ今般本願寺興正寺之間ニ於テ左之條約相結ヒ候條向後兩山共此條約ヲ遵守シ決シテ異論有之間敷候事

第一條

- 京都府下 十三ヶ寺
- 大阪府下 四ヶ寺
- 兵庫縣下 十五ヶ寺
- 滋賀縣下 五ヶ寺
- 和歌山縣下 三ヶ寺
- 高知縣下 十ヶ寺
- 愛媛縣下 七十七ヶ寺

堺縣下 五十二ヶ寺  
(寺號略ス以下同シ)

右百七十九箇寺ハ去ル明治九年七月興正寺別派之際從屬相成候寺名ニ付改メテ茲ニ記載ス

第二條

- 堺縣下 二ヶ寺
- 京都府下 一ヶ寺

右三箇寺ハ本願寺ニ可屬末寺ニ候處先般興正寺別派申立ノ際誤テ同寺從屬ノ部ニ届出相成候ニ付今般改テ本願寺末寺ノ部ニ收入致候事

第三條

- 堺縣下 五ヶ寺
- 愛媛縣下 一ヶ寺

右六箇寺ハ先般興正寺ヨリ從屬寺名届出ノ部ニ相成候得共到底從屬清願ニ付今般改メテ興正寺從屬末寺之部ニ相加候事

第四條

- 愛媛縣下 三ヶ寺
- 京都府下 一ヶ寺
- 滋賀縣下 三ヶ寺
- 堺縣下 二十七ヶ寺

本願寺住職

大教正大谷光尊代理

中教正 日野澤依

興正寺住職

大教正 華岡攝信

本願寺興正寺末寺區分之儀コ付今般別紙之通兩山法主殿御盟約相成候ニ付テハ兩山寺務役員之者謹テ之ヲ遵守シ決シテ異議申立間敷候依テ爲後證連署交換候也

本願寺

二等執事 香川 葆晃

二等錄事 幡山 敦圓

五等錄事 内田 了讓

興正寺

三級出仕 佐々木 淨天

兼大錄事 千葉 攝行

中錄事 楠 乘願

他宗派交渉・興正寺派卜定約之件

明治十年十月三十一日

右之條々兩山協議之上固ク致盟約候條後證之爲各捺印致交換候也

致間敷候事

可申無謂轉權申出候者ハ各山末寺ニ於テ決シテ受理

糺シ轉權可致事故明瞭之者ニ限リ各山熟議之上取計

ノ儀申立候共決シテ轉派出入之儀受理致間敷候事

第六條 各山末寺檀徒之者向後轉權願出候時ハ情實取

糺シ轉權可致事故明瞭之者ニ限リ各山熟議之上取計

ノ儀申立候共決シテ轉派出入之儀受理致間敷候事

第七條 宗規綱領第六編第三款第八條之意旨ニ基キ今

後同盟各派末徒之内宗規背犯等之事故有之僧侶該派

本山ヨリ懲戒相加ヘ或ハ擯斥候者該人ヨリ何等ノ口

實ヲ以テ庇護依頼申出候共右ハ各派ノ權利ヲ相妨候

儀ニ付決シテ受理致間敷候事

右之條々兩山協議之上固ク致盟約候條後證之爲各捺印

致交換候也

他宗派交渉・山元派ト協約交換之件

○山元派ト協約交換之件 (大正二年八月)

(甲達第十八號)

今般山元派ト別紙ノ通り協約交換候條爲心得此段相達ス

(別紙) 協約書

兩派本山ニ於テ益交誼ヲ全セン爲メ兩山委員連署協定ノ條件左ノ如シ文中ニ甲、乙、兩派 文字ハ兩派相互ノ呼稱トス

第一條 甲派ノ末寺乙派ニ轉屬センコトヲ願出ツルモ乙派ハ之ヲ受理スヘカラス

第二條 甲派ノ僧侶又ハ檀家ニシテ乙派ニ轉屬センコトヲ願出ルモ甲派ノ同意ヲ得ルニアラサレハ之ヲ許可スヘカラス

第三條 甲派ニ於テ僧侶ヲ擯斥セラレ又ハ自己ノ希望ニヨリ歸俗シタル者乙派ニ得度ヲ願出ルモ乙派ハ之ヲ許可スルコトヲ得ス

右ニ就キ兩派本山ハ其僧侶ノ擯斥並ニ歸俗者ヲ其都度互ニ通知スヘン

第四條 教師、教師試補及是等ニ補セラレヘキ資格ハ兩派相互ニ其轉屬ニ際シ相當資格ニ對配スヘシ

附帶契約

一、兩派ノ法主ハ他ノ一派ノ末寺及檀徒ノ懇請ニ應シ法要ヲ親修シ又ハ巡教ヲ爲スヲ得但シ其都度兩山ノ協議ヲ經ヘキモノトス

以上

右協約書ニ通テ作成シ兩派委員調印ノ上本日ヲ以テ交換了スルモノナリ

大正二年八月十八日

真宗本願寺派協約締結委員

執行 大洲 鐵 也 團

真宗本願寺派協約締結委員

執行所 贊事長 原田 了 哲 團

真宗山元派協約締結委員

補事 法水 智 教 團

他宗派交渉・出雲寺派ト締約之件

第五條 甲派ノ僧侶ニシテ教師以上ノ者ハ乙派ノ末寺ノ招聘ニ應ジテ布教ヲ爲スヲ得但シ所屬本山若クハ地方事務所ノ證明ヲ添ヘ布教セントスル地方事務所若クハ其本山ニ届出ツヘシ

第六條 前條ノ布教ニシテ兩派ノ交誼ヲ害シ又ハ其派ノ施設ヲ妨クルノ嫌アルトキハ兩派本山ハ早ク其事實ヲ認メタル方ヨリ直ニ其布教ヲ停止シ所屬本山ハ他ノ一派ノ要求ニヨリ相當ノ處分ヲナスヘシ

第七條 兩派ノ僧侶ハ相互ニ兩派ノ學校ニ入學シ其派ノ僧侶ト同等ノ取扱ヲ受クルコトヲ得

第八條 甲派ノ僧侶ハ乙派ノ本山、別院及末寺ノ法要ニ參勤スルコトヲ得但シ着席ハ特ニ定メタル座席ニ由ル可シ

第九條 甲派ノ本山ハ必要ニ應ジ乙派ノ教師以上ノ僧侶ヲ其本山ノ承認ヲ經テ事務學事布教ニ從事セシムル爲メ任用スルコトヲ得

第十條 本協約ハ交換ノ日ヨリ效力ヲ生ジ其日ヨリ起算シテ滿五ヶ年間有效トス右期限ニ至リ兩派ノ一方カ廢約又ハ更改ノ意思ヲ通知シタルトキハ效力ヲ消滅シ然ラサル時ハ更ニ五ヶ年間有效トス爾後ノ期限ニ違セシ時亦同シ

○出雲寺派ト締約之件 (明治十四年六月)

(達書番外)

各府縣下

末寺僧侶中

今般出雲寺派ト別紙之通定約交換相成候條爲心得此段相達候事

(別紙)

定約書

兩派本山ニ於テ自今交誼ヲ全センカ爲兩山執事連署定約スル條件如左

第一條 甲派末寺ニシテ住職檀家協議ノ上一寺擧テ乙派ニ改轉セント願出ルモ互ニ之ヲ受理スヘカラス

第二條 甲派本山ニ於テ師命背反等ノ事故アリテ擯斥ヲ受シモノ或ハ好テ歸俗シ乙派ニ得度願出ルモ兩派互ニ受理スヘカラス但シ擯斥又ハ歸俗ヲ許諾スルノ都度甲派ヨリ乙派ニ通知スヘキモノトス

第三條 甲派本山ニ於テ得度スルモノ乙派ニ移轉願出ルコトアレハ兩派本山ニ於テ照會ノ上之ヲ受理スヘシ

第四條 前條ノ定約ヲ遵守履行シ若シ他日訂正ヲ要スル時ハ兩派本山協議ヲ遂クヘキモノトス

他宗派交渉・誠照寺派ト定約之件

右之條々兩山協議ノ上固ク致約盟條後證之爲捺印致交換候也

眞宗本願寺派  
本願寺執行  
權大教正 近松 攝眞  
眞宗出雲寺派  
毫攝寺執事  
權少講義 藤季了寛

明治十四年  
五月十三日

○誠照寺派ト定約之件

(明治十四年六月  
達書番外)

先般誠照寺派ト別紙之通定約交換相成候條爲心得此段相達候事

各府縣下  
末寺僧侶中

(別紙)

定約書

兩派本山ニ於テ自今交誼ヲ全センカ爲兩山執事連署定約スル條件如左  
第一條 甲派末寺ニシテ住職擅家協議ノ上一寺ヲ舉テ乙派ニ改轉セント願出ルモ互ニ之ヲ受理スヘカラス  
第二條 甲派本山ニ於テ師命背反ノ事故アリテ擅斥ヲ受ルモノ或ハ好テ歸俗シ乙派ヘ得度願出ルモノ兩派互ニ之ヲ受理スヘカラス但シ擅斥又ハ歸俗ヲ許諾スルノ都度甲派ヨリ乙派ニ通知スヘキモノトス  
第三條 甲派本山ニ於テ得度スルモノ乙派ニ移轉願出ル事アレハ兩派本山ニ於テ照會ノ上之ヲ受理スヘシ  
第四條 前條ノ定約ヲ遵守履行シ若シ他日訂正ヲ要スル時ハ兩派本山協議ヲ遂クヘキモノトス

眞宗本願寺派

本願寺住職

眞宗誠照寺派

誠照寺住職

明治十年三月

大教正 大谷 光 尊

今般前書之通兩山法主殿御盟約相成候ニ付テハ兩山寺

○佛光寺派ト定約之件

(明治十四年十二月  
達書番外)

今般佛光寺派ト別紙之通定約交換相成候條爲心得此段相達候事

(別紙)

他宗派交渉・佛光寺派ト定約之件

各府縣下

末寺僧侶中

定約書

兩派本山ニ於テ自今交誼ヲ全センカ爲兩山執事連署定約スル條件如左  
第一條 甲派末寺ニシテ住職擅家協議ノ上一寺舉テ乙派ニ改轉セント願出ルモ互ニ之ヲ受理スヘカラス  
第二條 甲派本山ニ於テ師命背反等ノ事故アリテ擅斥ヲ受ケシモノ或ハ好テ歸俗シ乙派ヘ得度願出ルモノ兩派互ニ受理スヘカラス但シ擅斥又ハ歸俗ヲ許諾スルノ都度甲派ヨリ乙派ヘ通知スヘキモノトス  
第三條 甲派本山ニ於テ得度スルモノ乙派ニ移轉願出ルコトアレハ兩派本山ニ於テ照會ノ上之ヲ受理スヘシ  
第四條 前條ノ定約ヲ遵守履行シ若シ他日訂正ヲ要スル時ハ兩派本山協議ヲ遂クヘキモノトス  
右之條々兩山協議ノ上固ク致約盟條後證之爲捺印致交換候也

眞宗本願寺派

本願寺執行

眞宗佛光寺派

佛光寺執事補

明治十四年

十二月六日

權少教正 長谷川 楚 敦

他宗派交渉・大谷派ト締約之件

權中教正 奥 有 讓

○大谷派ト締約之件 (明治十五年十月)

(甲 番 外)

末寺僧侶中

今般東本願寺ト別紙之通締約交換相成候條此段相違候事

(別紙)

第一章

明治十五年三月二十二日内務省ヨリ兩寺へ御達ノ件々ハ永ク之ヲ確守スヘキ事

第二章

榮譽ニ關シ或ハ名望ニ涉ル等ノ事ニ付政府ニ請願セントスルトキハ必ス前以テ協議ヲ經ヘキ事

第三章

同寺副執事

少教正 小早川大船

同寺二級出仕

權少教正 大谷勝珍

宗規綱領ヲ改定セントスルトキハ必ス協議スヘキ事

第四章

兩派ノ教徒互ニ相競テ宗教擴張スヘキハ勿論ナリト雖モ其ノ功ヲ我一派ニ專ラニセン爲ニ他ノ一派ノ障礙ヲナスカ如キハ大ニ宗門ノ本旨ニ背ク堅ク之ヲ制止スヘキ事

右内務省御達書ノ旨趣ヲ體シ締盟結約スルトコト斯ノ如シ自今以後相共ニ之ヲ確守シ益和親ヲ本トスヘシ依ツテ爰ニ兩寺執行連署捺印シテ各一本ヲ藏スル者也

明治十五年九月二十一日

本願寺執行

中教正 日野澤依

權中教正 大洲鐵然

少教正 赤松連城

少教正 香川藻見

權少教正 長谷川楚教

權少教正 石原僧宣

東本願寺執綱

中教正 大谷勝綠

同寺執事

權中教正 長 圓立

○兩山立會末寺取扱規約 (明治十九年七月)

(丁 第一 號)

過ル明治十一年七月兩山立會末寺取扱規約相違置候處

今般兩山協議ノ上別紙ノ通り改定候條此段相違候事

(別紙)

兩山立會末寺取扱規約

第一條 本尊並ニ祖師眞影及皇太子七高祖ノ影像ハ必ス兩派協議ノ上許可スヘキモノトシ前住上人ノ影像ハ必ス兩派法主ノ影像ヲ安置セシムヘキ者トス

他宗派交渉・立兩山會末寺取扱規約

第二條 寺檀協議ノ上境内持添地及堂宇等賣拂或ハ新築移轉等ニ付地方廳へ願出之節ハ必ス兩派本山ヨリ添書ヲ附スヘキ者トス

第三條 得度ハ兩派本山ニ出願セシメ正副住職タラシムヘキ見据ノモノニ限リ一代ハ甲派一代ハ乙派ニ於テ許可スヘシ其他ノ衆徒ハ甲乙兩派ヲ問ハス願人ノ請願ニ任セ許可スヘシ但シ衆徒ノ増減ハ其都度住職ヨリ詳細兩派へ届出ヘシ

第四條 教師ハ必ス得度ヲ許セシニ派管長ヨリ申付ヘシ但シ托鉢願ノ儀モ本條ニ準ス

第五條 住職進退ハ兩山ニ於テ該願書ヲ受理シ調査ノ上差支ナキモノハ甲派(試驗ヲ行フ)ヨリ乙派へ通知シ兩山各自ニ定規書式ノ辭令書ヲ授與スヘシ但シ試驗ハ一代ハ甲派ニ於テ一代ハ乙派ニ於テス

第六條 住職申付ノ際ハ兩派管長殿御連署ニテ其御届書ヲ地方廳へ差出スモノトス但シ兼務出願ノ際ハ前條及本條ノ手續ヲナスモノトス

第七條 堂班昇進並ニ繼席ハ必ス兩派へ出願シ許可ヲ請フモノトス

第八條 兩派ニ關スル冥加禮金等ハ都テ定規ノ半額宛チ兩派へ納ムヘシ



他宗派交渉・兩派末徒住職教師轉派取扱規約

第九條 凡諸願何等其ノ事故ノ兩派本山ニ互ルト否トニ拘ラス必ス組長連署奥印シ兩派本山ニ差出スヘシ  
第十條 寺院明細帳ハ兩派ニ收メ各一般末寺ノ分ニ加フ

第十一條 住職及衆徒一派内ノ規則ニ背ク事アラハ處分ノ後故事願末ヲ直ニ通知スヘシ若シ宗制寺法ニ違スルコトアラハ必ス兩派協議ノ上之ヲ處分スヘシ  
第十二條 所管ノ府縣ヨリ照會等ノ事アルトキハ兩派協議ノ上回答スヘシ

第十三條 從前立會道場ト稱スル者其兩派本山ニ於テ已ニ寺號ヲ付スルト否トニ關セス實際寺院トシテ存スヘキ者ハ都テ兩派ヨリ所管ノ府縣ヘ寺院通稱ノ儀ヲ申立之ヲ立會末寺ニ加フヘシ  
第十四條 前條ノ外臨時非常ノ事ハ都テ協議ノ上處分スヘシ

○兩派末徒住職教師轉派取扱規約

(明治二十九年六月甲達第二十八號)

末寺 一般

今般別記之通兩山末徒及住職教師轉派取扱規約相結候條爲心得此段相達ス

兩山末徒住職及教師轉派取扱規約

第一條 兩山末徒ニシテ教師若ハ入位以上補任者及明治二十八年十二月以前ヨリ現ニ正副住職(非教師副住職及教師試補正副住職ヲ除ク)タル者兩派何レヨリ轉スルモ無試験ニテ相互對配ノ取扱ヲナスヘキモノトス

第二條 兩山末徒ニシテ左項ノ一ニ該當スル者兩派何レヨリ轉スルモ相互對配ノ住職ヲ許可スヘシ  
一、非教師副住職  
一、教師試補正副住職

第三條 前二條外ノ者ト雖モ兩山教校學歴上教師ニ補セラルヘキ資格アル者ハ相互同様ノ取扱ヲ爲スヘシ  
第四條 本規約ハスヘテ兩山ノ證明ニ依リテ之カ取扱ヒチナスヘシ

○大谷派ト協和之件

其一 (明治二十二年三月) 訓告第一號

末寺 一般

大谷派本山ト交際ノ儀ハ從來協同和合致來候ヘ共方今ノ形勢最モ協力ヲ要シ相互ニ彼我ノ隔意ヲ離レ協和親密以テ力ヲ教門ニ盡スヘキ時機ニ候ヘハ大法主殿ニ於カセラレテモ向後尙一層兩山ノ交誼ヲ厚クシ和親ノ實

他宗派交渉・大谷派ト協和之件其一 大谷派ト協和之件其二

○大谷派ト協和之件

其二 (明治三十八年六月) 訓告第三號

門末 一般

本月二十一日大谷派大法主親シク本山へ御來訪遊ハサレ時局ノ推移ト宗門ノ前途ニ對シ深ク考ル所アリ自今兩派彌ヨ親善シ同心戮力以テ宗門ノ面目ヲ發展スヘキ機運ヲ失ハス唇齒輔車ノ情ヲ以テ提携スヘキ旨御懇話遊ハサレ我大法主御同意ノ旨御答遊ハサレ候條門末一同尊旨ヲ奉體シ苟クモ門派的感情ノ障壁ヲ去リ専ラ宗門ノ開揚ニ努メ二諦躬行ノ實ヲ顯ハサンコトヲ期スヘシ尊旨ニヨリ茲ニ訓告ス

右規約書二通ヲ製シテ兩山交換シ向後此規約ニ依リテ兩山末徒住職教師ノ轉派ヲ取扱フモノトス

本願寺

明治二十九年

執行長 日野澤 依

六月十八日

東本願寺

執事 渥美 契 縁

他宗派交渉・他派法主招請ニ關スル件 他宗僧侶歸參ニ關スル件

○他派法主招請ニ關スル件(明治十一年三月) (達書第三十八號)

末寺僧侶中

他派ノ法主各府縣下へ巡回等ノ節本派内ノ寺院へ招請致候儀不相成候條此段相違相候事

○眞宗各派協和並立教開宗記念法要期日之件(大正十二年八月) (調告第三號)

眞宗各派本山協和ニ關シ別記之通り聯合諭達ヲ發布相成候條宜シク此旨ヲ體認シ益々協和ノ實ヲ揚グルコトヲ期セラルヘシ

(別記) 聯合諭達

曩ニ立教開宗七百年記念ノタメ眞宗十派協和會ヲ組織シ各派本山相提携シテ共通ノ事件ヲ處辨シ彌々祖風ノ宣揚ニ努メ國家社會ニ貢獻セムコトヲ企圖セシトコロ法要ハ希觀ノ盛儀ヲ以テ修了シ(高田派本山ハ大正十三年修行)各派ノ事業ハ逐時ソノ歩ヲ進メントス此秋ニアタリソノ聯合ヲ繼續シ共同ノ行動ヲ進ムルコトハ最モ必要ヲ感スルトコロナリ依テ自今毎年四月十五日ヲ以テ本山並ニ末寺ニ於テ一座ノ法要ヲ修シ永ク開宗ノ洪恩ニ報イントス各寺住職宜クコノ趣旨ヲ服膺シ以テ協和ノ實ヲ揚グルニ勉メララルヘシ  
大正十二年八月五日  
本願寺派執行 原田了哲  
大谷派寺務總長 阿部惠水

○他宗僧侶歸參ニ關スル件

(明治二十三年十二月) (教示第三三號)

他宗ノ僧侶ニシテ本寺へ改宗歸參スルトキハ時宜ニ依リテ特ニ法蘭ヲ授ク

大谷派寺務總長 阿部惠水

他宗派交渉・眞宗各派協和並立教開宗記念法要期日之件

- 高田派執事 加藤忍殿
- 佛光寺派執事 佐々木良祐
- 興正派總務 越智敏雄
- 木邊派執事事務取扱 高田善達
- 出雲路派執事 藤光雲
- 山元派執事 藤堂智順
- 誠照寺派執事 波多野源耀
- 三門徒派執事 烏津鷺峰

○大谷派寺務總長 阿部惠水

大谷派寺務總長 阿部惠水

婦人會・青年會・佛教婦人會聯合本部規則  
婦人、青年會

○佛教婦人會聯合本部規則

(明治四十四年八月) 大正 五、四  
(甲教示第三十三號) 大正 三、六

- 第一條 佛教婦人會聯合本部ハ法主夫人總裁ノ下ニ派内婦人會並ニ女子青年會ヲ統轄ス
- 第二條 婦人會並ニ女子青年會ノ發展ニ資スル爲メ本部ニ於テ適當ノ事業ヲ經營ス
- 第三條 婦人會並ニ女子青年會獎勵並ニ法義引立ノ爲メ毎年各地ヘ布教使ヲ派遣ス
- 第四條 本部ニ左ノ職員ヲ置ク  
 本部長 一名  
 次長 一名又ハ二名  
 主事 一名  
 書記 若干名  
 評議員 若干名
- 第五條 本部ノ事務ハ執行所教務部ニ於テ之ヲ行フ
- 第六條 主事ハ贊事名簿登錄者中ヨリ之ヲ任命シ諸般ノ計畫立案等ノ事ヲ掌ル

- 第七條 録事及書記ハ上職ノ指揮ヲ承ケ雜務ニ從事ス
  - 第八條 評議員ハ重要事項ノ諮問ニ應ス
  - 第九條 各教區教務所ニ教區本部ヲ置キ各組ニ支部ヲ置ク
  - 第十條 各教區ニ左ノ職員ヲ置ク  
 監督 一名  
 補事 若干名
  - 第十一條 監督ハ聯合本部ノ指揮ヲ承ケ教區内婦人會並ニ女子青年會ニ關スル事務ヲ掌ル
  - 第十二條 補事ハ監督ノ指揮ヲ承ケ組内婦人會並ニ女子青年會ニ關スル事務ヲ掌ル
  - 第十三條 各地方婦人會ニ左ノ職員ヲ置ク  
 事務擔當 若干名  
 加談 若干名
  - 第十四條 事務擔當ハ其所管婦人會並ニ女子青年會ニ於ケル一切ノ事務ヲ處理ス
  - 第十五條 加談ハ其所屬婦人會並ニ女子青年會ニ於ケル事務ノ諮問ニ應シ助勢ヲ爲ス
- 附則  
本教示ハ發布ノ日ヨリ施行ス

婦人會・青年會・佛教婦人會聯合本部規則

○佛教婦人會準則(大正五年四月) 大正 二、四  
(甲達第十一號)

- 第一條 本會ハ本願寺派本願寺佛教婦人會聯合本部ニ隸屬シ何佛教婦人會ト稱シ何地ニ置ク本會ニハ分會ヲ設クル事ヲ得但シ分會規定ハ別ニ之ヲ定ム
- 第二條 本會ノ目的ハ二諦ノ教義ヲ開信シ貞淑ノ婦徳ヲ養成シ國家ト宗教ニ關シ婦人ノ本分ヲ盡シ二世ノ幸福ヲ全フスルニ在リ
- 第三條 本會ハ前條ノ目的ヲ達セン爲メニ宗教道德教育衛生經濟等ノ講話演說教等ヲ開催シ之ニ伴フ事業ヲ爲ス
- 第四條 本會ハ年齡又ハ境遇等ニ應シ適宜會員ノ分類ヲ分チ教化ノ徹底ヲ期ス
- 第五條 本會會員ハ婦人ニシテ左ノ三種トス  
 一、名譽會員 寺院坊守又ハ地方ニ德望アル婦人  
 二、特別會員 十ヶ年間毎年金壹圓貳拾錢ヲ納ル者又ハ一時金拾圓ヲ納ムル者  
 三、正會員 十ヶ年間毎年金六拾錢ヲ納ル者又ハ一時金五圓ヲ納ムル者
- 第六條 男子ニシテ會務ヲ助ケ又ハ金品ヲ納ムル者ヲ贊助會員トス

- 第七條 本會ハ幹事並ニ贊助會員ヨリ評議員ヲ選ビ重要事件ヲ協議ス
- 第八條 退會者及除名者ノ既納金ハ之ヲ返還セス
- 第九條 入會ノ拒絕及會員ノ除名ハ評議員會ニ於テ議決シ其理由ハ之ヲ告知セス
- 第十條 本會ニ左ノ職員ヲ置ク  
 會長 一名 (婦人)  
 副會長 若干名 (婦人)  
 幹事 若干名 (婦人)  
 評議員 二名 (男子若クハ婦人)
- 第十一條 會長ハ本會ヲ代表シ會務ヲ總理シ役員任免ノ手續ヲ爲ス
- 第十二條 副會長ハ常ニ會長ヲ輔佐シ會長事故アル時ハ其職務ヲ代理ス
- 第十三條 幹事ハ會長ノ旨ヲ承ケ會務ヲ處理ス
- 第十四條 計理ハ金錢物品ノ出納及會計ニ關スル事務ヲ處理ス
- 第十五條 本會ハ毎年一回若クハ二回通常總會ヲ開キ會長必要ト認ムル時ハ臨時總會ヲ開ク
- 第十六條 本會ハ毎年一回會員死亡者ノ爲メ追弔法會ヲ修行ス
- 第十七條 本會ノ爲メ特ニ功績アル者ニハ男女ヲ論ゼ

婦人會・青年會・佛教婦人會準則 佛教女子青年會準則

ス本部所定ノ有功章ヲ贈與ス  
 第十五條 本會各種會員ニハ本部所定ノ會員章ヲ交付ス  
 第十六條 會長ハ毎年度ニ於ケル事務成績表並ニ現在會員ヲ調査シ事務擔當ヲ經テ一月末日限リ本部ニ報告スルモノトス  
 第十七條 本會ハ本部ニ對シ所定ノ義務金ヲ納付スルモノトス

○佛教女子青年會準則 (大正十三年八月) (甲達第十三號)

第一條 本會ハ本派本願寺佛教婦人會聯合本部ニ屬シ……佛教女子青年會ト稱シ事務所ヲ……ニ置ク  
 第二條 本會ハ理知ト信念トニ基ケル女子ノ德操ヲ涵養シ人生相互ノ幸福ヲ期スルヲ以テ要綱トス  
 要綱  
 一、家庭ノ淨化

○佛教青年會概則 (明治四十年六月) (甲達第二十二號)

第一條 佛教青年會ノ規則ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ  
 一名稱 一位置 一目的  
 一事業 一會員 一役員  
 一職制 一統緒 一會計  
 第二條 本會ハ何々佛教青年會ト稱シ何々地ニ置ク本會ニハ分會ヲ設ルコトヲ得  
 第三條 本會ノ目的ハ二諦ノ教義ヲ聞信シ道念ヲ養成シ國家ト宗教ニ對シ信徒ノ本分ヲ盡クシ二世ノ幸福ヲ全スルニ在リ  
 第四條 本會ハ前條ノ目的ヲ達センカ爲ニ宗教、道德教育、衛生、經濟等ノ講話、演說、說教等ヲ開催シ之ニ伴フ事業ヲ爲ス  
 第五條 本會ハ會員ヲ分チ正會員、特別會員、名譽會員ノ三種ニ分チ別記ノ徽章ヲ交付ス  
 正會員並ニ特別會員ハ年齢十五歳以上四十歳以下トス  
 會金完納ノ正會員ニハ徽章ニ青總ヲ、特別會員ニハ白總ヲ、名譽會員ニハ紫總ヲ附シ以テ終身會員タルコトヲ證ス

婦人會・青年會・佛教青年會概則

二、社會ノ潔清  
 三、女性教育ノ完成  
 四、女性關係ノ事業ノ促進  
 第三條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク  
 理事 若干名(女子)  
 會計 若干名(女子)

但ノ地方ノ事情ニヨリ會長制度トスルモ妨ケナシ  
 第四條 本會ハ毎月一回以上例會ヲ開キ講演、講話等隨時修養上必須ナル催シヲナス  
 第五條 本會ハ毎年……回總會ヲ開キ重要案件ヲ議ス尙必要ニ應シ臨時總會ヲ開クコトヲ得  
 第六條 本會會費其他金錢物品ニ關スル事ハ總會又ハ例會ニ於テ議定ス  
 第七條 本會會員ハ年齢三十五歳未満トス  
 第八條 本會會員ニシテ規定ノ年齢ヲ超ヘタルモノハ佛教婦人會會員ニ編入ス  
 第九條 本會會員ニハ實費ヲ以テ本部所定ノ會員章ヲ交付ス  
 第十條 本會會則ハ總會ノ決議ニヨリ更改スル事ヲ得

終身會員ハ何レノ地ニ在ルモ其資格ヲ有ス  
 第六條 本會ハ本派連枝ヲ總裁ニ推戴ス

(別記) 徽章圖面



下リ藤浮模樣 古代劍形 直徑七分二厘



「佛教青年會 特別會員章」 浮文字

正會員ハ銀色、特別會員並ニ名譽會員ハ金色トス  
 第七條 本會ノ役員ハ會長、加談、幹事、錄事、評議員等ヲ置キ以テ一切ノ會務ヲ評議處理ス

婦人會・青年會・佛教青年會概則 佛教青年會聯合本部規則

第八條 本會ハ各分會ヲ統轄ス

第九條 本會ノ會計ハ會金ヲ以テ支辨シ各支部ハ各地ニ獨立ス其支途左ノ如シ

十分ノ五 事業費

十分ノ三 基本金

十分ノ二 經常費

○佛教青年會聯合本部規則

(明治四十三年四月 大正二二、四 甲達第十五號)

第一條 佛教青年會聯合本部ハ各佛教青年會ノ統轄聯絡監督獎勵等ノ事ヲ掌ル

第二條 本部ニ左ノ職員ヲ置ク

本部長 一名

次長 一名又ハ二名

主事 一名

錄事 若干名

書記 若干名

第三條 本部ノ事務ハ執行所教務部ニ於テ行フ

第四條 主事ハ贊事名簿登錄者中ヨリ任命シ諸般ノ計畫立案等ノ事ヲ掌ル

第五條 錄事及書記ハ上職ノ指揮ヲ受ケ雜務ニ從事ス

第六條 各地方青年會ニ左ノ職員ヲ置ク

事務擔當 若干名

加談 若干名

第七條 事務擔當ハ其所管青年會ニ於ケル一切ノ事務ヲ處理ス

第八條 加談ハ其所屬青年會ニ於ケル事務ノ諮問ニ應シ助勢ヲ爲ス

○佛教青年會々々旗制定之件 (大正十四年六月 甲達第二十號)

今般佛教青年會々々旗別記之通相定ム

(別記) 佛教青年會々々旗(圖面)



(寸八尺二尺曲)

(曲尺 二尺二寸)

地色 古代紫 紋章 下リ藤、菊崩シ(紋白)

房 金茶 竿頭 下リ藤金蒔繪 竿 千段卷

婦人會・青年會・佛教青年會々々旗制定之件

願

記

願記取扱注意○巡讚○私記嘆徳文○院  
 房庵號○堂班衣體○免物諸冥加○上座  
 及本一甲種特別衣體御禮◎得度願◎改  
 名願届○改姓届◎所屬寺轉換○度牒再  
 請○衆徒轉屬◎教師教師試補○教士◎  
 住職及兼務○寺院移轉○寺院創立再興  
 復舊○御影自影○再建改築○寺號並木  
 佛安置○二物願○教會講社設立及職員  
 ○托鉢  
 ◎注意 ◎印ノ分ハ願記用紙ヲ本山又ハ教務所ヨ  
 リ交付ス一種類毎ニ參錢切手ヲ封入請求ノ事  
 願記ハ必ス教務所ヲ經由スルコト  
 二物願ハ本二以上ノ末寺支坊ヘモ許可セラル

願記

○門末諸願伺届取扱ニ關スル注意

一 組長ハ門末ヨリ本山へ差出ス諸願伺届ニ就キ正確ニ調査ヲ遂ケ差支ナシト認メタルトキハ左ノ書式ニ依リ奥書シ教務所經由本山へ進達スヘシ

(書式)

願ニ對スル奥書

前記ノ通相違無之ニ付御許可相成度候也  
(奥印仕候也)

何々組々長 何

某◎

伺ニ對スル奥書

前記ノ通伺出候條何分ノ御指令相成度候也

何々組々長 何

某◎

届ニ對スル奥書

前記ノ通相違無之ニ付奥印仕候也

何々組々長 何

某◎

一 組長ニ於テ諸願伺届ニ關シ差支アリト認ムルトキハ奥書セス別ニ意見書ヲ添付スヘシ

一 門末ヨリ本山へ差出ス願(辭令又ハ許狀等)ノ下付ナ

願記・門末諸願伺届取扱ニ關スル注意

クシテ指令ヲ要スルモノハ二通)又ハ届書ハ一通トシ伺書ハ二通差出サシムヘシ

一 御添書願ノ件ハ凡テ御添書願一通ニ官廳宛願書二通ヲ添付セシムヘシ

一 官廳宛願書ニ其宛名(長官ノ姓名)記載ナキトキハ御添書下付相成ラサルニ依リ右宛名記載漏レナキ様願人へ注意スヘシ

一 末寺僧侶ノ諸願ニ對シテハ其寺又ハ本人ノ三季教育補充費元護持會金其他御香儀等義務金納否ヲ調査シ若シ未納アルトキハ願書進達ニ先チ本山へ納金セシムヘシ

一 組長ハ門末ノ願伺届ニ對シ手数料ヲ徴收スルコトヲ得ス但シ之ヲ徴スルノ必要アルトキハ組内ノ協議ヲ經テ本山ノ認可ヲ受ケヘキモノトス

一 左ニ列記スル諸願届ニ對シテハ組長ハ其願届ニ要スル條件及書式ニ違ハサル様整備セシメタル上本山へ進達スヘシ

願記・巡讃願之件

○巡讃願之件 大正二一六

一 永代内陣本座二等以上ノ正副住職又ハ前任住職ノ願ニ依リ巡讃差許サレ白衣(緞子、紗綾、紗、無紋精好)着許可セラル

但シ本座二等ハ離紋ヲ許サス

一 左記期日ハ巡讃御許可ナキヲ以テ出願者ハノ心得ニテ上京セラレヘシ

二日、十四日、十六日、十八日

御歴代御祥月命日並ニ讚佛會中

一 巡讃出願ノ者ハ本人上京左記願書ヲ差出シ御禮金並ニ衣體冥加金ヲ上納スヘシ

但シ巡讃出願ノ者ニシテ御堂年頭出勤ヤサリシ者ハ巡讃願ニ先チ御堂出勤願出ツヘシ

(書式)

巡 讃 願

一堂 班 何々

一初代巡讃(又ハ何代目巡讃)

今般巡讃御許可被成下度此段奉願候也

何府市町  
何縣郡村

年月日 何寺正副住職前任住職

(組長管事奥書スルコト)

執行御中

御堂出勤願

何府市町  
何縣郡村

何組何寺住職

某◎

一堂 班 何々

一教師教師試補何年月日又ハ舊教職何年月日

私儀今般上京仕候ニ付何月何日ヨリ御堂出勤仕度候條御許可被成下度此段奉願候也

年月日

執行御中

年頭慶賀願

何府市町  
何縣郡村

何組何寺住職

某◎

一堂 班 何々

○巡讃御禮金取扱之件 (明治三十一年九月局達第九十二號)

巡讃願取扱之件ニ關シ左ノ通被定候條此段相達ス

一 明治十一年三月六日以前巡讃許可之寺院ハ自今代々御禮金ヲ要セス白衣ヲ冥加ノミニテ之レヲ許可ス

一 明治十一年三月六日以前准巡讃許可ノ寺院ハ自今代々内陣上座一等ノ巡讃御禮金ノ半額即左ノ通ニテ許可ス

初代 御禮金拾貳圓五拾錢

二代 御禮金六圓貳拾五錢

三代以下代々二代御禮金ニ同シ

願記・巡讃御禮金取扱之件 巡讃御禮金

一前項ニ抵觸スル從前之何指令ハ廢止ス

以上

○巡讃御禮金

一内陣本座二等住職初代巡讃ノ御禮ハ

金參百圓

同二代目ノ御禮ハ

金壹百五拾圓

同三代目以後代々ノ御禮ハ

金貳拾五圓

一内陣本座一等住職初代巡讃ノ御禮ハ

金壹百五拾圓

同二代目ノ御禮ハ

金七拾五圓

同三代目以後代々ノ御禮ハ

金貳拾五圓

一内陣上座二等住職初代巡讃ノ御禮ハ

金五拾圓



願記・私記嘆徳文傳授願之件

- 同二代目ノ御禮ハ  
金貳拾五圓
- 同三代目以後代々ノ御禮ハ  
金拾貳圓五拾錢
- 一内陣上座一等住職初代巡讃ノ御禮ハ  
金貳拾五圓
- 同二代目ノ御禮ハ  
金拾貳圓五拾錢
- 同三代目以後代々ノ御禮ハ  
金七圓五拾錢
- 但シ別格寺住職ノ巡讃御禮金ハ従前ノ例ニヨル
- 一巡讃ノ人数ニ加ヘラレタル者ハ白衣(緞子、紗綾、紗、無紋精好)著用ヲ許サル
- 但シ本座二等ハ離紋ヲ許サス
- 一冥加金七圓五拾錢納ムヘシ

○私記嘆徳文傳授願之件

- 一巡讃許可済ノ者ハ願ニ依リ私記嘆徳文傳授セララル
  - 一私記嘆徳文傳授出願ノ者ハ本人上京左記願書ヲ差出スヘシ
- (書式)
- 私記嘆徳文傳授願
- 一堂 班 何々
- 一巡 讃 何年何月何日許可
- 今般私記嘆徳文傳授被成下度此段奉願候也
- 何府 市町  
何縣 郡村
- 何寺 正副住職前住職
- 何 某
- (組長管事與書スルコト)
- 執行 御 中

○私記嘆徳文傳授御禮金

一内陣本座二等以上正副住職ニシテ巡讃済ノ者私記嘆徳文ノ御傳授ヲ願フトキハ御禮金

初代	金參拾七圓七拾五	金百圓	金百貳拾
二代以後	金拾貳圓	金五拾圓	金七拾五圓
上座壹等	上座貳等	本座一等	本座二等

- 初代御傳授ノ者ハ私記嘆徳文御授與ノ事但シ冥加金貳拾五圓納ムヘシ
- 注意
- 一、私記嘆徳文初代御傳授ノ節ハ御禮金ノ外ニ御軸代金貳拾五圓ヲ要ス
- 一、二代目以後ハ御軸拜受希望ノ者ニ限り御軸代ヲ要ス

○院(庵)號願之件

一堂班内陣本座二等以上ノ正副前住職ハ死後、院號依願記・私記嘆徳文傳授御禮金

願許可セララル

- 一内陣列座餘之間ノ正副前住職ハ死後、房號依願許可セララル
  - 一脇之間以下ノ正副前住職ハ死後、庵號依願許可セララル
  - 一院(庵)號出願ノ者ハ左記願書ト共ニ御禮金ヲ上納スヘシ
- (書式)

死後院(庵)號御授與願

何府 市町  
何縣 郡村

何寺 住 職(副住職)  
何寺 住 職(前住職)

何年何月何日死亡 何 某

右何某へ院號(房號)何々院(何々庵)ト御授與被成下度此段奉願候也

何寺 住 職(又ハ副住職)  
兼務住職

年月日 願主 何 某

(副住職又ハ兼務住職ナキトハキ法類ヨリ出願スヘシ)

願 記・院、房、庵號願之件 院、房、庵號御授與並ニ御染筆御禮金之件 堂班衣體願之件  
(組長管事與書スルコト)  
執行 御 中

○院、房、庵號御授與並ニ御染筆御禮金之件 (明治四十二年五月 甲達第二十八號)

院、房、庵號御授與並ニ御染筆御禮金自今別記之通り更改ス

追而本達示ニ牒觸スル從前ノ御禮金内規ハ總テ之ヲ廢ス

(別記)

- 院、房、庵號御授與御禮金内規
- 一、脇之間以下正副前住職死後庵號拜受御禮金ハ金五拾圓
- 一、餘之間内陣列座正副前住職死後房號拜受御禮金ハ金五拾圓

○堂班衣體願之件

- 一、内陣本座二等級以上上座一等級迄正副前住職死後院號拜受御禮金ハ金壹百圓
- 以上御染筆御禮金 金五拾圓
- 門徒信徒死後御染筆院號法名拜受ノ御禮金ハ金壹百圓
- 一、永代堂班昇進願ハ住職ノ有無ニ拘ハラズ一般末寺ニ差許サル
- 一、代(中)住職)堂班願ハ正副住職又ハ前住職ニ限り差許サレ其者存生中又ハ二代日相續者ノ願ニ依リ永代堂

願 記・堂班衣體願之件  
何府 市町  
何縣 郡村

- 班ニ差續許可セラル
- 一終身堂班願ハ住職衆徒ノ區別ナク派内一般僧侶ニ差許サル
- 一教師拜命ノ者ハ願ニ依リ教師對配衣體トシテ外陣列座又ハ脇之間衣體着用許可セラル
- 一終身堂班並ニ教師等ノ對配ニテ許可ノ一代堂班ハ永代ニ差續クコトヲ得ス
- 一衆徒ノ所屬寺堂班衣體願ハ後住職候補者一名ニ限り差許サル
- 一堂班衣體出願ノ者ハ冥加表ニ基キ冥加金ヲ上納スヘシ
- 一無住寺ノ永代堂班ヲ除ク外堂班願ハ堂班冥加ト共ニ必ス衣體冥加ヲ上納スヘシ
- 一後住看据者ニ限り所屬中堂班ヲ出願スルコトヲ得一堂班衣體願書式ノ如シ

(書式)

堂 班 願  
今般堂班(永代一代)何々ニ昇進仕度候條御許可被成下度此段奉願候也

年月日 何寺正副住職前住職又ハ衆徒 何 某◎  
(永代堂班ハ檀家總代ヨリ出願スル事ヲ得)  
執行 御 中

衣 體 願  
一何々堂班(通常)特別依體  
一教師對配外陣列座又ハ脇之間衣體  
右衣體着用御許可被成下度此段奉願候也  
年月日 何府 市町 何縣 郡村  
何 寺 住 職(副住職前住) 職又ハ衆徒) 某◎  
(組長管事與書スルコト)  
執行 御 中

所屬寺堂班衣體願(長男衣體ノコト)  
私儀明治十六年甲達第五號御達ノ趣旨ニ基キ今般所屬寺堂班何々衣體着用御許可被成下度此段奉願候也  
何府 市町 何縣 郡村  
何 寺 衆 徒

願記・所屬中堂班願之件

年月日 (本人) 何 某<sup>㊦</sup>  
 右寺住職(又ハ兼務住職) 何 某<sup>㊦</sup>  
 (無住ナレハ法類ノミ連署スルコト)  
 何府市町 何 某<sup>㊦</sup>  
 何縣郡村 何 某<sup>㊦</sup>  
 何寺住職 何 某<sup>㊦</sup>  
 法類 何 某<sup>㊦</sup>  
 何府市町 何 某<sup>㊦</sup>  
 何縣郡村 何 某<sup>㊦</sup>  
 檀家總代 何 某<sup>㊦</sup>  
 (檀家總代三名以上連署スルコト)  
 (組長管事與書スルコト)  
 執行御中

○所屬中堂班願之件

所屬中堂班願  
 何府市町 何 某<sup>㊦</sup>  
 何縣郡村 何 某<sup>㊦</sup>  
 何寺衆徒 何 某<sup>㊦</sup>  
 右本人 何 某<sup>㊦</sup>  
 右寺住職 何 某<sup>㊦</sup>  
 何府市町 何 某<sup>㊦</sup>  
 何縣郡村 何 某<sup>㊦</sup>  
 何寺住職 何 某<sup>㊦</sup>  
 法類 何 某<sup>㊦</sup>  
 何府市町 何 某<sup>㊦</sup>  
 何縣郡村 何 某<sup>㊦</sup>  
 檀家總代 何 某<sup>㊦</sup>  
 (檀家總代三名以上連署スルコト)  
 (組長管事與書スルコト)  
 執行御中

私儀右寺所屬中堂班何々ニ昇進仕度候條御許可被成下  
 度此段奉願候也  
 年月日

○上座一等甲種特別衣體御禮金

内陣上座一等甲種特別衣體  
 初代 金參千五百圓  
 二代 金貳千貳百圓  
 三代以後 金壹千貳百圓  
 (大正七年三月) 大正一〇、一一  
 (甲達第六號)

○上座二等本座一等甲種特別衣體御禮金

内陣上座二等甲種特別衣體  
 初代 金壹千參百圓  
 二代 金八百五拾圓  
 三代以後 金五百圓  
 内陣本座一等甲種特別衣體  
 願記・上座一等甲種特別衣體御禮金 上座二等本座一等甲種特別衣體御禮金 免物諸冥加之件

初代 金五百圓  
 二代 金參百五拾圓  
 三代以後 金貳百五拾圓

○免物諸冥加之件

(大正五年六月) 大正五、九、一〇、一一、一二  
 (甲達第十五號) 同九、八、二、三、一、二

○太子七高僧

寺院免物冥加表  
 綾表具 壹百貳拾圓  
 金襴表具 壹百八拾圓

○御開山様御影

三番形綾 九拾圓  
 同 金襴 壹百貳拾圓  
 二番形綾 壹百圓  
 同 金襴 壹百四拾圓

願記・免物諸冥加之件

一番形綾 壹百拾圓  
 同 金襴 壹百六拾圓  
 右同斷無圖  
 綾表具 壹百八拾圓  
 金襴表具 貳百貳拾圓  
 但シ脇之間以下ハ二番形迄許可サル餘之間以上ハ何レモ差支ナシ

○誣號御影

宗祖大師中宗大師各壹幅  
 三番形金襴 壹百四拾圓  
 二番形金襴 壹百六拾圓  
 一番形金襴 壹百八拾圓  
 宗祖大師無圖金襴 貳百五拾圓  
 但從前三番形御開山様御影ヲ拜受セスシテ直ニ二番形已上若クハ宗祖大師御影ヲ出願スルトキハ別冥加トシテ金貳拾圓ヲ要シ速如上人御影ヲ拜受セスシテ直ニ中宗大師御影ヲ出願スルトキハ別冥加トシテ金拾圓ヲ要ス脇之間以下ヨリ二番三番ノ誣號御影ヲ出願スルトキハ増冥加金拾圓ヲ要ス

○特別一番形眞向御影

四百五拾圓

○御繪傳

常雲綾 貳百六拾圓  
 同 金襴 參百圓  
 青黛雲綾 貳百八拾圓  
 同 金襴 參百貳拾圓  
 紺青雲綾 參百圓  
 同 金襴 參百八拾圓  
 紺青雲裏箔金襴 四百五拾圓  
 右出願ノ節從前御傳鈔拜受セサルモノハ必ス同時ニ出願スヘシ  
 冥加金拾五圓ヲ要ス

○御歷代御影

四番形綾 五拾圓  
 同 金襴 七拾圓  
 三番形綾 六拾五圓  
 同 金襴 八拾圓  
 四番形蓮黑衣綾 六拾五圓  
 同 金襴 七拾五圓

○明如上人御影

三番形蓮黑衣綾 七拾圓  
 同 金襴 八拾圓

○御歷代連座御影

四番形綾 六拾五圓  
 同 金襴 七拾五圓  
 三番形綾 七拾圓  
 同 金襴 九拾圓  
 二番形金襴 壹百貳拾圓

前各項出願之御影寄進人五十名迄増冥加一名ニ付金五拾錢宛

○自影

黑衣黑袈裟 五拾五圓  
 黑衣袈裟附 七拾圓  
 色衣 七拾五圓

願記・免物諸冥加之件

金紋縁金紋五條袈裟等堂班已外ノ特別衣體着用品ノ自影ハ増冥加金拾圓

御染筆九字尊號下付冥加表		寸法金軸共		冥加金(各尊號)	
二寸	總縁紺地雲風 中縁白地紅紋 麻桐模様	横一尺二寸 縦四寸六分	五十代	五拾圓	
三寸	同	横一尺七寸 縦七寸	百代	五拾圓	
四寸	同	横一尺一寸 縦二尺七寸	二百代	五拾圓	
五寸	同	横一尺三寸 縦三尺三寸	三百代	壹百圓	
七寸	同	横一尺六寸 縦四尺六寸	五百代	壹百圓	
中品	同	横二尺七寸 縦六尺七寸	一貫代	壹百五拾圓	
大品	同	横二尺六寸 縦六尺八寸六分	三番形	貳百圓	

追テ從來脇之間以下ハ許可ノ中品尊號ハ右表中ノ中品ニ改正ス

○餘之間以上ハ許可

大品六字九字尊號各壹幅 貳百圓  
 金襴表具 貳百圓



願記・免物諸冥加之件

五寸形 貳拾圓  
 六寸形 貳拾六圓  
 七寸形 參拾圓  
 三寸五分形明如上人ハ下付セラレズ

○宗祖大師號御影

二寸形 拾貳圓  
 三寸形 拾六圓  
 四寸形 貳拾八圓  
 五寸形 七拾圓

○小形雙幅御繪傳

一 等 壹百六拾圓  
 二 等 貳百圓  
 御傳鈔拜受セサルモノハ同時ニ願出ツヘシ

○諸講中並ニ長御印章拜受ノ同行中へ許可  
四番形御歴代御影但御開山様御影ヲ除ク

綾表具 六拾圓  
 金襴表具 八拾圓  
 木佛尊像御札 貳拾圓

○法如上人御眞筆判

御和讃御文章 參拾圓  
 正信偈和讃 參圓  
 同 小形並製 五圓  
 同 小形特製 四拾五圓  
 御文章五帖一部 拾圓  
 同 八ヶ條 貳圓  
 同 小形並製 參圓  
 同 特製 五圓

○御藏版物

教行信證 參圓五拾錢  
 七祖聖教 五圓  
 小本眞宗法要 八圓  
 龍谷梵唄集 壹圓六拾錢  
 標注三部經 壹圓  
 校點三部經一等 五圓  
 同 二等 四圓  
 御傳鈔 拾五圓  
 正信偈和讃 五圓  
 同 小本 壹圓貳拾錢

御文章五帖一部 貳拾圓  
 同 御加へ 四圓  
 同 薄葉小本合冊並製 參圓  
 同 特製 六圓  
 領解文 五拾錢  
 御裁斷御書 五拾錢  
 御遺訓御書 參圓  
 折紙法名 五拾錢  
 御判形絹地法名 參圓

(注意)

二寸形ハ五十年代、三寸形ハ百代、三寸五分形ハ百五十代、四寸形ハ二百代、五寸形ハ三百代、七寸形ハ五百代、一尺形ハ一貫代ノ事也  
 ○表具付仕立上ケ寸法(曲尺)大略  
 但シ金軸ヲ除ク

無圖形 豎九尺〇八分 横四尺  
 一番形 七尺七寸六分 三尺六寸  
 二番形 七尺一寸二分 二尺九寸  
 三番形 六尺八寸六分 二尺六寸  
 四番形 六尺三寸 二尺二寸  
 一尺形 六尺七寸 二尺一寸

願記・免物諸冥加之件

○爲替振替口座大阪三二二番等ニテ出願ノ節ハ左記  
目方ノ割合ヲ以テ書留小包料送納ノ事

御本尊二寸形 二十匁  
 同 三寸形 三十五匁  
 同 三寸五分形 六十匁  
 同 四寸形 六十五匁  
 同 五寸形 百五匁  
 同 七寸形 百七十匁

○小形御影  
 三寸壹幅入 六十五匁  
 同 貳幅入 八十五匁  
 三寸壹幅入 百五匁  
 同 貳幅入 百八十五匁  
 四寸壹幅入 百六十五匁

願記・免物諸冥加之件

- 同 貳幅入 二百五十匁
- 五寸壹幅入 二百四十匁
- 六寸壹幅入 三百四十匁
- 大本御文章壹部 五百五十匁
- 同八ヶ條壹部 二百七十匁
- 小本御文章壹部 九十五匁
- 小本御和讚壹部 三十二匁
- 大本御和讚壹部 二百二十匁
- 校點三部經壹部 二百四十匁
- 小形御繪傳雙幅 五百十匁
- 冥加引替郵送願出ノ向アルモ取扱セズ
- 御本尊小形御影木佛尊像御札ノ御裏法名申添願出ノ者ハ願主一名ニ限り冥加ヲ要セズ以上一名ヲ増ス毎ニ五拾錢ヲ要ス
- 御築筆尊號ノ下付ハ別ニ定ムル規定ニヨル
- 郵送願出ノ者ハ希望ノ御品ノ冥加ニ書留郵送料ナ同時ニ送金シ御品目並ニ願人ノ住所氏名ヲ明記セラレタシ
- 振替送金ノ場合ハ通信欄ニ希望ノ御品ヲ明記セラレタシ尙振替ハ多少着金ノ日數ヲ要ス
- 御下附濟ノ御品ハ何レノ場合タリトモ御取替願出ヲ

許サレズ

從來各寺門信徒ニシテ如何ハシキ町判物ノ御本尊其  
他御影ヲ崇敬スル向アルヤニ聽及ビ甚ダ遺憾ノ至リ  
ニ付特ニ二寸形綾ノ御本尊ヲ御制定アリ依テ之ガ趣  
意ノ貫徹ヲ期セラレタシ

書留小包料金表

目方	二百匁	四百匁	六百匁	八百匁	一貫	一貫二匁	一貫四匁	一貫六匁
内地	拾八錢	貳拾參錢	四拾五錢	六拾七錢	八拾九錢	九拾錢	九拾五錢	壹圓
臺灣	拾四錢	貳拾參錢	四拾五錢	六拾七錢	八拾九錢	九拾錢	九拾五錢	壹圓
朝鮮	拾五錢	貳拾參錢	四拾五錢	六拾七錢	八拾九錢	九拾錢	九拾五錢	壹圓

第一號表 (寺號公稱木佛安置冥加)

寺號公稱	金貳拾圓
木佛安置	金拾圓
木佛御札再下附	金五圓

第二號表 (得度ニ關スル冥加)

得度衣體	入籍料	三季冥加	合計
金貳拾五圓	金五圓	圓金參拾錢	金參拾圓參拾錢

第三號表 (教師并ニ教師試補ニ關スル教會金)

種別	教會金	住籍料	合計
教師	金參拾圓金五圓		金參拾五圓
教師試補	金參拾圓金五圓		金參拾五圓
教士	金參拾圓	○	金參拾圓
教師試補	金五拾圓	○	金五拾圓
補教師	金五拾圓	○	金五拾圓
舊試補ヨリ	金五圓	○	金五圓
教師申付	金五圓		金五圓

第四號表 (學階ニ關スル料金)

滿籍	金五圓	得業已上ノ有階者
得業	金五圓	
助教	金拾圓	
輔教	金貳拾圓	

願記・第一號表 第二號表 第三號表 第四號表

願記・第五號表

○第五號表(一代終身堂班并ニ衣體冥加)大正一〇、一一

堂班	終身昇進	通常衣體	特別衣體	合計
外陣列座	金五圓	金七圓	金參圓	金拾五圓
脇之間	金貳拾五圓	金拾五圓	金五圓	金四拾五圓
餘之間	金參拾五圓	金參拾圓	金拾圓	金七拾五圓
内陣列座	金六拾圓	金四拾五圓	金貳拾五圓	金百參拾圓
本座二等	金貳百圓	金六拾五圓	金參拾五圓	金參百圓
本座一等	金參百圓	金七拾五圓	金六拾五圓	金四百四拾圓
上座二等	金壹千圓	金百五拾圓	初代金壹千圓 二代金六百圓 三代以後金參百圓	
上座一等	金貳千五百圓	金貳百圓	初代金壹千圓 二代金八百圓 三代以後金四百圓	

(注意)

- 一、上座二等迄ハ永代(第六號表)一代及終身(第五號表)共超越昇進ノトキハ其次級以下ノ通常及特別衣體冥加ノ上納ヲ要セズ
- 一、上座一等ハ上座二等永代及特別衣體濟ミニ非レハ許可セズ
- 一、永代繼目出願ノ節ハ永代冥加ノ内ヨリ一代冥加ヲ減シタル差額ヲ上納セシム但シ特別衣體未許可ノ者ハ別ニ其冥加金ヲ納ムヘシ
- 一、終身堂班及褒賞例ニ依ルモノハ永代ニ差繼クコトヲ得ズ

願記・第六號表

○第六號表(永代堂班并ニ衣體冥加)大正一〇、一一

堂班	永代昇進	通常衣體	特別衣體	合計
外陣列座	金貳拾圓	金七圓	金參圓	金參拾圓
脇之間	金七拾圓	金拾五圓	金五圓	金九拾圓
餘之間	金壹百圓	金參拾圓	金拾圓	金百四拾圓
内陣列座	金貳百參拾圓	金四拾五圓	金貳拾五圓	金參百圓
本座二等	金五百圓	金六拾五圓	金參拾五圓	金六百圓
本座一等	金七百圓	金七拾五圓	金六拾五圓	金八百四拾圓
上座二等	金貳千圓	金百五拾圓	初代金壹千圓 二代金六百圓 三代以後金參百圓	
上座一等	金五千圓	金貳百圓	初代金壹千圓 二代金八百圓 三代以後金四百圓	



願記・第七號表

○第七號表

(大正十四年三月法度第一號)  
繼席并ニ通常特別甲種衣體冥加ノ區別

寺格	正住、轉	副住職	前住、副住	其寺正住繼席	通常衣體	特別衣體	甲種特別衣體
別格寺	金百圓	金五拾圓	金六拾圓	金貳百圓	○	○	○
上座一等	金八拾五圓	金四拾貳圓	金五拾壹圓	金貳百圓	○	○	○
上座二等	金六拾五圓	金參拾貳圓	金參拾九圓	金百五拾圓	○	○	○
本座一等	金五拾圓	金貳拾五圓	金參拾圓	金七拾五圓	○	○	○
本座二等	金四拾圓	金貳拾圓	金貳拾四圓	金六拾五圓	○	○	○
內陣列座	金參拾圓	金拾五圓	金拾八圓	金四拾五圓	○	○	○
餘之間	金貳拾圓	金拾圓	金拾貳圓	金參拾圓	○	○	○
臨之間	金拾五圓	金七拾圓	金九圓	金拾五圓	○	○	○
外陣列座	金拾圓	金五圓	金六圓	金七圓	○	○	○
平僧	金五圓	金貳拾圓	金參圓	○	○	○	○

(注意) (大正十年八月)  
(甲達第十七號)

- 一、上座二等以上正副住職ヲ出願スルトキハ繼席冥加並ニ通常衣體冥加ノ上納ヲ要ス
- 二、本座一等以下外陣列座迄正副住職出願スルトキハ繼席冥加並ニ通常特別衣體冥加ヲ併セテ納ムヘシ
- 三、平僧ハ繼席冥加並ニ特別衣體冥加ヲ納ムヘシ  
以下單ニ衣體トアルハ上座二等以上ハ通常衣體、本座一等以下外陣列座迄ハ通常衣體、特別衣體、平僧ハ通常衣體ヲ指ス
- 四、所屬寺堂班衣體ヲ出願スルトキハ衣體冥加ノミナハ繼席冥加ノミナムヘシ
- 五、所屬寺堂班衣體許可濟ノ者正副住職出願スルトキハ但シ甲寺所屬寺堂班衣體濟ノ衆徒ニシテ乙寺ノ正副住職出願スルトキハ其堂班甲乙兩寺共同堂班タリトモ轉換冥加並ニ繼席冥加衣體冥加ヲ併セテ納ムヘシ
- 六、甲寺衆徒ニシテ乙寺正副住職出願スルトキハ乙寺繼席冥加衣體並ニ轉換冥加ヲ納ムヘシ
- 七、轉住スルトキハ甲乙兩寺堂班上級下級ニ拘ラス其

願記・第八號表

○第八號表 (雜植類)

住職スヘキ寺格ノ繼席冥加衣體冥加ヲ納ムヘシ但シ住職スヘキ寺院ニ於テ一代堂班ヲナス場合ハ其堂班ニ相當スル繼席冥加ヲ納ムヘシ

八、終身堂班許可ノ者ニシテ正副住職又ハ轉住スルトキハ其住職スヘキ寺格力自己ノ堂班ヨリ上級ナルトキハ其寺格ノ繼席冥加並ニ衣體冥加ヲ納ムヘシ又自己ノ堂班ヨリ下級ナルトキハ其寺格ノ繼席冥加ノミナ納ムヘシ

轉屬	轉換	歸俗	二證	明願
金五拾圓	金貳拾圓	金參拾圓	金拾圓	金貳圓

願記・第八號表 教師對配衣體冥加

托鉢證牌	度牒再請替	籍袈裟再請	加印	許狀再請	教師並教師試補料	審査料	教師並教師試補料	教士受驗料	學階審査料	學階受驗料	布教使審査料	勅語御寫	講名	堂班疊袈裟	御添書	寺跡移轉	說教所新設
金參圓	金參圓	金參圓	金壹圓	金參圓	金貳拾圓	金貳拾圓	金拾圓	金貳拾圓	金拾圓	金拾圓	金貳拾圓	金拾圓	金拾圓	金五圓	金五拾圓	金五拾圓	金參拾圓

土地賣却	建物再築	寄附金募集	寺院創立再興復舊	建物修繕	改名其他
金拾圓	金五圓	金五圓	金五圓	金參圓	金參圓

○教師對配衣體冥加

配衣體對	通常	特別	合計
外陣列座	金七圓五拾錢	金壹圓五拾錢	金九圓
脇之間	金拾五圓	金參圓	金拾八圓

但シ外陣列座ヲ經テ脇之間衣體ヲ出願スルトキハ合計金貳拾五圓五拾錢上納スヘシ

○巡讚御禮金

初代	上座一等	上座二等	本座一等	本座二等
金貳拾五圓	金五拾圓	金百五拾圓	金參百圓	金貳拾五圓
二代	金拾貳圓	金貳拾五圓	金七拾五圓	金百五拾圓
三代	金七圓五	金拾貳圓	金貳拾五圓	金貳拾五圓

永代本座二等以上ノ正副前住職ハ願ニ依リ巡讚差許サル

巡讚代數ニ加ヘラレタル者ハ白素絹着用手許サル冥加金七圓五拾錢

明治十一年三月六日以前巡讚許可ノ寺院ハ自今代々御禮金ヲ要セス衣體冥加ノミニテ許可サル

前同日以前准巡讚許可ノ寺院ハ自今代々上座一等ノ半額御禮金上納ヲ要ス

○私記嘆徳文御傳授御禮金

初代	上座一等	上座二等	本座一等	本座二等
金參拾七圓七拾五	金七拾五圓	金百圓	金百貳拾五圓	金百圓
二代	金拾貳圓	金五拾圓	金七拾五圓	金百圓

私記嘆徳文ノ御傳授ヲ願フ者ハ巡讚濟ノ者ニ限ル

初代御傳授ノ者ハ私記嘆徳文御傳授與ニ付御軸代金貳拾五圓ヲ要ス

二代目以後ハ御軸拜受希望ノ者ニ限リ右御軸代ヲ要ス

○大谷墓地下付冥加金

- 一、特別墓地一基分(三尺四方)ニ付金壹百圓
  - 一、普通墓地一基分(同)ニ付金五拾圓
- 但シ特別墓地ハ一基ヲ増ス毎ニ金拾圓ヲ、普通墓地ハ一基ヲ増ス毎ニ金五圓ノ増冥加ヲ要ス

願記・巡讚御禮金 私記嘆徳文御傳授御禮金

大谷墓地下付冥加金

○院、房、庵號拜受御禮金

前住之間以下正副	金五拾圓
餘之間、內陣列座正	金五拾圓
副前住職死後房號	金壹百圓
本座二等以上上座一等迄	金壹百圓
正副前住職死後院號	金壹百圓
以上御染筆御禮金	金五拾圓

願記・院、房、庵號拜受御禮金 御消息御禮金 得度願之件

○得度願之件

得度願(用紙へ交付ス)

何府市町何番地

何縣郡村何番地

戸主又ハ何某何男

何 某

何年何月何日生

私儀本宗教法ニ從事仕度候ニ付

一何府市町何寺衆徒ニ御差加

一法名何何(二字名)ト御授與

得度御許可被成下度此段願上候也

年月日 右本人 何 某

何府市町

何縣郡村

何寺住職、兼務住職

何 某

前記ノ通相違無之候條御許可相成度候也

右差支無之候條及進達候也

何教區管事 何 某

○御消息御禮金

御代筆	金五拾圓以上
御眞筆御寫	金百圓以上
御巧	金貳百圓以上

- 一派内何學校何年級修了済
- 一組長事務所ニ於テ試験通暢済
- 一本山ニ於テ受験希望
- 執行御中

○得度願ニ關スル注意(大正一〇、六、九號)

- 一本願書面相當欄ニ必要事項ヲ記シ不必要ノ文字ハ必ス抹消ノ上捺印セラルヘシ
- 一所屬寺住職兼務共ニナキ時ハ左ノ通り法類連署スヘシ

右所屬寺何寺無住ニ付

何府市町何寺住職

何縣郡村何寺住職

法類 何 某

一本願書面戸主又ハノ下ニハ何某何男庶子等ト記入スヘキコト

一本願書ノ外ニ得度誓約書、戸籍謄本、身元證明書各壹通ヲ添付セラルヘシ

一御式日ハ二、三、四、五、六、八、九、十一、十二ノ各月ハ十六日ニシテ十月ハ十八日ナリ一月七月ハ行ハセラレス

一願人ハ年齢十歳以上ニテ本山又ハ組長ニ於テ七祖聖

願記・得度願之件

教句讀、領解文講案ノ試験ニ合格シタルモノタルコト但シ派内中學校專修學院一年級以上終了ノモノハ試験ヲ要セス

一得度冥加貳拾五圓、入籍料五圓、三季冥加參拾錢計參拾圓參拾錢ニテ所屬寺義務金全部完納ヲ要ス

一願人ハ御式日ヨリ遅クモ五日以前ニ必ス願書ヲ本山ニ郵送シ三日以前ニ出頭セラルヘシ

一法名ニ左ノ文字ヲ許可セラレス

親、聲、光、瑞、明、鏡、淨、如、照

一俗名ト異ニスル法名授與ヲ出願スルモノハ得度願ト同時ニ改名御添書願ヲ提出セラルヘシ

一不具者ニアラサル者

一身元證明書ヲ添付ヘキコト

願記・改名願之件

○改名願之件

一派内僧侶ニシテ戸籍上法名ニアラサル者ハ凡テ諸願ヲ取扱ハレサル規定ニ付得度許可ヲ受ケタル後直チニ左記改名御添書願一通ニ地方廳宛改名願書二通並ニ冥加金參圓相添へ御添書ヲ申受ケ地方廳ニ願出ツヘキコト

改名御添書願(用紙ハ交付ス)

私儀別紙ノ通り改名ノ儀地方廳ニ出願致度候條御添書御下附被成下度此段願上候也

何府市町  
何縣郡村

何寺衆徒

年月日

何 某

別記ノ通り相違無之ニ付奥印仕候也

何教區組長 何

某

右差支無之條條及進達候也

何教區管事 何

某

執行御中

改名願(用紙ハ交付ス)

何府市町何番地何屋敷華士族平民  
何縣郡村

戸主(又ハ何某何男)

(本人) 何 某

(法名ハ朱書スヘシ) 法名 何

私儀從來何々ノ名稱ニ候處何年何月何日眞宗本願寺派本山本願寺ニ於テ得度致シ法名何々ト授與セラレ候ニ就テハ宗規ニ依リ今般右法名ニ改名致度候條御許可被成下度管長添書ヲ以テ此段願上候也

年月日

右(本人) 何 某

(本人戸主ニアラサルトキハ左記ノ通り戸主連署スヘシ)

何府市町何番地何屋敷華士族平民

右戸主 何 某

(市區町村長奥書)

府知事又ハ市町村長姓名宛

(右府縣知事又ハ市町村長ノ姓名記載ナキハ御添書下附相成ラサルニ付其姓名書漏サ、ル様注意スヘシ)

○改名届之件

一地方廳ヨリ改名許可ヲ受ケタルトキハ其許可指令本紙又ハ改名ノ年月日ヲ證スヘキ戸籍抄本ニ度牒ヲ添へ左記書式ノ通り本山へ届出ラレシ

改名届(用紙ハ交付ス)

私儀從來何々ノ名稱ニ候處何年何月何日地方廳ノ許可ヲ得テ法名何々ト改名致候條條記録訂正度牒裏書被成下度別紙戸籍抄本相添へ此段御届仕候也

何府市町  
何縣郡村

何寺衆徒

年月日

何 某

前記ノ通り相違無之ニ付奥印仕候也

何教區組長 何

某

右差支無之條條及進達候也

何教區管事 何

某

執行御中

願記・改名届之件 改姓届之件

○改姓届之件

一改姓セシ者ハ改姓ノ年月日ヲ證スヘキ戸籍抄本(又ハ本抄)並ニ度牒相添左記ノ通り本山へ届出ツヘシ

改姓届

私儀從來何々姓ニ有之候處何年何月何日何々ト改姓致候條條記録訂正度牒裏書被成下度別紙戸籍抄本(又ハ抄本)相添此段御届仕候也

何府市町  
何縣郡村

何寺衆徒

年月日

何 某

(組長及管事ヲ經由スルコト)

執行御中

願記・所屬寺轉換願之件

度牒再請願之件

一派内甲寺ヨリ乙寺ニ僧籍ヲ轉換セント欲スル者ハ願書ニ本人ノ度牒並ニ冥加金貳拾圓相添ヘ左記書式ノ通り願出ツヘシ

所屬寺轉換ト同時ニ改姓手續ヲ要スル向ハ必ス改姓届ヲ添附セラルヘシ

所屬寺轉換願(用紙ハ交付ス) 私儀今般縣市町何寺衆徒ニ轉換致度候條御許可ノ上度牒裏書被成下度此段願上候也

何府市町 何縣郡村

何寺衆徒

年月日

(右本人) 何

某團

右寺住職

(甲寺住職) 何

某團

何府市町 何縣郡村

何寺住職

(乙寺住職) 何

某團

前記ノ通り相違無之候條御許可相成度候也

何教區組長 何

某團

右差支無之候條及進達候也 何教區組長 何 某團

何教區管事 何 某團

何教區管事 何 某團

○度牒再請願之件

一度牒水火盜難等ニ罹リタルトキハ冥加金參圓相添ヘ左記ノ通り度牒ノ再下付ヲ出願スルコトヲ得

一度牒裏書ヲ要スル願書提出ニ當リ度牒所持ナキ者ハ必ス度牒再請出願スヘキコト

(書式)

度牒再請願

私儀何年月何日得度被差許度牒御下附相成候處何々(水火盜難等ノ事故)ニ付格別ノ御證議ヲ以テ今般更ニ御下附被成下度此段願上候也

何府市町 何縣郡村

何年月何日得度

何年月何日生

何

何年月何日生

今般府市町何寺衆徒ニ轉屬致度候間御差問無之候ハ、御聞届之上度牒御下附被成下度仍テ何派聞濟指

令本紙相添此段願上候也

年月日

右 何 某團

何府市町 何縣郡村

何寺住職

(本派所屬寺) 何 某團

何府市町 何縣郡村

何寺住職

法類 何 某團

(組長及管事ヲ經由スルコト)

執行御中

一本派ヨリ他派ヘ轉屬セント欲スル者ハ左記轉屬願書ニ度牒並ニ冥加金五拾圓相添願出ツヘシ 但シ正副住職タル者他派ヘ轉屬出願ノ節ハ必ス同時ニ退職願書ヲ差出スヘシ

○衆徒轉屬願之件

一他派ヨリ本派ヘ轉屬セント欲スル者ハ左記轉屬願書ニ前所屬派ノ聞濟指令本紙得度日時證明書並ニ戶籍謄本(又ハ)冥加金五拾圓參拾錢相添ヘ願出ツ可シ 一他派ヨリ轉屬セシ者ニシテ俗名ノ者ハ速ニ法名ニ改名ノ爲メ御添書願出ツヘシ(改名御添書願ノ手續ハ前ニアリ)

(書式)(他派ヨリ本派ニ轉スル書式)

轉屬願

何府市町 何縣郡村

何派何寺衆徒

願記・衆徒轉屬願之件

願記・衆徒轉願之件

(書式) (本派ヨリ他派ニ轉スル書式)

轉 屬 願

何府市町  
何縣郡村

何寺衆徒

何 某

何年何月何日生

今般(何々事故)ニ依リ何府市町何派何寺ノ衆徒ニ轉  
屬致度候條御差岡無之候ハ、該派本山へ御照會之上御  
聞届被成下度依テ度牒相添へ此段願上候也

年月日

右

何 某

右寺住職(又ハ兼務住職)

(所屬寺住職) 何 某

何府市町  
何縣郡村

何寺住職

法類 何 某

前記ノ通相違無之候ニ付奥印仕候也

右差支無之候條及進達候也

何教區組長

何 某

何教區管事

何 某

執行御中

退住職願又副住退職願

私儀今般(何々事故)ニ依リ何派何寺へ轉屬致度候ニ付  
退職御許可被成下度此段願上候也

何府市町  
何縣郡村

何寺住職

何 某

年月日

何府市町  
何縣郡村

何寺住職

法類 何 某

何府市町  
何縣郡村

檀家總代

何 某

(檀家總代三名以上連署スルコト)

前記ノ通り相違無之ニ付奥印仕候也

右差支無之候條及進達候也

何教區組長

何 某

執行御中

何教區管事 何 某

○教師教師試補薦舉ノ件

教師薦舉狀(用紙ハ交付ス)

何府市町  
何縣郡村

何寺衆徒住職

何 某

何年何月何日生

一學歷 何々

一教師試補拜命後滿十ヶ年以上自坊布教ニ勉メ功績有  
之右之者性行端正教導適任ノ者ニ付教師御申付被成  
下度此段薦舉仕候也

何府市町  
何縣郡村

何寺住職兼務住職

何 某

年月日

何府市町  
何縣郡村

何寺住職

法類 何 某

前記ノ通り相違無之ニ付奥印仕候也

右差支無之候條及進達候也

何教區何組長

何 某

願記・教師及教師試補薦舉ノ件

執行御中

何教區管事 何 某

教師試補薦舉狀(用紙ハ交付ス)

何府市町  
何縣郡村

何寺衆徒

何 某

何年何月何日生

一學歷 何々

右之者性行端正住職適任ノ者ニ付教師試補御申付被成  
下度此段薦舉仕候也

何府市町  
何縣郡村

何寺住職兼務住職

何 某

年月日

何府市町  
何縣郡村

何寺住職

法類 何 某

前記ノ通り相違無之ニ付奥印仕候也

右差支無之候條及進達候也

何教區何組長

何 某

願記・教師及教師試補薦舉ノ件

何教區管事 何

某團

執行御中

○教師及教師試補薦舉ニ關スル注意

- 一本願書用紙相當欄ニ必要事項ヲ記シ不必要ノ文字ハ必ス抹消ノ上捺印セラルヘシ
- 一被薦舉者住職ナレハ薦舉人二名共法類タルコト
- 一被薦舉者衆徒ナレハ薦舉人一名ハ所屬寺住職又ハ兼務住職一名ハ法類タルコト
- 一所屬寺無住ナレハ薦舉人二名共法類タルコト
- 一學歷ニハ何年何月何日何學校卒業又ハ何年何月何日認定又ハ試驗通暢等ノ事項ヲ記スヘキコト
- 一教師試補住職ニシテ滿十ヶ年以上自坊布教ニ勉メ功績アル者ヲ薦舉スル場合ハ別ニ學歷ヲ記スルニ及ハス
- 一薦舉狀ノ外ニ戶籍謄本又ハ抄本並ニ教會金參拾圓住籍料五圓(教師試補ヨリ教師ニ補セラル、者ハ教會金五拾圓)ヲ添へ差出サルヘシ履歷書ハ添付ニ及ハス
- 一認定出願者及受験者ハ薦舉狀戶籍抄本ノ外ニ左記難形ノ認定又ハ檢定願及履歷書ヲ添へ差出サルヘシ

教師(教師試補)認定(檢定)願

何府市町所屬寺

現住所

何 某

私儀教師(教師試補)無試驗認定(檢定試驗)相受度書類ヲ具シ此段相願候也

年月日

何 某團

執行御中

一檢定料ハ金拾圓認定審査料ハ金貳拾圓ニ付願書ト共ニ納付ノコト

一檢定認定何レモ通暢ノ上ハ教會金住籍料上納ノ事

一檢定認定ノ期日ハ教海一瀾ヲ以テ廣告ス

一教師試補薦舉狀ハ必ス住職願ト同時ニ提出ノ事

○教師薦舉之件

- 一、教士試驗ハ毎年二、五、八、十一月四季ニ分チ本山ニ於テ施行スヘキニ付受験者ハ試驗期日ヨリ七日以前ニ教士薦舉狀並ニ受験料金拾圓ヲ携帶シ本山へ出願スヘシ
- 一、教士認定濟並ニ試驗及第者ハ教會金參拾圓ヲ添へ信奉式受式願ヲ差出スヘシ
- 一、受式期日ハ別ニ定メ教海一瀾ニ廣告ス
- 一、教士薦舉狀ニ具備スヘキ書類左ノ如シ  
(書式)

教士薦舉狀

原籍 何府市町番地戶主(又ハ戶主何)

所屬寺 何府市町何寺所屬

何 某

何年何月何日生

右之者品行端正性質溫良志操堅實身體強健ニシテ教士適任之者ニ付御調査之上教士御申付被成下度本人履歷書相添へ此段薦舉仕候也

何府市町

願記・教士薦舉之件

年月日

何寺住職

某團

何府市町

何寺住職

某團

(組長及管事ヲ經由スルコト)

執行御中

教士誓約狀

一終身教士ノ本分ヲ守リ勤學講演ニ從事可致事

一山命ニ隨順シ宗規ヲ紊亂致ス間敷事

一言行ヲ謹慎シ宗門ヲ汚辱致ス間敷事

右三箇條確ク相守リ可申依テ誓約狀差上候也

何府市町何番地 戶主(又ハ何某何女)

(本人)

何 某團

何府市町

所屬何寺住職

(保證人)

何 某團

何府市町

何縣郡村

願記・教士薦舉之件 教士女教士改姓名又ハ死亡届出ノ件

法類何寺住職

(保證人) 何

某◎

(本人戸主ニアラサルトキハ戸主ノ連署保證ヲ要スシ婦人ハ戸主ニアラサルトキハ戸主ノ同意ヲ要ス若シ戸主ナルトキハ最近親族ノ保證ヲ要ス)

執行御中

履歴書

一原籍 何府市町何番地華士族戸主(又ハ何某)

一所屬寺 何府市町何寺

一出生 何年何月何日生

一歸敬式 何年何月何日

一學歷 何々

一經歷 何々

一賞罰 何々

右之通相違無之候也

(本人) 何

某◎

所屬何寺住職

(保證人) 何

某◎

(本人戸主ニアラサルトキハ戸主ノ連署保證ヲ要ス)

戸籍謄本並ニ歸敬式ヲ受ケタル時ニ授與セラレタル法名一通必ス添付スヘシ

○教士女教士改姓名又ハ死亡届出ノ件

(大正十一年六月 甲達第二十號)

教士女教士ニシテ改姓名又ハ死亡シタルトキハ別記書式ニ仍リ届出ラルヘシ

(別記)

改姓(名)届

私儀從前何々姓(何々名)ニ有之候處何年何月何日何々ト改姓(改名)候條御記録訂正被成下度教士辭令並ニ戸籍謄本(又ハ抄本)相添へ此段御届仕候也

何府市町 何縣郡村

何寺所屬

某◎

年月日 教士(女教士) 何

○住職及兼務願之件

(甲號) 住職 願(用紙ハ交付ス)

何府市町 何縣郡村

何寺正副兼務住職

願記・教士女教士改姓名又ハ死亡届出ノ件 住職及兼務願之件

(組長管事經由ノコト) 執行御中

死亡届

何府市町 何縣郡村

何寺所屬

某◎

右者何年何月何日死亡致候ニ付別紙戸籍謄本(又ハ抄本)相添へ此段御届仕候也

右所屬寺住職

年月日

何

某◎

(組長管事經由ノコト) 執行御中

何 某

一無住ニ付

一何年何月何日死亡ニ付

一何々ニ依リ退職致度ニ付

一法務多端ニ付

右寺衆徒副前住職

某◎

該寺正副住職御申付 前記頭書ノ通り御許可被成下度此段願上候也

右寺正兼住職

年月日

何

某◎

何府市町 何縣郡村

何寺住職

某◎

何府市町 何縣郡村

檀家總代

某◎

何府市町 何縣郡村

檀家總代

某◎

何府市町 何縣郡村



願記・住職及兼務願之件

前記ノ通り相違無之ニ付御許可相成度候也  
 右差支無之候條及進達候也

執 行 御 中

(乙號) 住職願(用紙へ交付ス)

何府市町  
 何縣郡村  
 何寺正副兼務住職

一無住ニ付

一何年何月何日死亡ニ付

一何々ニ依リ退職致度ニ付

一法務多端ニ付

何府市町  
 何縣郡村  
 何寺衆徒正副前往職

一所屬寺轉換ノ上

右寺正副住職御申付

一右寺兼務住職御申付

前記頭書ノ通り御許可被成下度此段願上候也

何府市町

何縣郡村

何寺正副兼務住職

何府市町

何縣郡村

何寺住職

何府市町

何縣郡村

何府市町

何縣郡村

何府市町

何縣郡村

何府市町

何縣郡村

何寺住職

何府市町

何縣郡村

願記・住職及兼務願之件

前記ノ通り相違無之ニ付御許可相成度候也  
 右差支無之候條及進達候也

執 行 御 中

○住職願ニ就テ注意

一本願書用紙甲號ハ其寺所屬者ノ正副住職願ニ限リ適用シ乙號ハ他寺ヨリ轉任又ハ兼務願等チナス場合ニ適用スヘキモノトス

乙寺檀家總代 何 某◎

何府市町

乙寺檀家總代 何 某◎

何府市町

乙寺檀家總代 何 某◎

何府市町

何縣郡村

何寺住職

兼務承諾人 何 某◎

前記ノ通り相違無之ニ付御許可相成度候也

何教區何組長 何 某◎

何教區何組長 何 某◎

何教區何組長 何 某◎

何教區管事 何 某◎

何教區管事 何 某◎

何教區管事 何 某◎

何教區管事 何 某◎

一本願書面相當欄内ニ必要事項ヲ記シ不必要ノ箇所ハ必ス抹消シ捺印ノコト

一退職ノ理由ニハ老衰其他事項ヲ記入ノコト

一住職志願者ハ年齢滿二十一歳以上ノ者ニシテ教師又ハ教師試補ノ者タルコト

一正副住職願ニハ本人ノ戸籍抄本ヲ添付セラルヘシ履歴書ハ添付ニ及ハス

一甲寺ノ者カ乙寺ヘ轉スル場合ハ乙號用紙ニ依リ所屬寺轉換ノ上該寺正(副)住職御申付ト記シ甲寺住職又ハ兼務住職甲乙兩寺ノ法類並ニ甲乙兩寺檀家總代ノ連署甲乙兩組組長ノ與書ヲ要ス

一其寺所屬ノ者カ正副住職ト成ル場合ハ甲號用紙ニ依リ該寺住職又ハ兼務住職法類檀家總代ノ連署並ニ所轄組長ノ與書ヲ要スヘキモノトス

一兼務願ハ乙號用紙ニ依リ兼務者本人並ニ法類檀家總代ノ連署組長ノ與書ヲ要ス但シ兼務人カ他組ノモノナレハ該組組長ノ與書ヲ要ス

一無住寺ハ法類二名連署ノコト

一正副住職繼席衣體冥加ニ關スル注意ハ大正十一年一月九日甲達第一號ノ通り

願記・願記用紙交付ノ件 寺院創立再興復舊願之件

○願記用紙交付ノ件 (大正十年八月 甲達第十六號)

派内 一般

今般事務簡捷ヲ圖ル爲メ得度願改名願改名屆教師薦舉狀教師試補薦舉狀住職願所屬寺轉換願ノ用紙ヲ印刷ニ付シ本山庶務部及各教區教務所ニ備付置候條願人ハ所要ニ應シ參錢切手封入申出ツヘシ

○寺院創立再興復舊願之件

一現今寺院創立ハ鹿兒島縣、北海道及臺灣、朝鮮以外ノ地方ニ在リテハ格別ノ事由アルニアラサレハ許可相成ラス

一寺院創立再興復舊志願ノ者ハ御添書願一通、地方廳宛願書二通、附屬書類(明細書、建物設計書、境内敷地圖、建物圖面等)二通、並ニ冥加金五圓相添ヘ

御添書ヲ申受ケ地方廳ヘ出願スヘシ

一地方廳ニ於テ寺院創立再興復舊ヲ許可セラレタルトキハ其許可指令本紙相添ヘ寺號記入願並ニ木佛安置願ヲ差出スヘシ

一寺院創立再興復舊ハ地方廳許可ノ日ヨリ滿二年以内ニ建設セサルトキハ其許可ヲ取消サルヘシ

但シ工事巨大ニシテ數年ニ涉ルモノハ豫メ地方廳ヘ右期限ノ猶豫ヲ出願スヘシ

一地方廳ヘ差出スヘキ願書及附屬書類ハ地方廳ノ内規アルヘキニ依リ當該地方廳ノ指揮ヲ乞ヒ作成スヘシ

(書式)

寺院創立(又ハ再興復舊)御添書願

何府 市町 何縣 郡村

(創立又ハ再興復舊) 何 寺

今般別紙ノ通り右何寺創立(再興復舊)ノ儀地方廳ヘ出願致度候條寺號御許可ノ上御添書御下附被成下度此段願上候也

何府 市町 何縣 郡村

○寺院移轉願之件

一寺院移轉出願者ハ地方廳宛移轉願、移轉明細書、移轉先建物設計書、敷地及建物圖面等、各二通冥加金五拾圓相添ヘ御添書願出ツヘシ

願記・寺院再興復舊願之件 寺院移轉願之件

何 寺 住 職 (副住職又ハ兼務)

年 月 日 (豫約住職又ハ豫約兼務住職) 何 某◎

何府 市町 何縣 郡村

何 寺 住 職

法 類 何 某◎

何府 市町 何縣 郡村

信 徒 總 代 何 某◎

(信徒總代三名以上連署スルコト)

執行 御 中

一右許可ヲ受ケタルトキハ指令本紙相添ヘ其旨直ニ本山ヘ届出ツヘシ

一寺院移轉願御添書ハ移轉ヲ要スル理由明確ニシテ且ツ現在地及移轉先ノ雙方檀信徒法類ニ於テ更ニ支障ナキ事ヲ認メラルヘニアラサレハ下附相成ラス

一右御添書出願ニ當リ移轉先境内地其寺ノ所有ニアラサルトキハ移轉許可ノ後直ニ寺有名義ニ引直スヘキ旨ノ立證ヲ要ス

一地方廳ヨリ移轉許可ヲ受ケタル後其許可ノ日ヨリ滿二年以内ニ移轉ヲ了ハラサルトキハ地方廳ヨリ該移轉許可ヲ取消サルヘシ

但シ工事巨大ニシテ數年ニ涉ルモノハ豫メ地方廳ヘ右期限ノ猶豫ヲ出願スヘシ

一移轉ヲ了ハリタルトキハ直ニ地方廳及本山ヘ移轉後ノ明細帳ヲ差出スヘシ

(書式)

寺院移轉御添書願

何府 市町 何縣 郡村

何 組 何 寺

右寺維持上ノ都合ニ依リ今般何府 市町 何縣 郡村 何番地ヘ移轉

願記・寺院移轉願之件

ノ儀別紙ノ通り地方廳へ出願致度候條御添書御下附被成下度此段願上候也

年月日 右寺住職(又ハ兼務住職) 某◎

何府市町 何縣郡村 何寺住職 某◎

(現在地ノ法類) 何府市町 何縣郡村 檀家總代 某◎

(移轉先ノ法類) 何府市町 何縣郡村 何寺住職 法類何 某◎

(移轉先ノ信徒總代) 何府市町 何縣郡村 信徒總代 何 某◎

(信徒總代三名以上連署)

(組長及管事經由ノコト)

執行御中

一地方廳宛願書ハ其理由如何ニ依リ文書一定シ難キヲ以テ書式ヲ設ケス

但シ地方廳宛願書ニ連署スヘキ員數ハ前記御添書ノ例ニ同シ

移轉明細書(書式)

一移轉先ノ境内地 何坪 持主 何 某

但シ移轉御許可ノ上ハ別紙契約證ノ通り直チニ當寺ノ所有名義ニ切换可致候

一移轉先ノ建物

本堂 梁桁行 何何間

庫裏 梁桁行 何何間

鐘樓 梁桁行 何何間

門 梁桁行 何何間

一永續基本財産 金何百圓又ハ田畑山林何町何反何畝何歩

一ヶ年收入 米何石 信徒佛供米又ハ持添地取得米 金何圓 信徒懇志

代連署スルコト)

(組長及管事經由ノコト)

執行御中

○建物再建又ハ改築願等之件

一寺院建物ノ大部(本堂庫裏)燒失後滿五年以内ニ地方廳ノ許可ヲ得テ再建セサレハ廢寺處分ヲ受クヘキニ付右手續ヲ誤ラサル様注意スヘシ

但シ工事巨大又ハ其他ノ事情ニ依リ右期限内ニ落成シ難キトキハ豫メ地方廳へ延期出願スヘシ

一建物再建又ハ改築ヲ要スルトキハ地方廳宛再建願建築設計書並ニ建物圖面莫加金五圓相添へ御添書願出ツヘシ

(書式)

建物再建 改築御添書願

願記・建物再建又ハ改築願等之件

一移轉先檀家又ハ信徒 何戸又ハ何名  
一移轉費收支概算 一金何百圓也 移轉先境内買收費  
一金何百圓也 移轉先建物工事費  
一金何百圓也 移轉雜費  
右費金ハ檀信徒寄附金又ハ何々ヲ以テ支辨可致候  
一當寺現境内地ハ移轉後境外所有地トシテ保存又ハ何々  
一當寺現在ノ建物ハ移轉後賣却ノ上永續基本財産ニ編入又ハ何々  
右之通相違無之候也

年月日 何府市町 何縣郡村 何寺住職(又ハ兼務住職) 何 某◎

何府市町 何縣郡村 檀家(又ハ信徒)總代 何 某◎

(信徒總代三名連署ノコト) (現在及移轉先雙方ノ檀家又ハ信徒總

願記・建物再建又ハ改築願等之件 寺號記入並ニ木佛安置願之件

何府市町  
何縣郡村

何組 何 寺

右寺本堂又ハ庫裏何年何月何日焼失(流失)ニ付(又ハ大破ニ付)今般別紙ノ通り再建又ハ改築ノ儀地方廳へ出願致度候條御添書御下附被成下度此段願上候也

右寺住職(又ハ兼務住職)

年月日 何 某◎

何府市町  
何縣郡村

何寺住職 法類 何 某◎

何府市町  
何縣郡村

何寺住職 法類 何 某◎

何府市町  
何縣郡村

檀家總代 何 某◎

(檀家總代三名以上連署ノコト)  
(組長及管事經由ノコト)

執行 御中

一地方廳宛願書ハ其地方廳ノ内規アルヘキニ依リ一定ノ書式ヲ設ケ難シ尤モ地方廳宛願書ニ連署ノ員數ハ前記御添書願ノ例ニ同シ

一境内地變更、寺有地賣買、寺有地寄附、建物増築明細帳訂正等ニ關スル御添書願文例及連署者員數ハ前記再建御添書願ノ例ニ準スヘシ但シ冥加上納ヲ要ス但シ寺有地ノ賣却ハ道路敷地其他公共事業ノ爲メ又ハ萬止ミ難キ理由アルニアラサレハ詮議相成ラサルニ付キ此旨組長ニ於テ篤ト注意スヘシ

○寺號記入並ニ木佛安置願之件

一地方廳ニ於テ寺號公稱許可ノ上ハ直ニ冥加金拾圓相添へ左記書式ニ依リ御記録記入願差出スヘキコト  
(書式)

候也

右何寺住職

年月日 何 某◎

(新寺建立ノ節ハ豫約住職又ハ兼務住職調印)

何府市町  
何縣郡村

何寺住職 法類 何 某◎

何府市町  
何縣郡村

檀家總代 何 某◎

(檀家總代三名以上連署スルコト)

(組長及管事經由ノコト)

執行 御中

木佛安置願

何年何月何日木佛安置御許可相成候ニ付木佛安置御點檢ノ上御札御下附被成下度此段願上候也

何府市町  
何縣郡村

何寺住職(又ハ兼務住職) 何 某◎

年月日

某◎

今般木佛尊像御安置仕度候條御開届被成下度此段願上  
願記・木佛尊像御點檢願 御影自影願之件

何府市町  
何縣郡村

何組 何 寺

木佛安置願

(書式)

換(再下)出願スルコトヲ得

一木佛安置出願ノ者ハ冥加金拾圓相添へ左記木佛安置願ヲ差出シ其許可指令ヲ受ケ更ニ木佛尊像ヲ本山ニ供奉シ點檢出願シ御札下附ヲ請フヘシ

右寺寺號公稱ノ儀別紙指令ノ通地方廳ニ於テ許可相成候條御記録記入被成下度此段願上候也  
年月日

(以下署名捺印者ハ最初寺號公稱出願當時ノ通)

(組長及管事經由ノコト)

執行 御中

寺號記入願

何府市町  
何縣郡村

何組 何 寺